569-121
1200501517253
569
121
S

國際経済画報

第壱輯

大阪朝日新聞経済部編

國際經濟畫報

第一輯

大阪朝日新聞經濟部編

569-121

序

運輸、通信を含む所謂交通機關の飛躍的進歩は、吾等の經濟活動の範圍を著しく擴大して、現代經濟生活に『國際化』の特徴を烙印した。從來主として國内的、地方的に局限されてゐた我經濟市場は、今や全世界を單位とする『國際市場』へと展開しつゝある。吾々の着る木綿の値段が米國や印度の棉花の作柄に關係をもつのは餘りにも明白である。瓜哇の豐凶は恐らく吾々の台所における砂糖の値段を上下させるであらう。資本の國際的移動はいはずもがな。凡そ如何なる國民、如何なる政府も、今日ではその好むと好まざるとに拘らず、『國際經濟』の影響から自由であり得ない。隨つて吾々個人の經濟活動も、またこの國際經濟の理解を出發點としなければならない時勢になつて來た。

吾々が昨年夏以來、所謂『國際經濟』に關與しつゝある各國の主要な機關、人物、物産等の寫眞を聚集し、一々説明を添へてこれを大阪朝日新聞紙上に連載し來つたのも、この經濟事情の劃期時代に當つて、我國民一般の興味をこの新趨勢の理解に向はしめんことを企圖したからに外ならぬ。今その既載分約一百集の記事を增補し數字的記錄を出來得る限り新たにし、これに若干の新材料を加へてこゝに本書第一輯を刊行するに際し、再び吾等の念願を繰返しつゝこの書を吾等と關心を同うする人々に捧げたいと思ふ。

説明記事中の時日に關しては、なるべく具體的な年月を擧げたが、用語上「今日」「最近」等とある場合は、昭和三年（一九二八年）六七月を現在として考へて戴き度い。なほ寫眞聚集について各種の便宜を與へられた向に對して感謝の意を表します。

昭和三年九月朔日

大阪朝日新聞經濟部同人　誌

國際經濟書報 目次

一 國際經濟會議……2
二 英蘭銀行……4
三 佛蘭西銀行……6
四 獨乙帝國銀行……8
五 見えざる鐵壁……10
六 ロンドン證券取引所……12
七 ドイツチエ・バンク……14
八 セルフリッヂ百貨店……16
九 ベルリン取引所……18
一〇 ベルシアの油田……20
一一 パリ證券取引所……22
一二 ダラス棉花取引所……24
一三 マンチエスター運河……26
一四 巴里の百貨店……28
一五 滿洲大豆……30
一六 印度の日本紡績工場……32
一七 飛行機と木工……34
一八 ウエルトハイム百貨店……36
一九 シーアズ・ローバツク……38
二〇 フロリダの燐礦……40
二一 ロンドン造幣局……42
二二 英國炭坑夫聯合本部……44
二三 蘭領ボルネオのBPM……46
二四 ランカシアの織布業……48

二五 スイスのアルミ工場……50
二六 ローヌ化學工業……52
二七 ウイルソン・ダム……54
二八 フランスの財政……56
二九 電力時代……58
三〇 ル・クレデイ・リヨネ……60
三一 紐育株式取引所……62
三二 モルガン商會……64
三三 パリ商業會議所……66
三四 紐育の貯蓄銀行……68
三五 燐寸ミスエーデン……70
三六 ユー・エス・スチール……72
三七 ロンドンの雛賣所……74
三八 日本を養ふ街……76
三九 通用せぬ國庫券……78
四〇 ゴムの需給……80
四一 ボールチツク取引所……82
四二 クーン・ローブ商會……84
四三 ハノイの見本市……86
四四 映畫王國の宮殿……88
四五 ロシア電氣共和國……90
四六 目綿と東アフリカ……92
四七 ベル・システム……94
四八 キューバと砂糖……96
四九 ウルウオース均一店……98
五〇 來朝したラモント氏……100

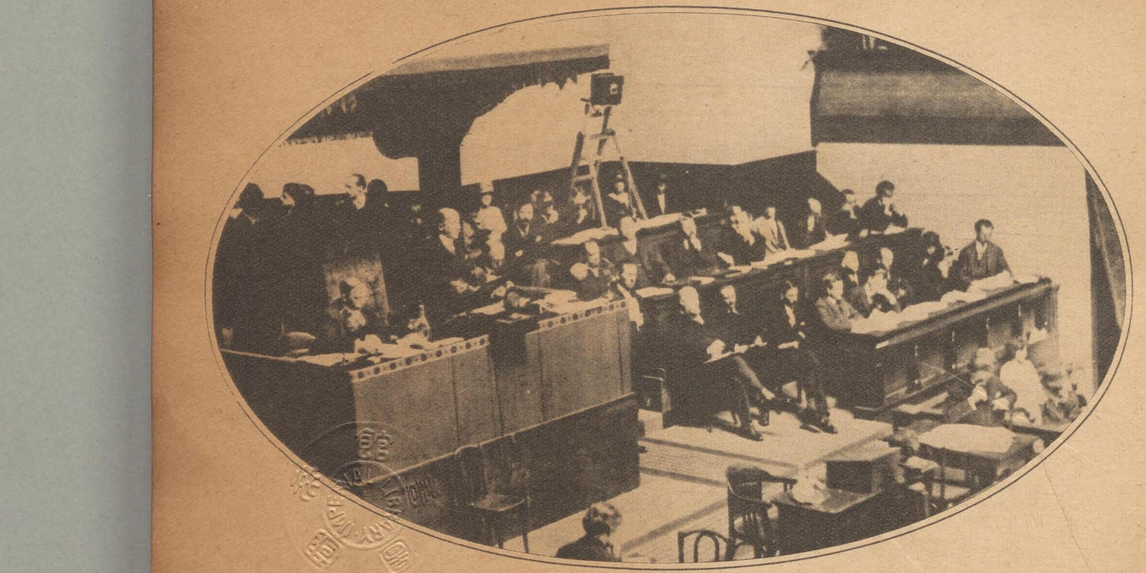
五一 ウデホルム會社……102
五二 ノルウエーの漁業……104
五三 大西洋四日航路……106
五四 加奈陀の穀物倉庫……108
五五 ハバナの海壁工事……110
五六 フオード自動車……112
五七 アレクサンドリア棉花取引所……114
五八 シカゴの屠場……116
五九 シンガー・ミシン……118
六〇 アラスカの金山……120
六一 プラーグの見本市……122
六二 濠洲聯邦銀行……124
六三 イーストマン・コダック……126
六四 カナダ・サン生命……128
六五 日支經濟斷交の產物……130
六六 ユ社の三頭政治……132
六七 インド帝國銀行……134
六八 ナイヤガラ發電所……136
六九 資本主義ミホテル……138
七〇 ワナメーカー百貨店……140
七一 濠洲ミ羊毛……142
七二 スエズ運河……144
七三 イル・ド・フランス……146
七四 ナショナル・シチー銀行……148
七五 智利ミ硝石……150
七六 プラナー・モンド會社……152

七七 ソヴイエット農村……154
七八 ゼネラル・モーターズ……156
七九 金福鐵路公司……158
八〇 ボズナニの歲の市……160
八一 サザムプトンの埠頭……162
八二 合衆國分析局……164
八三 ダーバン・エピソード……166
八四 コントアル・デスコント銀行……168
八五 マガヂ曹達湖……170
八六 獨逸の窒素工業……172
八七 シカゴの勸工場……174
八八 ドレスデン銀行……176
八九 山東苦力の滿洲移住……178
九〇 借金で港の裝飾……180
九一 カーブ・マーケット……182
九二 ダリ・バンク……184
九三 漢陽製鐵廠……186
九四 北洋材の積取り……188
九五 アイルランド銀行……190
九六 フイリツピンの米田……192
九七 ドンバス鑛區……194
九八 紐育棉花取引所……196
九九 スコツトランド銀行……198
一〇〇 ゴスバンク……200
一〇一 蘭貢の日綿精米所……202
一〇二 ロイド組合……204

國際經濟書報

一〇三 香港上海銀行……206
一〇四 人絹興隆時代……208
一〇五 南阿スタンダード銀行……210
一〇六 ゼネラル・エレクトリツク……212
一〇七 馬來の錫……214
一〇八 物價編定委員會……216
一〇九 鐵鑛の露天掘り……218
一一〇 ザンジバルの丁子……220
一一一 紐育聯邦準備銀行……222
一一二 首のすげ替え……224
一一三 アルゼンチン國立銀行……226
一一四 漢口の泰安紡績……228
一一五 水都ハンブルグ……230
一一六 英國の五大銀行（一）……232
一一七 英國の五大銀行（二）……234
一一八 英國の五大銀行（三）……236
一一九 ニューヨークの長者街……238
一二〇 ヴオルガ河……240
一二一 カニ工船……242
一二二 米材とその輸出……244
一二三 伯林の電車……246

—（目次終）—



(1) 國際經濟會議

◇——國際聯盟によつて招集された國際經濟會議は、一九二七年五月四日から二十三日まで、晩春の光まばゆきジュネーヴ湖畔に開かれた。加盟非加盟五十國から派遣されてこの會議に列席した各國代表は一九四名、隨行の專門家を加ふれば實に二五〇名の多數に上る。

◇——この會議の目的は當時「經濟上の軍縮會議」なる語をもつてあらはされた如く經濟關係の圓滿なる諒解を通じて國際平和を確保し、通商上の障害を撤廢して相互依存の本義を徹底せしむるにあつた。

◇——開會後最初の四日間は極く一般的な報告討議に費され、それが終ると、會議を商、工、農の三委員會に分割し、各所屬の問題が、自由かつ詳細に討論された。これら委員會の經過や、そこで論議され最後に總會で承認された決議結論に關しては國際聯盟から詳しい報告書が出てゐるが、こゝにはこれ委員會の議題となつた協指事項の二三を擧げることを以て滿足しやう。

◇——コリーン氏（和蘭）を委員長とする商業委員會は更にこれを二部に分ち、第一部會は通商の自由、第二部會は關稅及び通商條約、第三部會では國內における商業及び航海の間接保護の方法に關して研究し、工業委員會はホダック氏（チツコスロヴアキア）委員長となつて、工業の現狀その他一般問題、工業の合理化、工業協定、卽ち國際トラストの問題、特許權等の順序で議を練り論を進めた。更に工業委員會ではフランゲツシユ氏（ユーゴースラビヤ）を委員長とし、商業委員會同樣第一を一般問題、第二農業組合、第三農業信用と三部會に分つて、それ〳〵最善の結論を見出さうと勉めた。

◇——これら各委員會の議題として選ばれた問題は、流石に何れも國內經濟、國際經濟を通じて刻下の重大懸案であり、また委員會が決定したこれに對する諸方策もその實現性を疑はれざる限り、大體當を得てゐるやうだ。一般經濟問題に關する始めての國際會議が、とにかくこれだけの纏りをつけ得たことは成功といはねばなるまい。

◇——思ふに「世界經濟時代」はまだ黎明期にある。今後この種の會商は尙しば〳〵催されるであらうが、同を重ぬる毎にその意義を增大し、やがて「經濟的人類救濟」の大理想への、信憑すべきマイル・ストーン（里程標）たらんことを期待する。

◇——寫眞は國際經濟會議開會の劇場、中央起立せるは開會を宣しつゝある議長チユニス氏（白耳義）

（2）英蘭銀行

◇――世界金融市場の大本山、英蘭銀行の姿をお目にかけやう。「シチー」（商業區域）の中心スレッドニードル街、四英町といふ廣大な面積の上にドッシリと据えた搖ぎなき礎え、古びた建築も二百餘年の歴史を包んでは燦たる榮光に輝くといふ。

◇――現在の建物は一七八八年の竣工で、外側には窓がなく、すべての室は内庭から採光するといふ一種風變りな建て方、日本銀行の建物もこの英蘭銀行に摸したものだ。しかしこの歴史的建築物も最近手狹を感じたのか目下改築中で、その工事はなほ八年間を要する見込だといふ。だが虎の子よりも傳統を大事がる英國民の氣分を傷けぬため、銀行當局は出來得る限り原型の保存に勉めてゐるさうだ。

◇――物事の安全さを日本では泰山の安きにたとへるが、英國では「英蘭銀行のごとく安全」といふ語を使ふ。それでも歐洲大戰勃發の報傳はるや、流石沈着な大英國民も大いに慌はて、英蘭銀行券をば一刻も早く金貨に換へてしまはうと、これらの取付者が安全そのものだといはれた銀行の外廊に蜒蜿長蛇の列をつくつたといふから面白い。

◇――その當時英國政府はこの國際金融の中心市場に世界各地から集り來つた手形の決濟不能に陷つたのを救濟するために、英蘭銀行をして引受銀行に代つて割引させ、その代り英蘭銀行が蒙る損失は政府で補償してやるといふことになり、その結果英蘭銀行が割引した手形金額は一億二千萬ポンド（約十二億圓）に達したが戰後四年間にしてこれ等の手形の大部分は決濟され、支拂不能となつたのは僅かに五百萬ポンド（約五千萬圓）に過ぎなかつた。

◇――日本の英蘭銀行は、金融恐慌後の一ヶ年、五月八日（昭和三年）の期限までに貸付けた特別融通額が八億七千餘萬圓で、その回收が十年がゝり、しかもその内五億圓は損失補償で取立無用、始めからロハで進上のつもりだから豪勢なものだたゞ平生からあまり重くもない財布の底をかすられる國民こそ好い面の皮。

◇――因に英蘭銀行現在の資本金は一千四百五十五萬三千磅、一九二八年五月二日現在同行發券部における兌換券發行高一億七千九百萬磅、これに對する正貨保有高は一億五千九百萬磅である。

◇――寫眞はイングランド銀行と現總裁モンタギュー・ノルマン氏

(3) フランス銀行

◇——フランスの中央銀行バンク・ド・フランスは一八〇〇年に設立された。恰もナポレオン・ボナパルトがエヂプト遠征から歸つて最高執政官の地位をかち得た翌年である。この新しい統治者は當時頻々として起つた經濟恐慌の原因が「割引制度の不完全にありと見、「政府の從屬物に非ざる」中央銀行の必要を認めて、これを國家の監督の下に私立會社とすることを主張したといはれてゐるが、當時の恐慌は主として打續く內亂外征の結果であり、中央銀の設立は何よりもまつ戰國の財政的窮乏の救ひの神であつたはずである。たゞ併しその眞意は如何にもあれフランス銀行の生誕が、ナポレオンの力に負ふところ大なりしは事實であらう。

◇——一八五七年には九千百二十五萬フランの資本金を倍加して一億八千二百五十萬フランとした、この資本金額は現在まで据置かれてゐるが、一九二八年五月末現在における同行の紙幣流通高は五百九十一億九千四百萬フラン、正貨準備は金で(在外とも)四十一億四千萬フラン、銀で三億四千萬フラン、政府貸上金二百十七億フランである。

◇——フランス銀行の紙幣發行法は、我國のやうな屈伸發行法でなく、最高制限額のみを定めたいはゞ自由發行法である。併し久しい間フランス銀行はその兌換準備の充實、正貨保有の高率を以て知られ歐州の金庫と稱せられたものだ。恨むべし。乾坤一擲、國運を賭しての四年の大戰に、フランス財界の基調は根本的に覆れ、外には借金の山、內には物價の騰上り、その間を連絡する爲替相場の底知れぬ大暴落、戰ひに勝つてホッと一息吐く間もなく、今度は此のごろどこかの國で唱へられる河童の屁の樣な世迷ひ言でない正眞正銘の「經濟國難」に直面して、國家的破產の憂の深かりし時、金融統制の重任を負ふフランス銀行の苦衷のほどが思ひやられる。

◇——茲に一世の賢相ボアンカレ、三色旗の誇は彼によつて取戻される。一九二八年六月二十四日、金の解禁と共に爲替も一磅百二十四・二二フランと安定した フランス銀行がその昔日の地位を回復するのも遠い將來ではあるまい。

◇——寫眞はフランス銀行。

(4) 獨逸帝國銀行

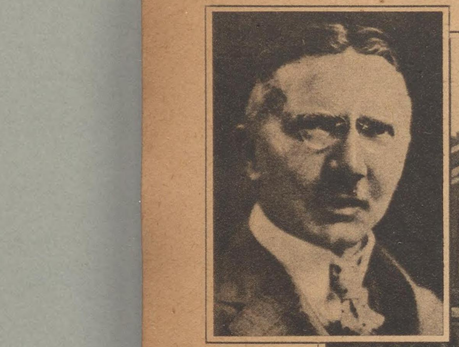
◇——ベルリンの金融中心エーガー街の一角に、ドッシリと構えてゐるドイツの中央銀行ライヒスバンク、ドイツ帝國統一後の貨幣改革、金本位採用の必要から、一八七五年、當時のプロシア銀行を引續いたのがこのライヒスバンクである。

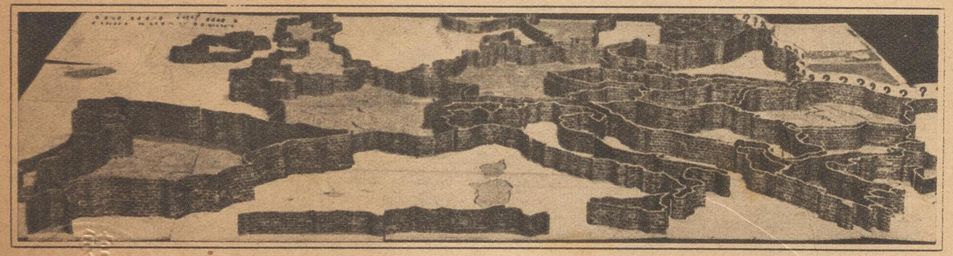
◇——大戰前のお話は暫くおく。戰中における軍國財政のやりくりもさることながら、戰後の賠償金問題のもつれから、佛軍のルール占領、特に一九二三年一月、巴里會議（賠償金支拂に關する英、佛、白、伊四國間の會商）の不調を境として、馬克相場は約暴落しの慘落、その年の十月ころには英貨一ポンドにつき四十二兆五千億馬克、すなはち四二五の下に〇を十一もくつゝけた末曾有の相場を現出した、こんな數は地上で用ふるものでなく、すでに天文學などで用ふる數概念に到達したのである。そこで政府は窮餘の策としてレンテンバンクなる銀行を新設し、新にレンテン馬克紙幣を發行して過渡的の施設を講ずる一方、例のドーズ案による八億金貨馬克の外債を基礎にしてライヒスバンクは改造され、こゝに新發券銀行として更生したのである。

◇——かくてライヒスバンクの發行する新馬克紙幣はライヒスマークと呼ばれこれは十分な正貨準備の下に發行されるいはゆる金馬克紙幣であるから、その相場ももちろんパー近くを保合つてゐる。そして舊馬克紙幣は新紙幣一馬克につき一兆馬克の割で換算し整理された。かうして現在ではドイツの貨幣制度は全く確立し、國内產業、對外貿易も復興し、經濟界もスッカリ立直つて、潤澤はダブ付き、金利は低下、通貨も縮少してインフラチオン時代のことはまるで一朝の夢と化してしまつた。

◇——今年（一九二八年）五月末現在では、ライヒスバンクの保有金銀（在外及外國貨幣を除く）二十億四千萬馬克、爲替手形及び小切手二十億三千五百萬馬克、預金六億七千五百萬馬克、兌換券流通高三十八億二千萬馬克、資本金は三億馬克、內拂込濟一億二千二百七十八萬八千百弗である。

◇——寫眞はライヒスバンク（獨逸帝國銀行）と總裁シヤハト氏





(5) 見えざる鐵壁

◇——國內產業育生のために國民生活の不利不便を賭けて、貿易保護の政策をとるのが賢明か、世界經濟の大義に則り通商自由の襟度を見せるが果して無暴か、今俄かに斷じ難いが、「一旦緩急」の囁し文句で、軍國經濟本位の政策を立てるとすれば、理が非に勝つも時世時節で、何ともはや是非がない。

◇——かくて大戰以來歐洲の天地は表面如何にも平和のやうに見えるが、各國の經濟戰は以前にもまして激烈となり、その國境には關稅の鐵壁蜿蜒として盡くるところなく、いはゆる「經濟帝國主義」の脅威は、各國の爲政者を保護へ、保護へと追ひつめてゆく。英誌エコノミスト主筆レイトン氏の計算によればこの世界の關稅障壁線は現在一萬一千キロメートルに亘るさうだ。

◇——寫眞はサー・クライブ・モリソン・ベルの考案になる歐洲關稅障壁の模型。

ロンドン證券取引所

◇――ロンドンの證券取引所は『シチー』(商業區域)では單に『ハリス』といふ名で通つてゐる。設立は一七七三年、現在は九百名の會員組織。その會員は『ジョッバー』(取引員)と呼ばれて、同士を相手として取引するだけ。その下に『ブローカー』がゐて、これがジョッバーと一般のお客さんとの仲繼ぎをやる。米國の株式取引は翌日取引を原則とするのに、ロンドンでは二週間の延取引が原則で、整理公債だけは一ヶ月取引を許されてゐる。

◇――取引物件中の主なるものは國債社債、なかんづく諸外國の公債が中心となつてゐる。もちろん株券も盛んに取引されてゐるがむしろ第二で、これはロンドンが世界金融の中心地として立ち、世界各國がこゝで借金し、外債を發行する反映に外ならない。

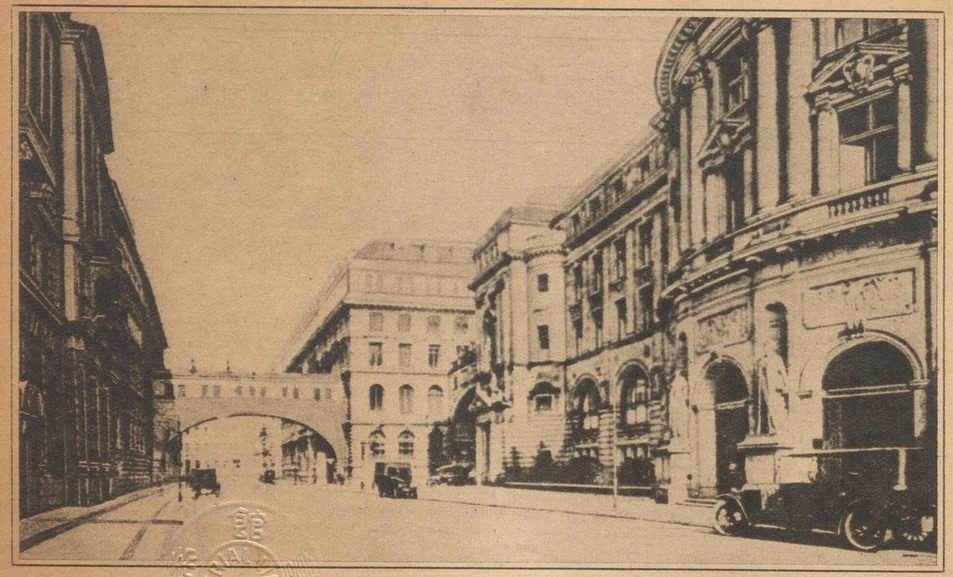
◇――ロンドンとは張らぬが、一體歐米では金融界の國際的聯絡がよくとれてゐて、各國市場相互に密接な關係をもつてゐる。だから歐米を股にかけての賴取、掛繋き會員が盛んに行はれてゐる。海底電信を通じて、ロンドンの取引所とニューヨークの取引所とは、少しく法螺を吹けば、裏株と大株との關係ぐらゐのもので、こん後無線電信電話が發達するに伴れ、所謂『資本に國境なし』の原則がます〳〵實現することだらう。ロンドン取引所で變つてゐるのは、會員は絶對に廣告をしてはいけないといふ規則のあること、買方が『ブル』(牡牛)、賣方は『ベーア』(熊)と呼ばれること、も一つ小僧サンまでが盛風のシルクハットをかぶつて威張つてゐることだ。

◇――寫眞はロンドンの證券取引所

(7) ドイツチエ・バンク

◇——ベルリンの金融街としてエーガー・ストラーセの名は内外にかくれなきところ、マウエル・ストラーセにたゞよう黄金の香の、なほエーガー・ストラーセに劣らざる事實に至つては知る人ぞ知る。エーガー・ストラーセを西して、このマウエル・ストラーセに歩み入る人々はその町角に宏壯なドイツチエ・バンクの建物を見出して足を止めるだらう。ドイツチエ・バンクはドイツ四大D銀行（ドイツチエ・バンク、ドレスドナー・バンク、八八回參照—ダルムステツター・ウント・ナチヨナル・バンク、デイスコント・ゲゼルシヤフト）の一、一八七〇年の創立にかゝり、ドイツが國際資本戰に乘り出すためにつくられた海外投資銀行たるところにその特色がある。現在資本金は一億五千萬ライヒスマーク、積立金七千萬、預金約三億五千各ライヒスマークである。

◇——寫眞はエーガー街とマウエル街の交叉點から望んだドイツチエ・バンク、向つて右の前景が銀行の本部、同じく右の背景即ち陸橋のある建物が本銀行の眼目たるユーバーゼー・アツプタイルング（海外部）、向つて左の建物は同法律部、庶務部等



(8) セルフリッヂ百貨店

◇——萬能の大資本經營もこゝばかりはその機能を疑はれた小賣市場にも大資本の勢力は漸次浸潤して、都會人はネクタイ一本も三越へ、應歡一帖も白木屋へと、時代がたてたモニュメントの二階から三階へ、七階から八階へと、吸込まれ押上げられて行く。

◇——勘んだロンドンの町にもアメリカ式のデパートメント・ストアやヂエイン・ストアが次第に人々の目を心を捕える樣になつた。ウエスト・エンドのオツクスフオード街の如きは、シヨツピング・クオーター(買物町)の中心でセルフリッヂ、ピーター・ロビンソン、リバーテイ、ジエイ等この種のストアが立並んで、アメリカ風の絢爛なウインドー・シヨーを競つてゐるが、中でもセルフリッヂは名實共に英國一の大百貨店。

◇——シカゴのマーシヤル・フイールド百貨店に勤めてゐたゴルドン・セルフリッヂといふ人が、一九一〇年頃ロンドンに移つて、そこで純アメリカ風の百貨店を始めた、そして成功した。一體商賣繁昌の秘訣は資本の大きさでもなく販賣組織の如何でもない。商品の雜多性や價格の高下などすら第二次的な問題で、全く主として販賣員の素質、殊にその客扱ひの巧拙如何によることを、これ等百貨店の經營者達はよく知つてゐるのであるが、セルフリッヂは特にこれを理解してゐた。

◇——そこには特別に敎育部の設けがあつて、常に二百人餘の見習員が、こゝで充分に店の精神を吹き込まれ、さはりのよい立派な販賣員に仕上げられる。英國百貨店事業におけるセルフリッヂの今日の地位は、主としてこの特別仕込みの販賣員の力によつて築き上げられたものであるとは一般に信ぜられるところである。併しその徹底したアメリカ式のためであらうロンドン子はあまりセルフリッヂを好くいはない。而もそれでゐて、不知不識のうちにその行屆いたサーヴイスに引きつけられ、日々セルフリッヂに吸ひ込まれる顧客の數七萬を下らぬといふから面白い。

◇——寫眞はオツクスフオード街の買物町、左の旗のあるのがセルフリッヂ百貨店

(9) ベルリン取引所

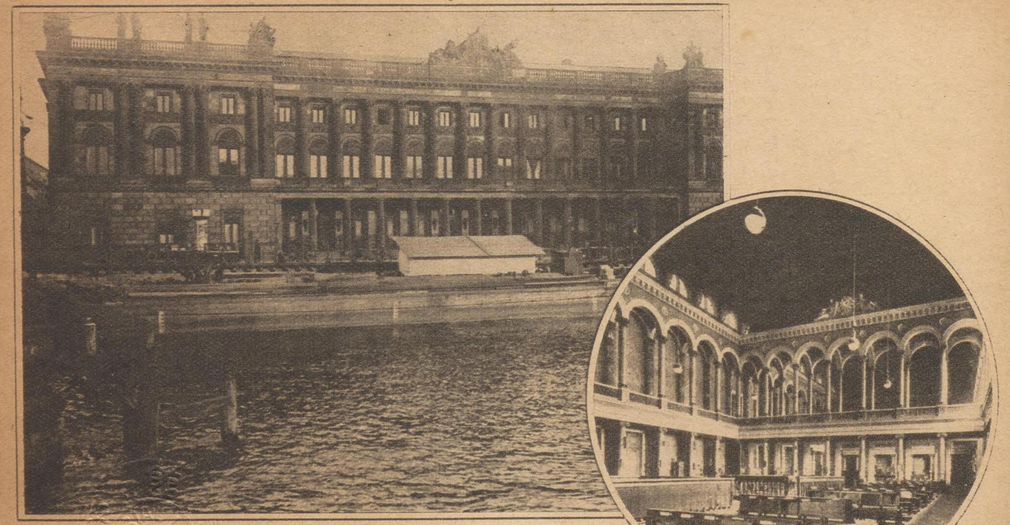
◇——ウンテルデンリンデン街の裏手、スペリー河を隔てゝベルリン城内のドームと相對する古ぼけた建物がある、これが一六八五年大選擧侯フレデリキ・ウイルレムがたてたベルリン・バックホイザーの後身、現在のベルリン取引所、今の建物は一八六三年の建築にかゝる。

◇——獨逸における取引所の形態は所によつて一樣でない、取引所法の一般規定はあるが、組織上の細かい點になると取引所ごとにそれゝ異つてゐる、が何れにせよ我國のやうに株式組織の取引所は勿論ない、さうかといつて英國などのやうな、いはゆる會員組織とも少し違ふ、ドイツでは取引所法に規定された一定の資格者を除く外、取引所理事會の許可を得れば、原則として一般商工業者は取引所に出入して賣買を行ふことが出來る。

◇——ベルリン取引所の直接監督權がベルリン商業會議所に屬してゐることも、商業會議所といへばどこかの國のやうに年中愚にもつかぬ決議陳情に日を送るものとのみ考へてゐるそこらの方々には耳寄りであらう。ベルリン商業會議所はこの監督權によつて取引所理事の四分の一をその議員中から選任する。

◇——ベルリン取引所の立會は株式取引所部と商品取引所部（主として農産物）の二部に分れてゐる、いはゞ北濱と室島とを兼ねてゐるわけで、取引方法は現金取引と定期取引の二種、定期取引といつても最も普通なのはその月の末日を期日とする短期取引で、當中先の三限もなく、株式組織でないおかげで當所株を上場して株價のつり上げに加擔になるやうなともない。

◇——寫眞はベルリン取引所とその立會圖



ペルシアの油田

◇——西部ペルシアには　千百年の昔から、岩間をしみ出て沼の水面に漂ふ石油が土人の燃料となり、その濫觴はチグリス、ユーフラット河に浮ぶ小舟の目塗りに用ひられたものだといふ。しかしそれはそれだけの話し。率先この寶庫の開發に手をつけて今日ペルシア油田の名あらしめたものは、英人ウイリアム・ノツクス・ダーシーの識見と努力であつた。

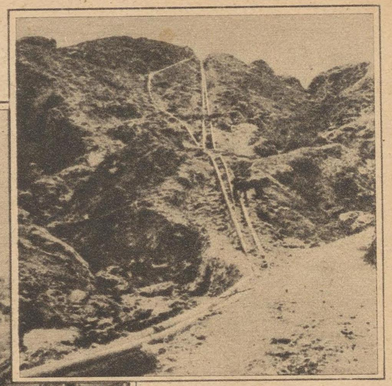
◇——一九〇一年彼ダーシーが始めてペルシアの石油事業に頭を突込んでから、一九〇三年までの三年間に入れ上げた金は約三十萬ポンド、しかもその結果得たのは小さな油井が二つきり、第一、邊鄙な所で、有望だとは思つても試掘機械の運搬さへ思ふ樣にゆかぬ。一九〇八年の春には遂にロンドンでも匙を投げて、作業中止の命令を發するに至つた、が恰度その時だ、油井の一つからガスを交へた黑色の油流が、人々の歡聲を空高く噴き上げたのは。

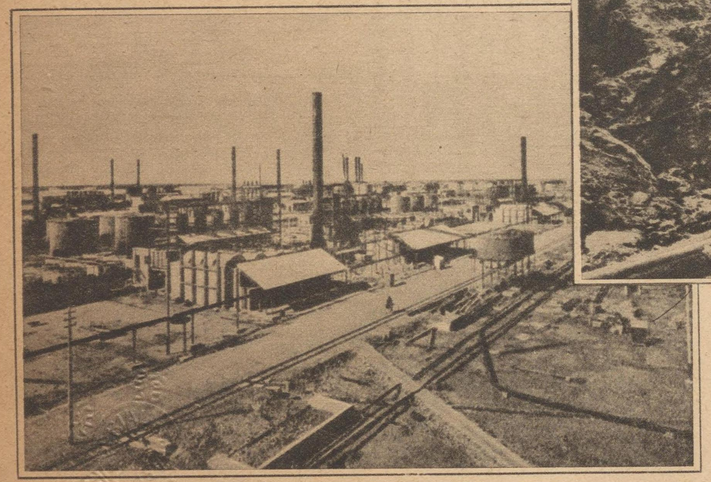
◇——その翌年アングロ・ペルシアン・オイル・カンパニー（英波石油會社）が二百萬磅の資本金を以て設立された（現在の資本金二千四百萬磅）そして探油事業と新油井の掘鑿に專心したが、これ等油井の多くは波斯灣から百四五十哩の內地にある關係上、その產油の輸送はいやでも鐵管送油によらねばならぬ、併し山越え谷越ゆる數百哩、遙々海岸まで鐵管を引くことは容易ならぬ事業であつて、殊にその資金の點においてこの計畫は行詰つてしまつた。

◇——そこで會社幹部は、この資金難解決の道として、海軍省の口說落しにかゝつた、そして成功した。何しろ相手は石油の統制が如何に海軍の將來を左右するかを百も承知の英國海軍省だ、一九一四年八月十日、即ち歐洲大戰勃發後六日にして、英國政府はアングロ・ペルシヤン・オイル會社株の一部買收を決定してゐる。

◇——かくて資金難を解決して後の會社事業の發展はいふまでもあるまい。送油設備（鐵管總延長八百哩）も完成すれば、タンカー（送油船）も出來る、千五百の貯油タンクと五萬人の使用人、一九二七年度の產油高は四百八十萬屯であつたが、お望みならば年產八百萬屯にしてお目にかけると素晴しい鼻息である。

◇——寫眞は山を越ゆる送油管とアバデーの精油場（アングロ・ペルシアン・オイル會社）





(11) パリ證券取引所

◇――寫眞はパリのブールス（取引所）である。なんと立派な取引所ではないか。ナポレオン一世の證立にかゝり建築美術からいつても有名なもの。商賣をしながら藝術を考へるフランス人の奥ゆかしさが覗はれる。こんな所で半狂亂の手振りはチト似つかはしくあるまいことのぞいて見れば、取引員達がいとも靜かに、小さい紙片へ目指す銘柄や相場を書きつけて交換してゐる。やつぱりお上品だ。それもそのはず、こゝの取引員は大藏大臣の推薦にもとづき、大統領の任命する堂々たる官吏なのだから。尤も官吏といつても、三等郵便局長、執達吏、公證人等と同類で月給はとらない。悪いことをすれば免官にもなる。

◇――取引所はこれらお役人たる取引員の會員組織で、現物取引と先物取引のあるところゞころかはらぬ。取引證券中には株式も相當にあり、殊に一流株になると隨分活潑な取引が行はれるが、何といつてもまだ公債の方が多く、その中心は佛國政府三分利附永遠公債である。以上の取引の外こゝでは場外取引も許されてゐる、即ち紐育のカーブ・マーケット（九一回參照）に當るものであるが、規模は小さい廊下取引で、この方の取引員はお役人ではない、正式市場で取扱はない證券を取引するのが原則となつてゐることもカーブ・マーケットと同樣である、佛國政府公債の定期取引だけは許してある。

◇――寫眞はパリ證券取引所

(12) ダラス棉花取引所

◇——ダラスは米國第一の棉花集散地である。同地のコットン・エクスチェーンヂ(棉花取引所)は一九二六年、十七階建の新築をして面目を一新した、一月に起工して同八月、僅か八ヶ月で竣工したところも全く米國式である、建物を半分に仕切つて裏半分は壁なしの總ガラスといふ珍らしいもので、これに面した部分はその十二分な採光を利用して檢査室等に充てられ、建物の表半分は事務室で、そこへ我國の大手筋として日綿と東棉の兩雄が陣取つてゐる、少し離れたフオートウオースには江商の店もある。米國一の棉花商アンダーソンの事務所は、ダラスから南へ二百五十哩のヒューストンにあり、そこには又日綿が一九二〇年に建設した大倉庫と荷造場とがあつて澤山のアメリカ人を使つて活躍してゐるそしてその買付た棉は日本のほか歐洲各國、支那、印度及アメリカ國内の紡績へさへも盛んに賣込んでゐる、日本の一流棉花商社が直ちに世界の一流棉花商として認められてゐるのは痛快であり、またそれだけ日本の綿業が大きいといふことになる。

◇——棉花はなんといつても我國輸入品の大宗で、アメリカ棉だけでも一ヶ年の輸入高百五十萬俵以上、金額は相場によつて變るが昭和二年度は三億四千萬圓に上つてゐる。一時世界に覇を稱へた英國の綿業は頓に衰頽の兆あるに反し、わが綿業が益々發展して行くのは喜ばしい次第で、ダラスの棉花取引所などは何といつても米棉取引の中心、わが當業者の活躍に不足のない檜舞台である。

◇——寫眞はダラスの取引所とその選査場

マンチエスター運河

◇——陸運の輸送力が水運のそれに比して如何に貧弱であるかは、實際それがあるがまゝの程度にまでは一般に了解されてゐないやうだ。地球の表面が陸地を以て覆はるゝことなく、陸と陸、島と島とが水を以て隔てられてゐることは單に交通經營の自由のみからいつても得難き人類生活上の幸福である。

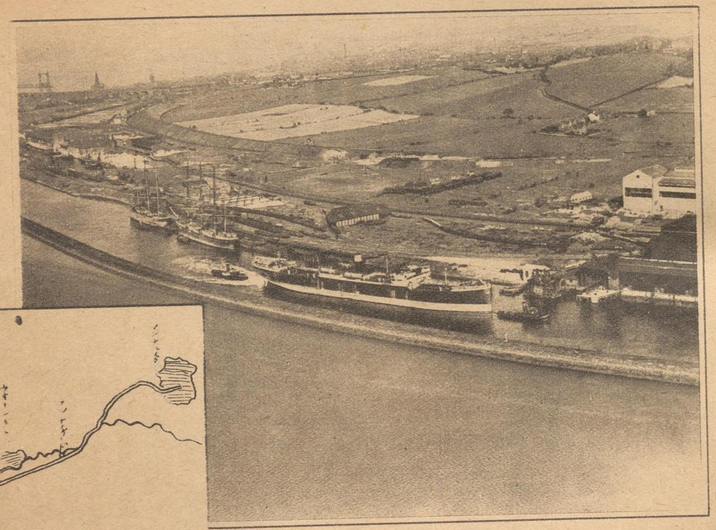
◇——それにも拘らず窓の上にも窓の皮のつゝばつた人間共が、かの森茫無涯の遠大洋、千里沃野を潤し百里巨船を容るゝていの大河川に滿足せず、更に地を穿ち水を連ねてこれを運河といふ。

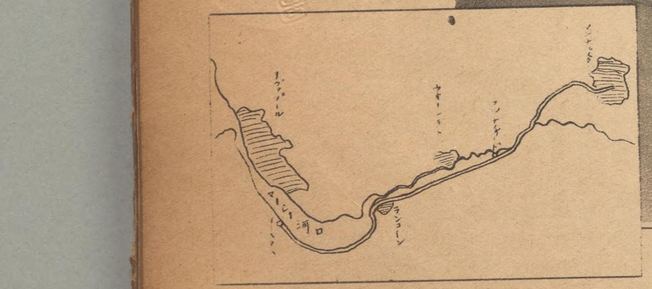
◇——「大阪は東洋のマンチエスターである」とは、使ひ古した骨董的啓蒙用語の一つであるが、たゞ大阪は、ちようどの風にも波立ち騷いで義理にも良港とは申し兼ねるながら、とに角港と稱すべきものを持つてゐるが、マンチエスターの方は海を去る二十餘哩、北イングランド酉工業の中心都市としてマーシー河の傳馬船ぐらひしか浮かあかぬ、海水に接せぬ不利不便に堪えかねたこの「英國の大阪」が、いはゆる「マンチエスター運河」の開鑿にとりかゝつたのは一八八七年であつた。

◇——この運河は普通リヴアープールからマンチエスターまでと稱してゐるがその起點は正確にはマーシー河口の南岸イーストムで、河に接した運河の入口には三個の閘門を設け、滿潮になつて河口と運河の水面が等しくなると、これを開いて船を通ずる。イーストムからランコーンまでの十五哩は、運河は防壁を隔てゝマーシー河口の岸に副ふ。ランコーンで河と別れてアーウエル溪谷を上ること八哩、ラッチフオードに第二の閘門があり、マンチエスターに至る間に更に三組の閘門がある。

◇——運河の幅員は水面において一七三呎、底で一二〇呎、深さ二八呎、延長三十五哩半の終點に連んだ大小十個のマンチエスター埠頭まで、七八千屯級の汽船なら平氣で通れる。一千五百萬磅の工事も何のその、一八九四年の開通以來今日まで三十何年間に、たゞにマンチエスターといはず全英國商工業の受けた利益は蓋し莫大なものであらう。

◇——寫眞はマンチエスター運河





(14) 巴里の百貨店

◇——「巴里の百貨店の特徴とする所は寛容と非組織の二つである」とは、獨乙人の巴里百貨店觀であるが、吾々日本人にとつても、これはル・ルーヴルの店頭に一歩をふみ入れて直ちに受ける印象であると、或る百貨店研究者はいふ。

◇——事實、ル・ルーヴルのみならず、ガレリエ・ラファイエット、ル・プランタンその他との一流百貨店でも、無數の商品は秩序もなく系統もなく唯雜然と堆積され、組織的な陳列法に心を勞した跡方も見えない、そしてそれは建築や室内自身の壯麗さと著しい對照をなしてゐるのであるが、この雜然さのおかげで、客の方でも商品を見るのに一々販賣員を煩はす必要もなく、堆高く積まれた靴下、シャツの山から好きな品を勝手に掘出して、氣まゝに品評することが出來る。そこらの窓際に品物を引散して、そのまゝ立去つても文句をいふ者もなく、萬引常習者のよりももつと薄氣味の惡いもつと下劣な監視人の眼にも出會はさない。

◇——一般にパリの百貨店は婦人用品、殊に流行品が主で、その他の商品は全くの附屬物と考へてゐるらしい。すべての百貨店が店前の道路で、格安品の露天賣りをやる。この流行品第一主義が恐らくはフランス式百貨店の「非組織」の原因に違ひない。

◇——とにかく、これらパリ百貨店の特徴に對する長短の批評は、見る人の心々にまかせるとしても、それがパリ人の氣質や趣味を裏切つてゐないことは確かだ。だから將來、もしもパリ人の生き方が變るとしたら、百貨店もまた、それにつれて自ら變つてゆかう。尤もそれまでに、百貨店の經營者達が米國式のいはゆる「能率的な經營法」に誘惑され終るかも知れないけれども……。

◇——寫眞はパリの百貨店ル・ルーヴル（上）とガレリエ・ラファイエット（下）

滿洲大豆

◇……「渡れば廣漠」と歌はる〻南北滿洲の平原を盡して生ひ實る大豆の量は數字的にこれを算定するに由ないが、「特産物」と銘打つて年々大連、油鹽、營口、安東縣の四港から積出される滿洲大豆は、その額凡そ三四百萬屯（一九二六年度＝一九二六年十月より二七年九月まで＝は四百三十萬屯）、その仕向地は歐洲へ百六萬屯、殘りの大部分は日本向けだが豆としては四十四萬屯ぐらひ、あとは豆粕としてはいつて來る。

◇……滿洲にはメて四百ばかりの油房がある、歐洲大戰當時大豆油の高値につられて簇生したものであるが、この頃では意氣先の歐洲でも大豆油が工業用から食用に昇格し、油を輸入するより一層大豆を輸入してこちらで製油しやうといふことになつて、大豆の歐洲輸出は急激に增加し、一九二六年度は前述の如く百六萬屯、二七年度は更に百五十萬屯に達しやうといふ。

◇……それでなくても滿洲四百油房の總搾油能力は千萬屯以上で、肝心の大豆の總產額の二三倍に當り、原料の奪ひ合ひに浮身をやつさねばならず、從つて大豆はます〳〵高くなる、ところへ、その不足がちの原料をかう歐洲へ持ち出されては、滿洲の油房も結局立ぐされの悲境に陷るものと、當業者は大分やきもきしてゐるらしい。

◇……が、滿洲大豆の將來にかゝつてゐるものは、たゞに油房の生死のみではない。我が國にしても豆粕供給の減少ぐらひはまだよいとして、年々增加する食用油の消費を大豆油の供給を外にして如何にして充すか。ウッカリしてゐる內に「油揚」を高にさらはれ」て、今に豆腐さへ安くは食えぬ樣になると心配する向きもある。

◇……寫眞は〈上〉油房の搾油場（手押螺旋式壓搾機）と〈下〉出廻大豆の野積

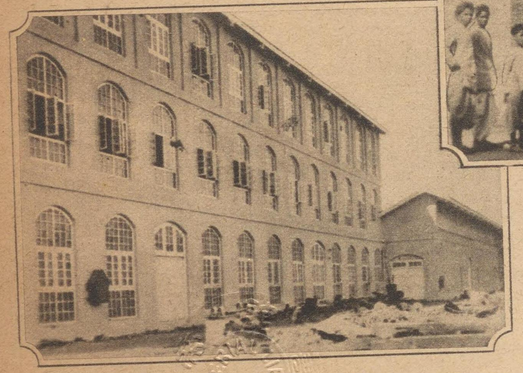
(16) 印度の日本紡績工場

◇——印度政府が印度紡績保護のため日本製の細絲布へ關稅の增徵を行ひはしまいかと（この內細絲については昭和二年九月より實施）、日本の紡績屋サン達が躍起となつて反對運動の最中、大正十五年九月、率然と東洋棉花の印度紡績買收が傳へられた。我が紡績は支那には漸山の投資をしてゐるが、印度において日本人の手で紡績を經營したのはこれが最初である。

◇——ボンベイの近郊、チンチポクレー停車場から僅々二分行程のところにダイヤモンド・ミルといふ印度人紡績工場があつた。東棉が買收してからは名も東洋ボッダー紡績と改め、機械や建物に修繕を加へ、資本金二百萬ルピーの堂々たるものとなつた。敷地は七千三百七十九坪（內自由所有權二千三十三坪、永代借地五千三百四十六坪）で、昭和二年春、三分の一見當の運轉を開始したが、漸次設備も完成し同年六月以後は紡機全部七百五十八台、紡機總錘數二萬四千五百餘錘の全運轉を見るに至つた。但し昭和三年四月上旬から職工のストライキに遭つて目下（三年六月）なほ休業を續けてゐる。

◇——職工は印度人約九百名、事務員十八名で、製品は東棉支店で管理し、佐立技師が唯一の邦人として工務を見てゐる。これから印度でいかに紡績關稅や保護政策がやかましくなつたとしても、この工場だけは涼しい顏をしてやつて行けるわけである。

◇——寫眞は東洋ボッダー・ミルの工場（下）と正門（上）。



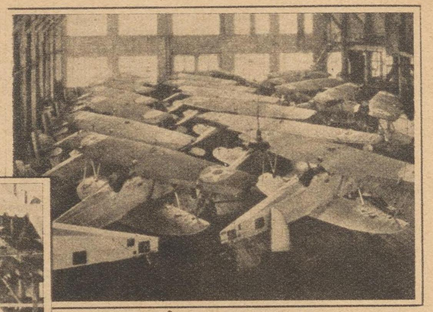
(17) 飛行機と木工

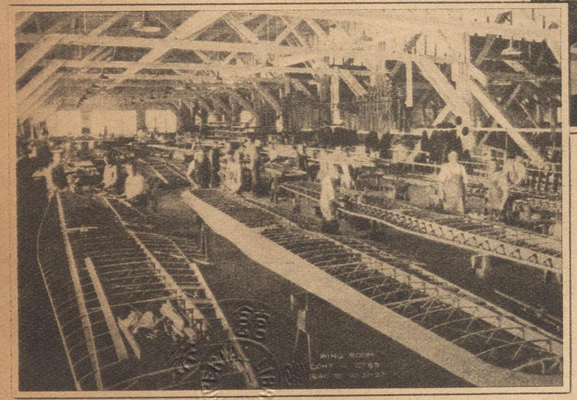
◇――飛行機製造における木工の地位は炭素鋼、アルミニウム、ヂユラルミン、その他各種合金鋼利用の研究進歩に伴つて、漸次その初期において有せし重要性を失ひつゝあるかに見える。現に機體は勿論、平衡翼、昇降舵方向舵等、いわゆる支翼と總稱せらるゝものは大部分金屬製となつた。プロペラさへも金屬化の趨勢から免れさうにもなく、今や木製として殘されたものは翼の骨組みと、時としてその被覆部分ぐらゐに過ぎない。

◇――さればといつて、將來木工が飛行機製造から全然排除されるものでなく、強度に比して重量の少いことや、加工の自由さ、容易さなど金屬に對する木材の有利な點も多々あるので、結局將來は重量を嫌ふ追撃機や小型商用機等には、相變らず木材を使用する部分が多いであらうと、これが專門家の意見ださうである。

◇――シアトルにボーイング・エアロプレイン・カンパニーといふのがある。木工を特色とする飛行機製造會社で、大戰直後に生れたパシフイツク、エアロプレイン・プロダクツ・カンパニー（太平洋飛行機製作會社）といふ小さな試驗的工作場の後身だが、今では總建坪十五萬平方フイートに及ぶ十二の工場に、五百人の男女工が、機重三千瓲の小型飛行機から十二三トンの大型機まで各種の飛行機製造に從事し、殊にその專門とする追撃機型の小飛行機では全米の指導的地位を占めてゐる。

◇――寫眞はボーイング會社の機翼工場（下）と同社組立工場に並んだ十九台の陸軍機（上）





(18) ウエルトハイム百貨店

◇——ウエルトハイム百貨店は伯林名所の一つである。苟くも伯林に旅するもので、その城塞、その美術館、その博物館と共にウエルトハイム百貨店を訪れないとすれば、彼のプログラムにはそこばくの空虚さが殘るに相違ない。

◇——伯林市街を通貫する放射狀大道路の中心、ライプチッヒ廣場に面するこの大百貨店は、總建坪二萬五千平方米、建物は有名なアルフレッド・メッセル教授の設計で、正面の硝子張りホールに配するに左には噴水、右には大理石像、通りすがりの人々にまで百貨店に相應しい印象を投げ與へる。

◇——一體歐洲の百貨店は米國のそれの樣にケバ〳〵しい裝飾や、齒の浮く樣な廣告文句に身を入れる（日本の百貨店はこの點において米國の直系である）ことはしない、勿論裝飾はやる、やるところか最善の努力を拂つてゐる。たゞ突飛なやり方を考へないだけだ、で例へばショー・ウインドーにせよ、陳列品とその周圍とは總て完全に調和が保たれ、更に藝術味と、殊に伯林においては實益を兼ね具へてゐる。かくてこの調和と實益とがウエルトハイムに着きつける顧客若しくは顧客らしい顏をした伯林ッ子の數は日々七萬五千人平均に上るさうだ。

◇——談話室、散歩場、流行品陳列場等、凡そ百貨店に具はるべき施設にしてこのウエルトハイムに缺くるものなく、ベレビュー街には直營の骨董品陳列所まで設けて、あらゆる寄付、珍品を集めてゐるが、この外に市内支店が二つ、從業員總數五千、ベルリン百貨店中の白眉である。

◇——寫眞はウエルトハイム百貨店。

シーアズ・ローバック

◇　生産から販賣まで商品流通の縦断的結合手幸、且つこれが大量販賣と薄利多賣にわたる點において、同時に所謂横斷的集成でもあり、從つて又、これが組織要素たるべき恐しく巨大な資本の力、さては運輸通信機關の異常なる發達、人口の大都市集中等々、

◇――これ等の現代社會のあらゆる特質を劃的に唯一體に具現してゐるといふ意味で、かの時めくチエイン・ストア、連鎖店やメイル・オーダー・ストア、通信販賣店、即ち所謂「大經營小資業」ほど現代的なものは殘らぐあるまい

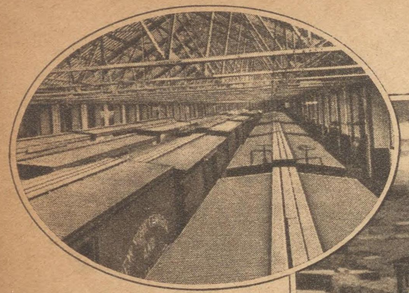
◇――シカゴのシーアズ・ローバックはメイル・オーダー・ストアとして世界一の名がある、尤も世界一にはヤンキー口輩で、一々とりあふのも大人けないやうなものだが、シーアズ・ローバックの世界一なとはやゝ信ずるに足る方で、

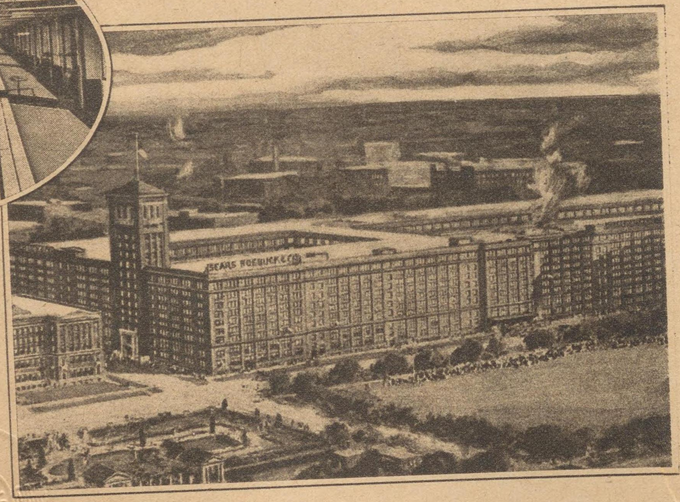
◇――昨一九二七年度の全米三十の主要メイル・オーダー及びチエイン・ストア資上總額はウールウオース約一店の數倍、四九回でも述べた通り、十九億一千三百萬弗、その第一位は實にわがシーアズ・ローバックで、二億七千萬弗のレコードを示し、次位のウールウオースのそれを凌ぐこと正に二千萬弗であつた。

◇――だが今日これだけの商資をしてゐるシーアズ・ローバックも元をたゞせばミネソタ州の田舍の或る停車場に勤めてゐたダブリユー・シーアズといふ靑年が、一八八六年のころ、荷送人と荷受主とのゴタ〳〵で宙に迷つてゐた時計の荷を引受け、暇にまかせて方々の知人へ手紙で時計の賣付を始めたに由來し、これはシーアズ・ローバック（ローバックは時計製造人で後にシーアズと共同したゝ）のスタートであるのみならず、又通信販賣の濫觴であるといふ。

◇――この時計屋が後にすべての雜貨に手を延ばして今日のシーアズ・ローバックと成長したのであるが、今ではシカゴを本店に、紐育、費府、アトランタその他重要都市の六支店を初め、目ぼしい商品の製造工場を經營し、その當年客は優に一千萬家族に上ると稱してゐる。

◇――寫眞はシーアズ・ローバックのシカゴ本店（下）と注文品發送のため同店構内に引こまれた貨車（上）





(20) フロリダの燐礦

◇―燐酸肥料原料としての燐礦石は、少くとも現在の生産狀況からいつて屢らく最も地理的偏在性を有する礦石原料の一つであらう。實に世界燐礦石總産額約九百萬屯（一九二六年度）の大凡半分がアルゼリア、チユニス、モロッコ等の佛領北アフリカからの供給で、次が米國、といつてもフロリダが主であるが約三割ぐらゐ、殘り二割がその他の諸國の割前である。

◇―尤もこの燐礦石を原料とする過燐酸工業の分布となると、些か事情が違つて來て、アメリカ、フランスは原料供給の關係上、その隆盛は當然だがその外に獨、英、伊の諸國も相當に割り込んでゐる。

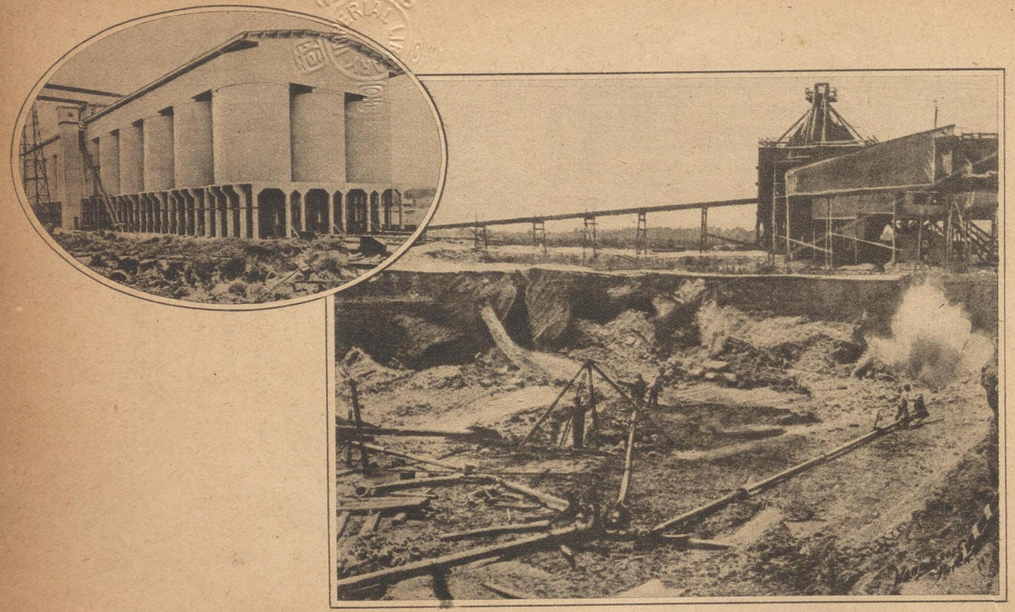
◇―フロリダの燐礦石發見は一八八一年ごろであるが、實際採掘に着手したのは一八八九年だといふことで、その礦石の燐分含有率が高いのと、埋藏區域の大部分が海岸から四十哩以内にあり、從つて運送に便利なため、採掘事業は目覺しく發展し、

◇―現在では中部及び西フロリダ一帶の松林や棕梠の茂みをわけて、最新式を誇る採掘設備が時を得顏にのさばりかへる。從來の辛氣くさい手掘りの方法に代はるその最新式の採掘設備といふのは、

◇―ポンプの力を利用して一分間に十五萬ガロンも吹出す强壓の水を、礦床（フロリダの燐礦は主としてランド・ペップルと稱する 様のもので、時にはその中からその生成を物語る鮫の齒や犀の骨などが出て來ることもある）へ吹きつけて燐礦の泥を造り、更にこれを別のポンプで吸收する。それから水洗ひにかけて砂や粘土を除去して後乾燥するといふ順序で、

◇―たゞそれだけといへばそれまでだが、なーんだと思ふ人は何はともあれ是非一度フロリダを訪うて、茫漠三十二萬英畝にわたる燐礦床とその採礦作業を實見して貰ひ度い。

◇―寫眞はフロリダの燐礦採掘作業と燐礦貯藏庫



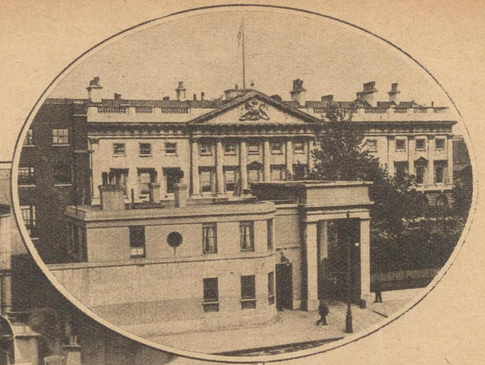
(21) ロンドン造幣局

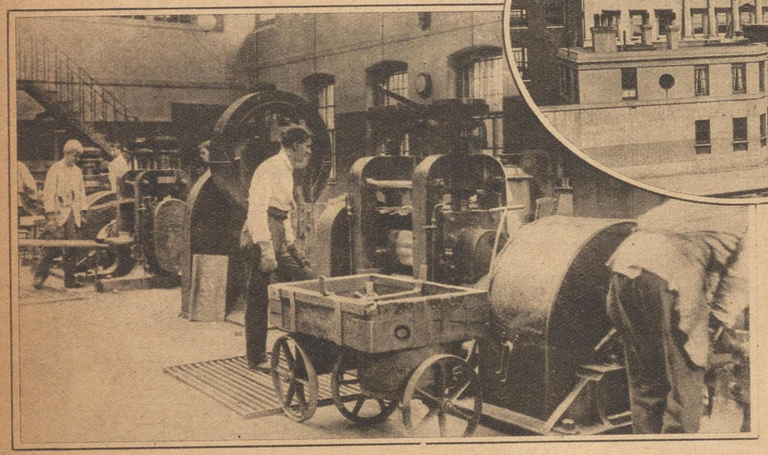
◇――イーストのローア・ヒルにあるロンドン造幣局、一八一〇年の建設で、その當時工費二十五萬磅以上もかゝつたといふ。金銀貨といはず、銅貨といはず、すべての硬貨が此所で鑄造されることゝ我大阪造幣局と變りはない。

◇――當初は造幣局長といふものがあり、最も古い局長はヘンリー一世の時代から名が知れてゐるが、一八七〇年の貨幣法で局長の職がなくなり、メリーバラ卿を最後として大藏大臣の兼任になつてしまつた。

◇――希望者には參觀を許して呉れるが、許可を得るまで二三週間もかゝるのでその積りで申込んでおく必要がある。

◇――寫眞はロンドン造幣局（上）と金の伸金を金貨の厚さに引伸ばす作業（下）





(22) 英國炭坑夫聯合本部

◇——一九二六年五月、坑主の炭坑夫ロックアウトに憤激した全英三百萬の勞働者が、未曾有の總罷業を決行して英國内は勿論全世界を驚倒させたことは、まだ記憶に新たなところであるが、その主動たりしイギリス炭坑夫聯合會本部はロンドン●ウエストのラツセルス●スクエアにある、總罷業は旬餘にしてけりがつき、炭坑罷業自身も結局は坑夫側の敗北に終つたが、建物はなほ百二十萬組合員の隱れたる力を表象する如く默々と立つてゐる、聯合會幹事長エイ●ゼイ・クック氏は有名な熱辯家、罷業當時の援助を感謝すべく同年末から翌年正月にかけて勞農ロシアを訪問したが息子と娘はロシアで教育するといつた凝りかたである。

◇——寫眞はイギリス炭坑夫聯合會本部と幹事長クック氏

(23) 蘭領ボルネオのB・P・M

◇——米國系のスタンダードと相對立して世界の石油界を二分する英國系のローヤル・ダッチ・シエル・シンヂケートが成立したのは一九〇七年である。その時の條件の第一にローヤル・ダツチ及びシエルの兩會社は各自獨立の存在を有するがその資産をあげて新設會社に引繼ぐことあり、その結果出來た新會社の一つが卽ち和蘭のバタフイツシエ・ペトロリウム・マスカツピー(B・P・M)で、いま一つが英國のアングロサクソン石油會社である。

◇——蘭領ボルネオの東岸マカツサ海峽を隔ててセレベス島に對する小港バリクパパンは殆んどこのB・P・Mの存在によつてのみその名を世界に知られてるといつてよい。この會社は產油及び製油事業のみを營みその製品の運搬、貯藏、販賣は全部これを姉妹會社のアングロサクソン石油に委ねてゐる。創立當時の資本金は一億四千萬ギルダーだつたがその後度々の增資で現在は三億ギルダーを超えるか。

◇——寫眞はバリクパパンのB・P・M

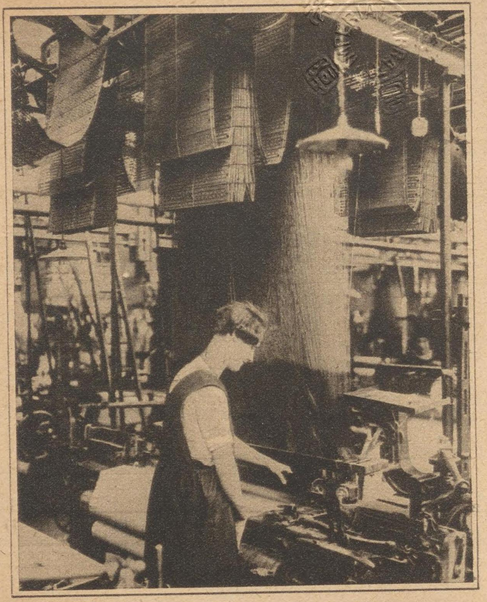
(24) ランカシアの織布業

◇——綿絲布は英國總輸出高の五分の一（一九二七年度輸出總額七億九百萬磅、內綿絲布一億四千八百萬磅）を占め、我が生絲と同樣屹然大宗の地位を保つてゐるが、斯業は殆んど全部ランカシア一州に集中せる觀があり、その內織布業は東、北ランカシア一帶にわたり、ブラックバーン、バーンレイおよびプレストンはその中心地である。

◇——一九二七年英國の綿布輸出高は一億一千萬磅で仕向先は印度を第一とし支那これに次ぐ、しかしこの輸出高もその前年に比して六百萬磅、前々年から見れば實に四千萬磅以上の減少で、明かに斯業衰頽の傾向を語るもの、その理由たるや日本、印度內地、さては伊太利等海外諸國に發達せる新進綿業の競爭、打續く動亂による支那の需要不振その他、數へ來れば二三にして盡せぬが。

◇——何れにせよ、これによつて當面の痛手を受けるランカシアでは、紡績業者や機械業者が調査會を造つたり、委員會を設けたりして、この綿業行詰りの打開策如何と今だに（一九二八年四月）小田原評定を續けてゐるがそのひねり出した名案といふのが、不引合な事業の整理はまだよいとして、標準勞銀の二割五分引下げ、一週四十八時間を五十二時間十五分へ勞働時間の延長など、時代ばなれのした迷案では、義理にだつて英國綿業の將來を祝福する譯には參らぬ次第。

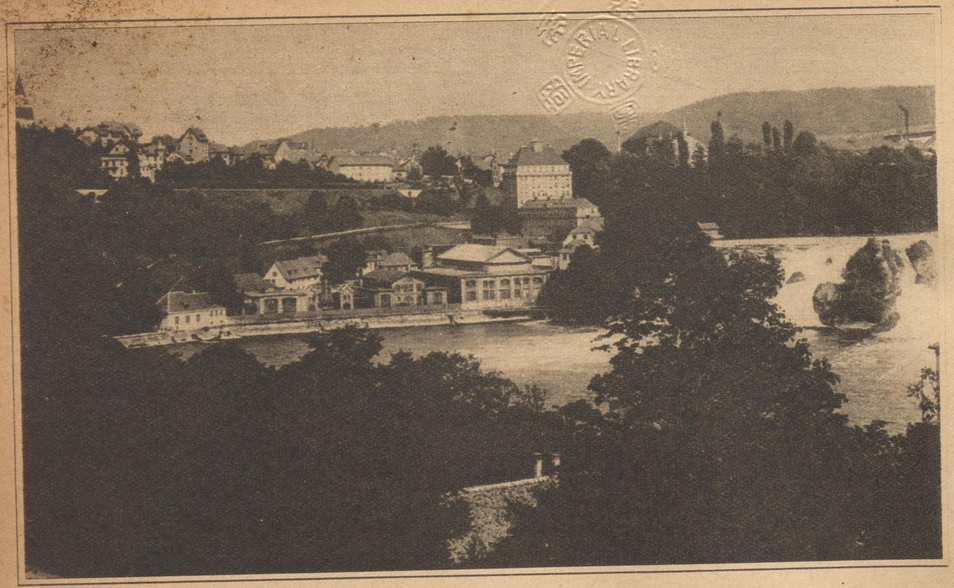
◇——寫眞はプレストンの綿布工場における、モダンガールの作業振り、使用せる最新式ジヤツカード紋織機はフック八百を有しごんな複雜な意匠でも自由自在に織り出すといふ。



(25) スイスのアルミ工場

◇——アルミニウムは器具および合金として日常生活にも漸次重要さを加へつゝあるが、たゞ需給量の關係から殆んど世界的に價格の協定が行はれて他の卑金屬の樣に市場が廣くない、現今本邦には全く生産がなく盡く輸入に仰いでゐる、產地としては米國、加奈陀、スイス、ドイツ等であるが我國に輸入せらるゝ年額約四千二三百屯の中半額以上はスイスから來る。

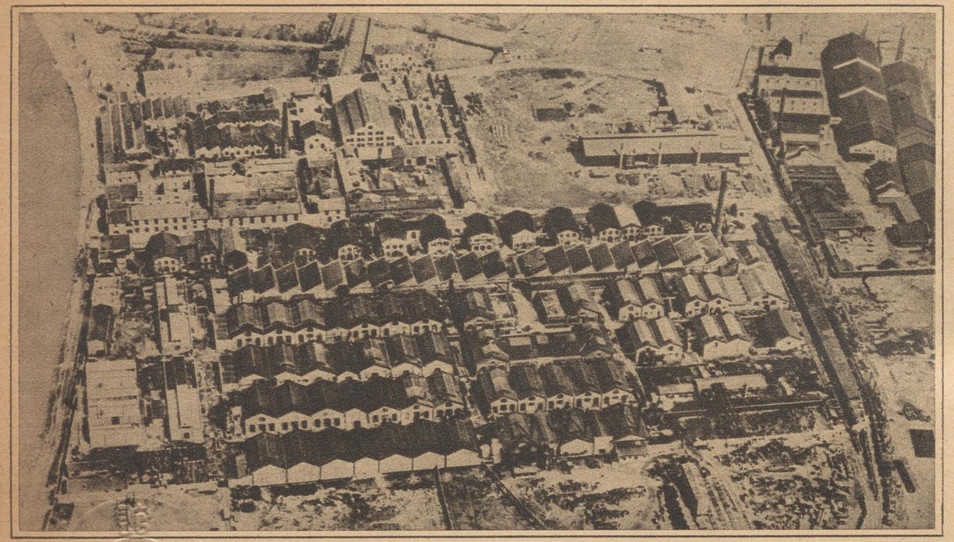
◇——寫眞はスイスにおいて殆んど獨占的地位を有するノイハウゼン・アルミニウム會社のチッピス工場



(26) ローヌ化學工業

◇——歐洲大戰はドイツに限らず相場が極つてゐた化學工業を各國に移し植えた、尤も戰後はまた元の本阿彌に歸つてゐる國々もあるが、お隣りのフランスでは、戰爭中急速の進歩を見せた化學工業は今日に至るまでなほ比較的堅實な發展を續けてゐる。殊にローヌ化學工業會社（ソシエテ・シミック・デ・ジュージン・デュ・ローヌ）の製品たる醫藥、工業藥品、香料等の如き其は、既に世界的聲價を博し、品質價格に優にドイツ品に對抗することが出來るといふ。

◇——寫眞は同會社のサン・フオンス工場



(27) ウイルソン・ダム

◇――米國政府が、アラバマ州のテネシー河に大規模のダム（堰）を造つて發電設備をなし、これによつて空中窒素の固定工業を起すべく計畫したのは、まだ歐洲大戰中のことであつたが、最近この設備が漸く完成して、いよ〳〵作業開始の段取となつた、工事費總額一億五千萬弗だといふ。

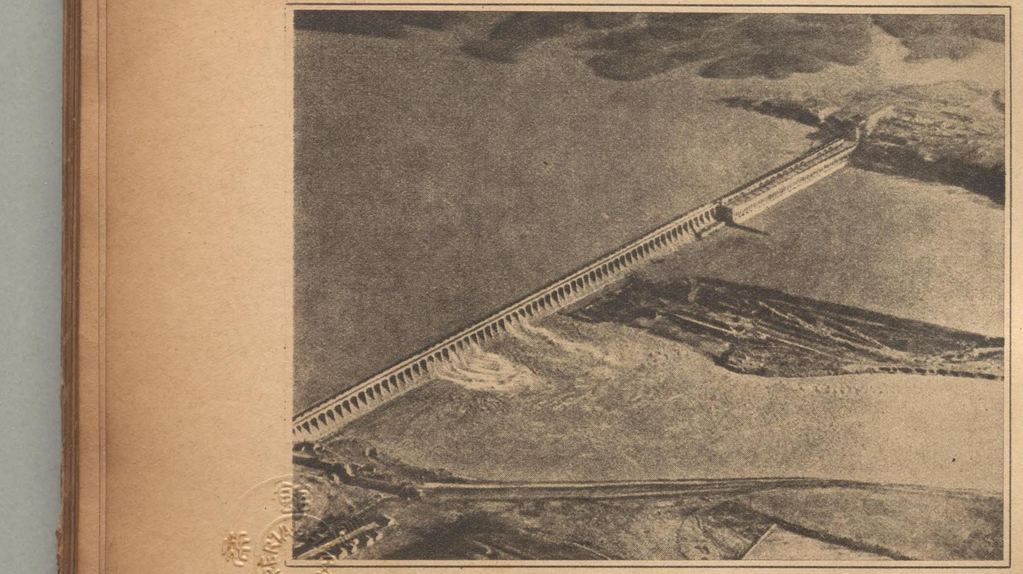
◇――空中窒素固定工業ほど調法なものはない。平時に於ては肥料（硫酸アンモニア）を造り、戰時には同一設備で硝酸を造り更に彈藥に變へる。この一石二鳥の効能あるによつて窒素工業は近代工業中の人氣者、我も我もと各國競ふて窒素工業の育成に血眼だ、殊に電力過剩に惱んでゐる樣な國にとつては、この工業の發達は正に一種の廢物利用法として盛んに研究利用されんとしてゐる。

◇――前記テネシー河マッスル・ショールスのウイルソン・ダムによる發電力は十萬馬力、その窒素固定能力は年額四萬屯（硫安として計算すれば約二十萬屯）米國現在の窒素分年產額を十萬屯（硫安にして五十萬屯）と見積れば、その增加率は二割五分に當る。

◇――しかしながらこゝに問題となるのはマッスル・ショールスにおけるこの窒素固定の新設備が、古い石灰窒素法によつてゐることだ。御承知の通り窒素固定の方法には、アーク法があり、石灰窒素法があり、更にアンモニア合成法がある。しかるにマッスル・ショールスでは、シヤン化カルシュウムの形において窒素を採取し、これを改めて硫安に再製するの方法をとつた、從つて合成法などに比して原價も高くつく道理で、マッスル・ショールスの設備は今日では既に時代遲れだと、米國の專門家さへ正直に白狀してゐる。

◇――だが彼等は口を揃へて次の如き自惜みをつけ加へることを忘れない、いはく「假令この窒素計畫が失敗であつたにせよ、ウイルソン・ダム自身の價値には毫も相關せぬ。それは增滿水期の水量調節によつて、テネシー河の航行を容易たらしめ、且つその水害を防止すること

◇　寫眞はウイルソン・ダム



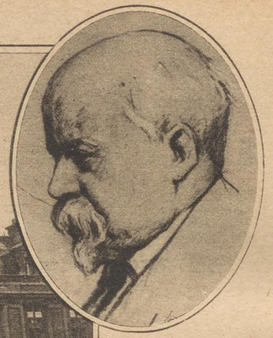
(28) フランスの財政

◇——フランスほど勝者の悲哀を痛切に感じた國はない。たゝき潰されたドイツの財源がドーズ案に救はれて、當面の難問を解決し回復に精進しつつあるにひきかへ、勝者たるが故にフランスは、石に噛りついても自力で整理を行はねばならぬ。ポアンカレを推して擧國一致内閣を組織せしめたものは實に「フランスは破産するぞ」の叫びであつた。

◇——一九一四年に三百四十億フラン（十三億磅）であつたフランス國債は戰費の負擔と爲替の低落の爲に一九一九年には一兆千四百七十億フラン（五十八億磅）の巨額に達し、戰後も一九二二年の三千百七十億フラン（百二十億磅）一九二六年の五千六十二億フラン（六割は内債、四割は外債）と鰻上りに停止する所を知らぬ狀態で、その利拂だけでも如何に國民の重荷となつてゐるかは想像に餘りある。從つて豫算もまた漸次膨脹し、戰時中は例外としても一九二六年度の豫算總額は一九二二年に比してさへ丁度二倍の歲入約三百七十五億フラン、歲出約三百七十三億フランで、しかも歲入の八割までは租稅收入であり歲出の六割が大藏省支出であるといへば租稅過重の苦痛と利拂の困難を思ふに十分ではないか。

◇——たゞしかし幸にしてフランスはこの際この難局に處するに足る巨人を持ち合せてゐた。首相ポアンカレその人である。佛國民は一九二六年七月以來、異常の熱心さを以て彼に對する絶大の信任を續け、しかしてこの信任は決して裏切られはしなかつた。彼ポアンカレによつてとにかくフランは安定した、フランスは破産せずにすんだ、財政の均衡も漸次回復するやうだ、窮すれば通ず、フランスは仕合せ者である。

◇——寫眞は重荷を負ふフランス大藏省と首相ポアンカレ氏

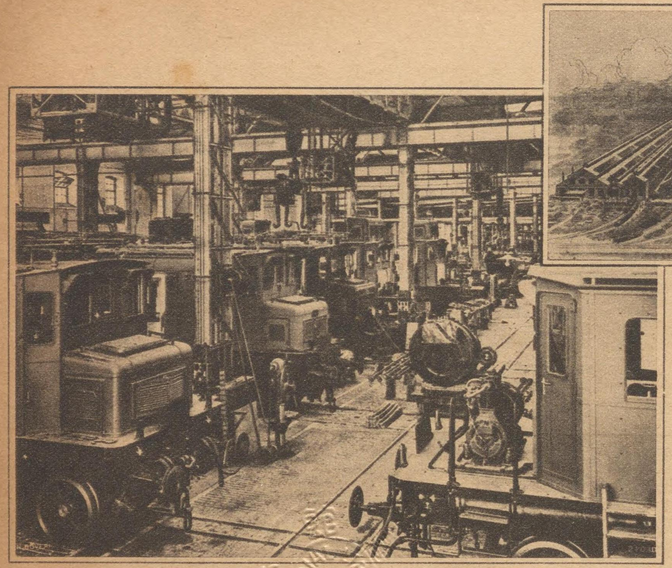


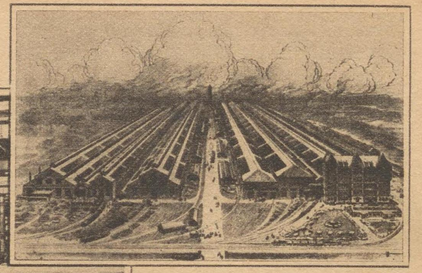
(29) 電力時代

◇——石炭の壽命には限りがある、坑は深くなり採掘費は遞增する、石油全盛の終焉も時期の問題である少くとも時代の有するポシビリティの範圍において永久變らざる動力の根源は水力であり、その變形たる電力である、我國なども水電力はその總量こそ米國あたりには比較にもならぬが、柄相應に豐富であり有望であるといふ。

◇——しかるにも拘らずこの國は、電力の高價さにおいて世界に尤たるものであり、電力の高値はこれを動力とするあらゆる工業に作用してその競爭力を弱めること大である、我國における殆んどすべての發電所がその機械設備を英、米、瑞西等の外國品に仰がねばならず、從つてある期間外國技師も要るし、機械の維持修繕も長く外國人の御世話になつてゐる事實は、おそらくは電力高價の一理由に相違ない、少し大きくいへば電機工業は間接にそれが造り出す動力を通じて、直接にはそれ自身一の重要なる工業として一國全工業の進退を支配するものであると考へて來ると、諸外國における斯業の發達と盛況は衷心羨望に堪へぬ。

◇——寫眞はスイス、バーデンのブラウン・ボウエリ（上）と英國トラフオード・パークのメトロポリタン・ヴイツカース電氣機關車工場（下）の兩電氣會社工場





(30) ル・クレデイ・リヨネ

◇――ル・クレデイ・リヨネは預金銀行としてはフランスで一といつて二と下らぬ大銀行家である、一八六三年の設立で當初は地方的な工業金融を主たる業務とし、會社設立等に關與して漸く盛大に赴いたが一八八二年の恐慌に際會して、工業界の沈衰と共に大打擊を受けて信用地に墜ち預金の半額を取付けられて以來、事業方面に關係する危險を悟つて、全然預金本位の方針を確立したため行運も急激に回復伸展し、その後同種銀行經營の模範となつてゐる、現在の資本金は二億五千萬フラン、フランス國内は勿論國際支店もほゞ世界各地に行きわたつてゐる。

◇――寫眞はリヨンのル・クレデイ・リヨネ

(31)

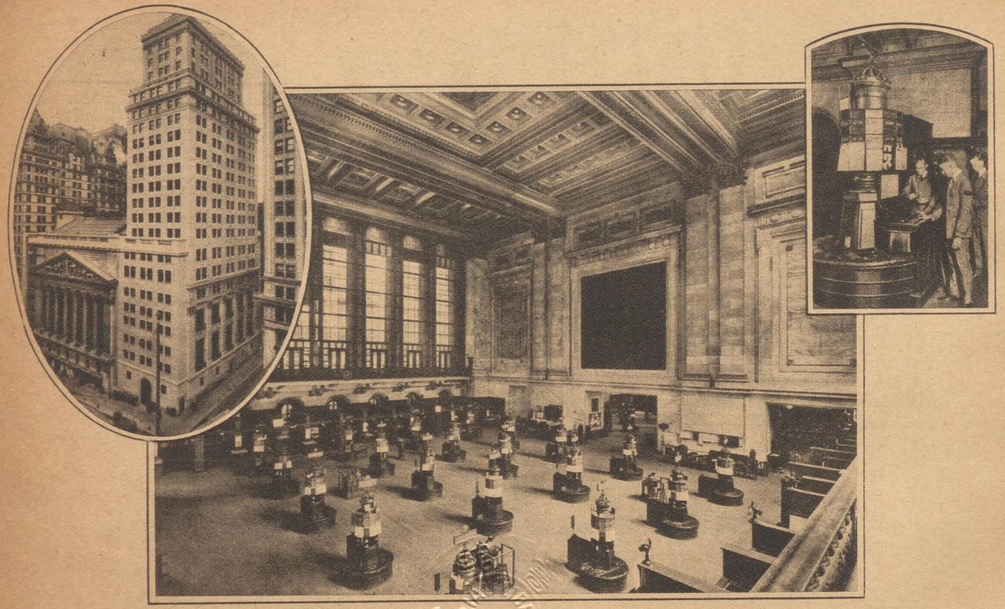
紐育株式取引所

◇——黄金のうなるウオール街もその昔荒寥たる新開地であつた時代がある。ニューヨーク株式取引所の創立はそのころ即ち一七九二年だといはれてゐるが創立こいつても當時野外の市場で肉類や奴隷の賣買をしてゐた三十四人の仲買人が口錢の最低額を定めるために團結したのが緣で、その後二十五年經つて今のウォール街四十番の邊にあつた珈琲店の二階を借りて集合したのがその濫觴ださうだ。

◇——かくさゝやかに集立したニューヨーク取引所も今では會員の數が千百名、從來の建物は工費三百萬弗こいふ堂々たるギリシア建築であるが、最近これも手狹だこいふので更に七百五十弗を投じて隣りに二十二階の建增をやつた程の發展振りで、その會員の權利が十萬弗以上を稱へてゐる。一九二七年一月における上場の株式及び債券の銘柄數は國內政府物七六、同會社物二、一七七、外國政府物一三五同民間物一一三である。

◇——取引は午前十時から午後三時までのザラ場（場節を分たず立會を繼續するもの）で廣い床上に各株別のスタンドが並列しこれに下つてゐる表示機に相場が刻々に電氣仕掛で表はれる、時間になるこ千百名の會員中每日半數位がこのスタンドをめぐつて賣つた買つたに狂奔するが、從來一日の出來高株式百八十萬乃至二百萬株、債券千萬乃至千二百萬弗位であつたが、一九二八年三月の市場狂奔以來、株式は四百萬株に上るこも珍しくなく、債券も千五百萬弗平均になつてゐる。賣買單位は株式百株、債券千弗、決濟は翌日午後二時十五分限りである。

◇——寫眞は紐育株式取引所の建物（左上）こその立會場（下）（小さく並んで見えるものは表示機のスタンド即ち右上圖）



(32) モルガン商會

◇——ウオール街の一隅、紐育取引所の筋向に、林立せる大廈高樓に挾まれて、これはまた小ぼけな「交番」みたよな建物があるがこれこそは全世界の金融界に君臨するモルガン商會である。普佛戰爭の終りのころセダンの戰に大敗の憂目を見た佛國臨時政府を相手に、二億五千萬フランの公債を引受けてその大膽な遣口に世間を驚かせ、一擧に五百萬弗を賺込んだ初代モルガン、一九〇〇年全米鐵鋼生産高の七割を代表する諸會社を糾合してユー・エス・スチール會社を起し財界の「ジュピター」と崇められた二代モルガン、更にこれをつぐ當主ジエイ・ピー・モルガンは、「唐様で書く」日本流の三代目とは大違ひで大戰を機として聯合國の金融代理を一手に引受け、名實共に財界の王たるモルガン商會の地位を確立した傑物である。

◇——モルガン商會は當主モルガン外十一名の組合組織で考課狀を發表する譯でなし内情は全く分らないが、一九二七年第二期(同年六月末で終つた三ケ月間)の證券引受額が二億一千餘萬弗で、ブレーア、ハルセー・スチュアート、クーン・ローブ等金融界の巨商連に比しても依然第一位を占め斯界の「法王」の名に背かない、貧乏國日本は國辱公債、横濱市債などで毎度モルガンの世話になつた、今後も始終世話になるだらうが、同商會の大番頭ラモント君は非常に日本に好意を持つてゐるさうだから借金暮しの日本には好都合だといふ、が併し「七つ屋でほめられて」喜ぶ都々逸ばりの借金政策などは有難くない。

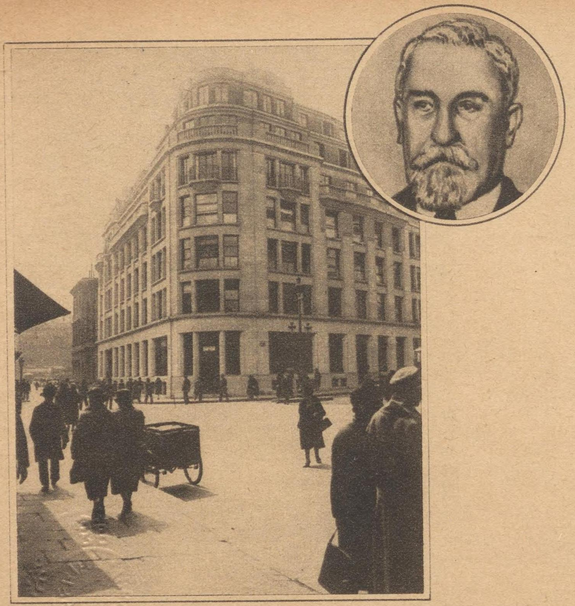
◇——寫眞はモルガン商會。

(33) パリ商業會議所

◇――英米のそれと違ひ佛蘭西の商業會議所は半官的のものでその組織事務等は一八九八年の商業會議所法によつて規定され、かつ少くとも一州に一個の會議所の設立を要することゝなつてゐる、一方に商工業者の利益を代表し兼ねて政府の諮問機關たること諸國の制度と變りはないが、何處かの國の商業會議所の樣に主張の徹底効果の如何など始めから問題にせず大小事件片つぱしから建議陳情と騒ぎまはるかどうかは聞きもらした。

◇――現在フランスには總數百四十三の會議所がありマルセイユの會議所の如きは千四百年代から存在し世界最古のものと信ぜられてゐる、パリの商業會議所は一六〇七年ヘンリー四世の時代に商業局の名で設立せられ重要なる公共機關として市政に關與し商業、海運等の爭議の裁決にも當つたといふ、春風秋雨三百餘年その間の功績の程は知らぬが、現在は議員が四十人、セーヌ州の知事を顧問としブールス街頭に聳えてゐる。

◇――寫眞はパリ商業會議所と會頭ケムフ氏



(34) 紐育の貯蓄銀行

◇——四分の利息で小金を貯蓄銀行に預けておく人はアメリカでは慾の皮の薄い、ごちらかこいへば時勢を解せぬ連中こ見られてゐる、五百六百こ纏つた金を摑んだら先づ六分見當に廻るボンドを買ふのが戰後民衆の大流行である、だから下宿屋の婆さんでも床屋の親方でもごこの社債の昨日の相場はかうで何公債は何分の一ポイント下落したこいふ位な事は昨日ルースが何本本塁打をかつ飛ばしヂヤイアンツが何點勝越したこいふ好きな野球のスコーアこ一緒にチヤンこ暗んじてゐる。

◇——それ程ボンド熱横溢で猫も杓子も有金をこの方面に投資してゐるのだが、それでゐて押されるはずの貯蓄銀行の預金がこれまた殖える一方、一九二六年度全米の貯蓄銀行一五五二四行の預金總額は九十五億九千九百萬弗を突破したのだからエラいものだ、紐育市のみでも六十七の貯蓄銀行があるが一九二七年一月一日におけるその預金が總額二十九億四千八百萬弗、一年前に較べて一億弗以上の增加であつた、これ等の數字を我國全國貯蓄銀行預金總額十億六千四百萬圓（昭和元年十二月末現在）こ比較すればその桁外れの相違に驚く外はない。

◇——紐育の貯蓄銀行中主なるものはイミグラント・インダストリアル（口座數二十萬預金二億八千六百萬弗）、バツリー（口座數二十一萬預金二億六千八百萬弗）ウイリアムスバーグ（口座數十三萬預金一億六千六百萬弗）で、普通これをビツグ・スリーこ稱してゐる。

◇——寫眞はチンエバース街のイミグラント・インダストリアル貯蓄銀行

燐寸とスエーデン

◇　小學讀本の口眞似ではないが世に燐寸ほど重寶で厄介なものは稀であらう、そして便利であるだけまた厄介でもあるだけ今日では燐寸の使用は寧ろ奢侈と思はれるまでに一般的となりかつは卑近となり過ぎて、却つて看過せられてゐることであるが、發明以來それが近代人のいはゆる文化生活に貢獻した所は決して僅少でないはすでである、併し我々にとつてもつと利害あり興味のあるとは現在燐寸工業が殆んど全世界にわたつて同一資本系統に屬する生産機關によつて生獨占的支配を受けつゝあり、しかもその世界的燐寸トラストの中心勢力といふのが國際經濟界では比較的影のうすい瑞典であるといふことだ。

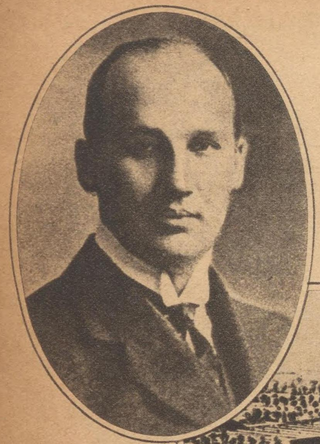
◇——瑞典が世界燐寸市場に於て今日の如き壓倒的勢力をかち得た理由は、第一に瑞典が總面積の五十六パーセントといふ廣大な森林を有し、燐寸の主要原料たる軸木供給の豐富なであり、第二に經營者の才能と勞力の結果であり、更に第三として國内の生活程度が一般に高く從つて勞働者の勞銀が高いので、勞働が原價の主要部分である燐寸工業では生産費減少の策として技術の進歩、設備機關の整備に精進したとである、これはさもあるべき當然の成行であるが、低廉な勞銀を以て外國の競爭に對する唯一の絶對と考へてゐるそこらの連中にこの理窟は判るまい。

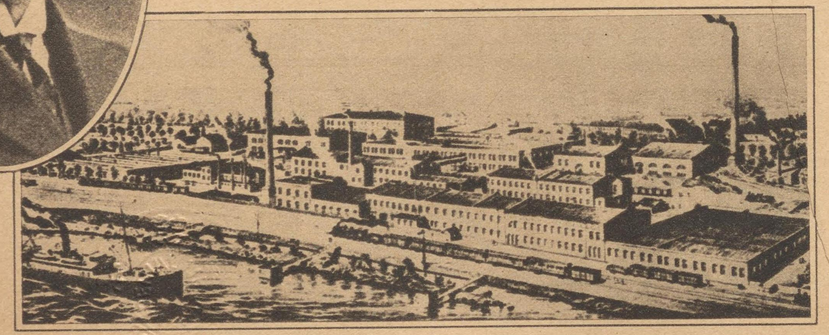
◇——燐寸と瑞典との深い緣の結ばれは昨日今日のことではなく、古く行はれた磷黄燐寸、次いで黄燐燐寸全盛の時代から十九世紀中葉の何とかして黄燐を使用しない研究の時代を經て、今日我々が有する安全燐寸を完成したのは瑞典ローヤルアカデミーのバツシュ教授で、その製造は同國エンケビングで、ルンドストレム兄弟の手によつて一八四四年に開始せられた、現在全世界の燐寸工業界に君臨する瑞典燐寸トラストのスタートはこの時に切られたのである、その後このエンケビング燐寸會社の盛況はやがてこれにならつた群小會社の簇生を見たが何れも物にならず、たゞチダホルム燐寸のみが一八六八年以來エンケビングに對して劇烈な競爭を續けた結果一九一七年に到つてお定りの合同といふことになり、スフエンスカ燐寸會社を中心とする瑞典燐寸トラストの陳容漸く成つた。

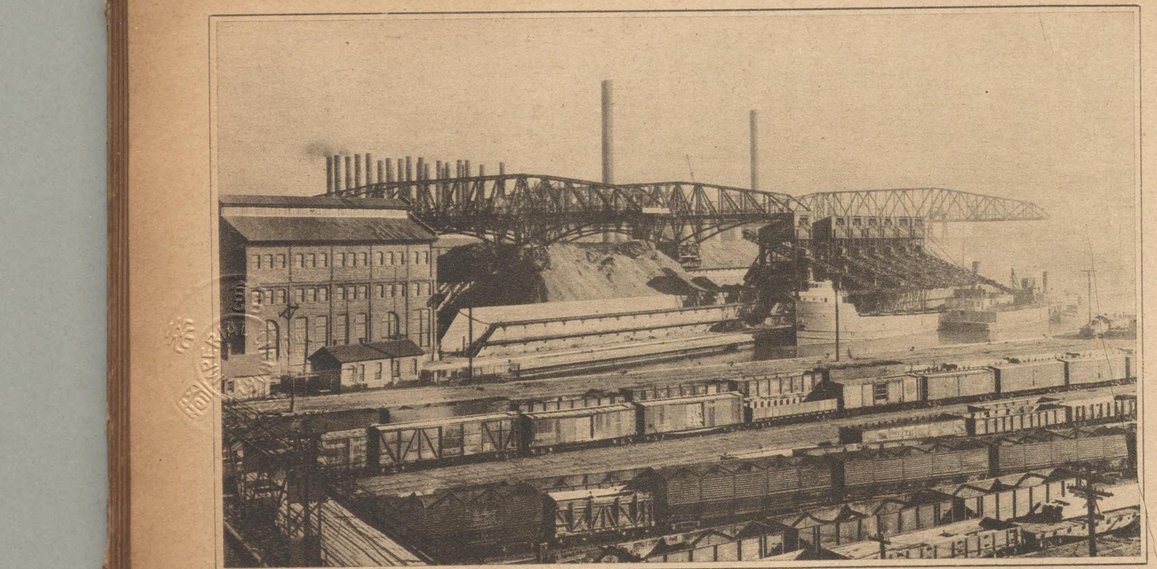
◇——これらの燐寸會社をして國内の競爭をやめて一意外國侵略の方針を決せしめた直接の動機が日本燐寸の東洋市場獨占であるといふから面白い。印度、支那を始め極東市場は久しくスエーデン燐寸の獨壇場であり好華客であつたが、今世紀の始め以來日本燐寸は漸次これ等の市場に進出し、殊に歐洲大戰中は印度以東に瑞典燐寸の影を見ざるまでになつた、こゝにおいて瑞典燐寸トラストは一九二三年先づロツクフエラー財閥に屬する米國燐寸を征服しインターナショナル・マッチ・コーポレイション（國際燐寸組合）を作つて當然興るべき競爭者を押へ北歐、中歐、南米、英國及びその屬領における絶對優越を確保しておいてさて最後の目標たる日本燐寸の征服にかゝつたものだ。

◇——その結果公益社、小林燐寸、日本燐寸等の諸會社が相次いで強力な資本の前に膝を屈し、やがては一九二七年秋の前記三會社と東洋燐寸との合同から、大同燐寸の創立となり、極東市場もスエーデン燐寸王國の一版圖となり終つたことは人の知る通りである。相手が世界總人口の三分の一は毎日我がトラストの燐寸を使ふと稱する豪の者だけにそれも仕方があるまいが、孤城落日の哀れは深い。

◇——寫眞はスフエンスカ燐寸總務クロイゲル氏と同社エンケビング工場







ユー・エス・スチール

◇——前世紀の終りにおける米國鐵業界は數個の大製鐵會社が諸所に割立して互ひに鎬を削つたものだ、しかし現在あれほどの爛熟振りを見せてゐる米國財界も當時はどちらかといへばなほ幼年期を脫せないのに、殆んど周期的な世界的不況や恐慌には用捨なく見舞はれるし、驚くべく急速な製鐵法の進歩は目まぐるしいばかりに各種設備の改造を要求するし、かたゝ〳〵是等製鐵會社は利益は減少する金融は梗塞するで、自由競爭のどゝの詰りは我首を締めるものといふ經濟法則に引つかゝり、技術的不利益も加つて、彼我ともに八方塞りの苦痛を存分に體驗した。かゝる狀態の下に見出し得る唯一の活路は——素人でも答へ得るといはゞ新案の大合同、この當道を辿つて生れたのが即ちユーナイテッド・ステイツ・スチール・コーポレイションへ合衆國製鋼組合略してユー・エス・スチールである。

◇——一九〇一年當時フエデラル・スチールの社長で最近一九二七年九月死んだゲイリー氏を經營の首腦に押し立て、先代モルガンがその後押しとして金融方面を引受け、その他幾多の有力者を連ねてユー・エス・スチールの最高機關を造つたものだ、そしていはゆる三大要綱(一)需要者に對しては出來得る限り多量に且つ正當の價格を以て供給する(二)競爭者に對しては飽くまで力強き抗爭を行ふ(三)勞働者に對しては經營の許す限り高率の賃銀を支給することを定めた。

◇——米國政府は一九一一年獨占と價格釣上の故を以てユー・エス・スチールの解散を要求し結局最洲裁判所及び大審院の審理に移されたが消費者も競爭者も口を揃へて同社の正當を立證したといふので政府の敗訴に歸したことなどもある、使用人の賃銀は一日平均五弗八八仙に上り、學校ありクラブあり敎會あり、その他勞働者福利施設何一つとして具備せざるなしといふ。

◇——設立當初の資本として七分配當の優先株が五億二千萬弗、普通株五億八百萬弗五分利社債が三億三百萬弗、その他社債及び附屬會社の資本等八千萬弗であつた。現在においては普通株は元通りだが優先株は三億六千萬弗に減じ、資本外負債も五億九百萬弗と發表してゐる、尤も全負債を勘定すると十三億七千七百萬弗になるがこれを代表する證券の市場價格は十七億七千八百萬弗と稱せられ、總資産は二十四億四千萬弗とあるから、その株式が米國における上場花形株として國内にてもはやさういのみならず米國財界の反射鏡として全世界の經濟界に跳梁のするも宜なる哉である。

◇——ユー・エス・スチール設立當時における生産能力は銑鐵が七百四十萬トン、鑄製鋼九百七十萬トン、製鋼七百九十萬トンであつたが、一九二五年には銑鐵千八百九十萬トン、鑄製鋼一千二百七十萬トン、製鋼一千六百二十萬トンで、その生産は全米鐵産額の四割を占め、百系會社二十七、傍系會社六十五、所有鐵道三千八百マイル、運搬船數百隻、使用人員三十五萬人に及ぶと誇つてゐる。

◇——寫眞はユー・エス・スチールのイリノイ工場

(37)

ロンドンの糶賣所

◇――糶賣は和蘭などで隨分古くから盛んに行はれたもので、特にその方法が糶手の方から段々と値を呼ひ下げて行くのでこれを和蘭競賣法と稱せられるほどだが、今日糶賣が最も盛んに且つ流行言葉で所謂民衆的となつてゐるのは世界諸都市中ロンドンに及ぶものはない、市内各所に幾十の有名なオークション・ルーム（糶賣所）があつてそこへ行けば年中あらゆる種類の品物―主として中古品―を手に入れことが出來るがその糶賣所がまたそれ〳〵專門とするところを有してゐるから面白い。

◇――キングストリートの聖ジエイムス劇場に向ひ合つてクリステイ競賣所がある、ジエイムス・クリステイといふ人が一七六六年に創めたもので繪畫、家具寶石類等何でも取扱つてはゐるが特に繪畫の競賣所としてロンドン隨一の名がある、毎日午後一時カツキリに槌を握つた糶手が一段高い壇上に立上る、その下に記錄係りの事務員が、賣りに出す品物の檢査兼説明役たる助手と並んでをさまる、場内はと見れば男といはず女といはずあらゆる種類のお客さんがギツシリとつめ込んで、その内には批評家もゐる鑑識家もゐる、美術館や博物館の所員もゐれば熱心な骨董蒐集家もゐる、之等の連中を前にして淀みなくドシドシ賣買を進めて行く糶手の冷靜さ、よく徹る節面白いその聲等素敵な見ものであるが、

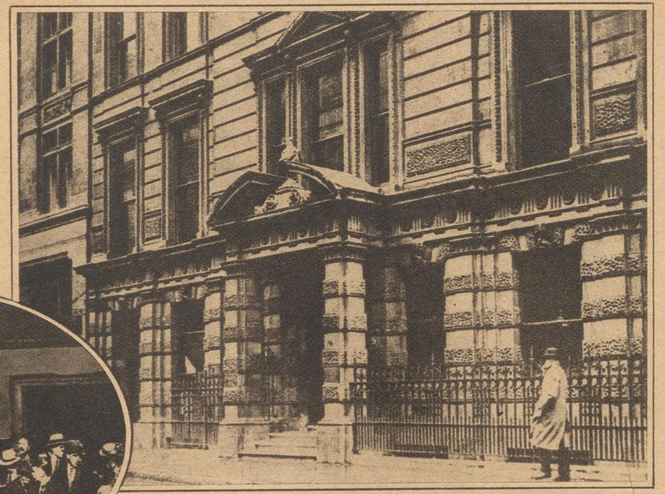
◇――殊に驚くのは隅から隅まで行きわたるその眼の力である、客の一寸した動作や身振りの意味を實に巧みに讀み取つて「エー百ギニー、エー百ギニー」と代言する、そしてグルツト場内を見廻すと「サーもう十ギニー―二十―五十―七十―二百、二百ギニー」と進めて行く鮮かなものだ、客の方ではこれを追ふて―追ふといふより糶手の聲につられて競うて値を上げて行く、特に目立つた相手でも出て來れば半ば意地になつて糶上げるのはどこの國でも見得る情景である、やがて「もうありませんか」とそこで槌がバタンと鳴つて一商賣濟む譯だ、緊張して來ると盛んな拍手が起ることもある。

◇――ボンド街のソーザビーは本專門の發賣所として世界的に有名で多くの稀覯本がその手を通つて世に出たものだ、何々文庫と名のつくやうな大きなものになるとこの競賣所の板の間で何千ボンドの金高が投げ合ひ投げ返し盛んに應酬される、そして結局は勝負が決まる譯だがその光景は「劇的シーン」と呼ぶに相應しいものだ。

◇――コヴエント・ガーデンのスチヴンス競賣所などでは之は又方面が變つて家庭用事務所用の器具類が大部分を占めてゐる、從つて婦人のお客が半數以上である、服オーバコート、敷布、卓子布、靴その他ありとあるものが集まつてゐるが、こま〴〵したものだけに糶手の腕はクリステイなどにも勝つて見榮がする、買手の顔など分るはずがないから「ソラ黑い着物の奥さんだよ」「あの蔭の方の旦那だ」と糶手が記錄係に敎へてやるがこれで問違つたことがないさうだ。

◇――しかしウエスト・エンドあたりの土地建物、老舗などの不動産競賣になると現物を目に見ての上でないだけに槌の音もたてずそれほどの騷擾もなく興奮もなく靜かに商買が行はれるといふ。

◇――寫眞はキング・ストリートのクリステイ糶賣所（上）とその内部（下）



(38) 日本を養ふ街

◇——そんな街があるのかと不思議に思ふ人、憤慨する人もあらうが、日本の生絲をアメリカが買はなくなつたら日本は忽ちバッタリ行詰る。アメリカが生絲を買つてくれるので日本が貧乏世帶の辻褄を合はせてゆけるのだから、アメリカにおける生絲取引の中心、ニューヨークの第四街はかうも呼べやう。ニューヨークには日本の御得意樣の絹織物製造業者が三百五十軒ほどあるが、その殆と全部がこの第四街に——もつとも少し許り隣通りのマヂソン街にも陣取つてゐるが——店を出してゐる。アメリカ絹業商會もこゝにあればアメリカ第一流の絹業會社チニーやスキンナアの出店もあり、原合名、日米生絲などいふ日本側の店も出張つてゐる、東二十六丁目から三十二丁目までの第四街は全く軒並に絹業者の店だらけ、この街と横濱神戸間の電報で日米の生糸商賣が毎日行はれる。

◇——何しろこゝ數年ばか〳〵しく好景氣で黒ン坊の女中君までが「お蠶ぐるみ」で、女は絹で體を包むのを昨今では生存の條件と心得てゐる。毛織物は全くすたれて嚴冬でも薄い絹の單衣の上に皮外套といふ醜態、羅紗がから見捨られた御陰でイギリス邊りは大打撃だけれども日本の爲にはこの贅澤風が至極結構、アメリカの一ヶ月の平均生絲消費高は一九二五年度が四一、七七九俵、一九二六年度は四一、七九七俵だつたが、一九二七年は平均四五、九四三俵になつた。この八割が日本物で、本年四月までの十二ヶ月間日本からアメリカに輸出した生絲は五十萬六百六十五俵である。

◇——この日本生絲がどういふ風に使はれるかといふと、六割が廣幅物になり四割が靴下手袋類になる。ところで絹の靴下といふやつがジヤヾ音樂をさへ凌ぐ大流行大人氣、從つて靴下製造工場の殖えてゆく事これまた夥しくそれに品質さへよければ金はいくらでも出すと製造業者もエライ鼻息で一本絲で靴下の織れるやうな生絲がないかなんて注文して來る。でダブル・エクストラのその又上のトリプル・エクストラなんていふ極々最優品が出て來るといふわけ。

◇——アメリカにはビリオン・ラダー・インダストリーといふ大工業が約十五ばかりあるが、絹業もその中の一つである。一番大きな絹織物會社は廣巾物ではコネチカット州サウス・マンチエスタアのチニープラザアス（資本七百萬）とマサチユセッツ州のスキンナア會社（職工三千人、機械二千五百台）靴下類ではペンシルヴアニア州のバアクシア會社（資本一千萬弗、職工二千八百五十人）などであるが、一九二〇年には全米の絹業工場二、五二七であつたのが二九二七年には三、四〇四に增加してゐる。

◇——寫眞はニューヨークの生絲街フオース・アヴエニュ

通用せぬ國庫券

◇十七支那武漢政府（後に南昌政府と合併）は、一九二七年四月十七日戰時經濟委員會の決議に本づき、現銀集中條令を發し、支那銀行に對し兌換を停止せしめ、現銀を所持するものはこれを新たに出來た中央銀行のほかには中國、交通の二銀行紙幣と兌換せしめ、市場における一切の現銀流通を禁止した。かくて中央銀行が巨額の不換紙幣を濫發したことはいはずもがなである。

◇——勿論條例には前記二銀行券の收受を拒絶したり、硬貨を買收したり、紙幣を打歩をつけたりすることを禁止し、嚴罰を以て違反者を威嚇してゐるが、實際には商人等は品物の値上によつて巧みに紙幣割引の目的を達したこと、同地方の物價が忽ち三五割の奔騰を告げ、物によつては十割以上も高くなつた事實に徵して明瞭である。それでも兵隊だけは銃劍を突つけてこの暴落した紙幣を額面通り强制通用させたものだ。だがそんなとが永く續くはずがない、商人が品物を隱して賣らないに極つてゐるから。

◇——それはとに角紙幣が下落すれば隨つて增發が必要となり、相場はますく暴落する、かくて武漢政府の紙幣が往日のルーブルとなりマークとなるのは餘りに見易い運命であつた。それでも政府は苦し紛れに六分利の國庫券を出して增發紙幣の回收をはかつたものだ。しかしどうせ償還どころか利子さへ貰へぬ國庫券だ。六分だらうが六割だらうが同じこと、出すが早いかこれまた惡性たる運命、結局利息付の不換紙幣がも一つ增發されたと同じことになつたのが落ちで、八月頃になると全く市場通用不可能に陷つてしまつた。そして民國三年には百四十八からあつた漢口の錢莊もその頃は殆と全滅して、例の條例發布後に出來た小資本の紙幣だけの錢莊が五つだけ殘つてゐたがそれも今はどうなつてゐるか。

◇——寫眞は（中上）武漢政府の國庫券（右）中央銀行小額紙幣（左）九江で發行した銅元紙幣（中下）中央銀行一圓券

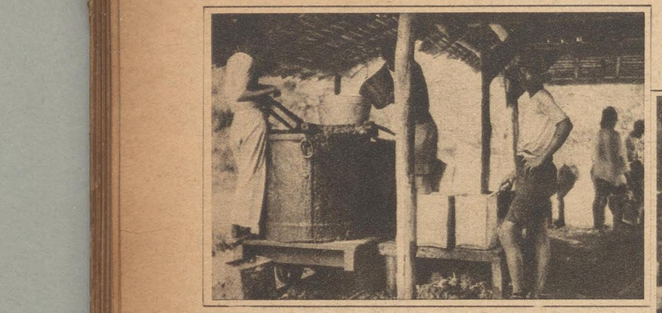
(40) ゴムの需給

◇——新嘉坡は世界最大のゴム積出地である、一九二七年度における ゴムの世界總產額は六十一萬四千屯、その主要產地は英領馬來の二十九萬七千屯、蘭領東印度の二十萬八千屯でその他は見るに足らない、併し蘭領印度產のゴムも大部分は一度新嘉坡に荷入れして改めて各地へ向けて積出されるのでゴム供給の鍵は英國政府が握ることになる。

◇——ゴム相場の高低は本國からの投資家や事業家のみならず直接產地土人の生活を支配するので、英國政府は一九二三年以來所謂スチヴンソン法を制定して英領產ゴムの積出を生產額の六割程度に制限し、以てゴム相場の維持につとめたが、五年後の今日に到つて漸く、かゝる方法が競爭者たる蘭領印度の生產增加を促すのみで、馬來ゴムにとつては有害無益の愚策なる所以を悟つたと見え、一九二八年十月限りこの制限法は撤廢されることになつてゐる。

◇——飜つてゴム消費の方はどいへば、消費總額五十八萬一千屯（一九二七年度）の中六割以上（三十七萬一千屯）は米國一國の消費で、その主なる需要は自動車及びタイヤ工業である、消費の次位は英國だが、その量は桁違ひの四萬五千屯に過ぎず、日本は一萬九千屯であつた。

◇——寫眞は生ゴム製造（上）及び積上げ（中）と艀積み（下）（シンガポール）



(41)

ボールチック取引所

◇——山の芋でも野生のものと畑のものとでは粘りが違ふ。まして人の世の制度や機關では、「出來たもの」と「造つたもの」と、その基礎の堅固さにおいて、その機能の圓滿さにおいて、お月樣とスッポンほどの差異がある。わがボールチック・エクスチエインヂは、總じて「出來たもの」の多い英國でも經濟的機關としては、ロイド組合なぞと共にまづ典型的な方で、

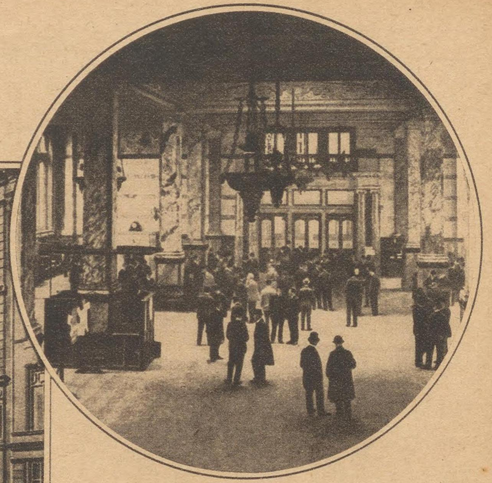
◇——千七百年代の始めロンドンはスレッドニードル街の片隅に、北歐貿易關係者を常連として、さゝやかな店を張つてゐた一珈琲屋の昔から、外國人を含む二千六百名の取引員を擁し、主要上場物たる穀類の出來高だけでも一日二十五萬噸、二百五十萬磅に上る今日のボールチック商品海運取引所に生長するまで、悠々二百年、その間の流移轉變だけ簡單に書いても一冊の書物になる。

◇——そんなとはごうでもいゝが、こゝに角今のボールチック取引所は「ボールチック」の名こそ保つてはゐるが、取扱ふ商品の量や範圍は昔のバルチック貿易品に比すべくもなく、穀類、獸脂、植物油、油種、木材等、その產地關係も全世界に及び、

◇——殊にこの取引所の「海運部」は元のロンドン海運取引所の合併されたもので、扱ふところは船舶の賣買、チヤーター、その他海運に關するあらゆる取引にわたり、少くとも今日大洋を航行する船舶の船主にして ボールチック取引所海運部にその代理者を有しないものはないまでいはれてゐる。

◇——寫眞はボールチック取引所の內部とその建物の入口——

（ロンドン、センメリー街）



(42) クーン・ローブ商會

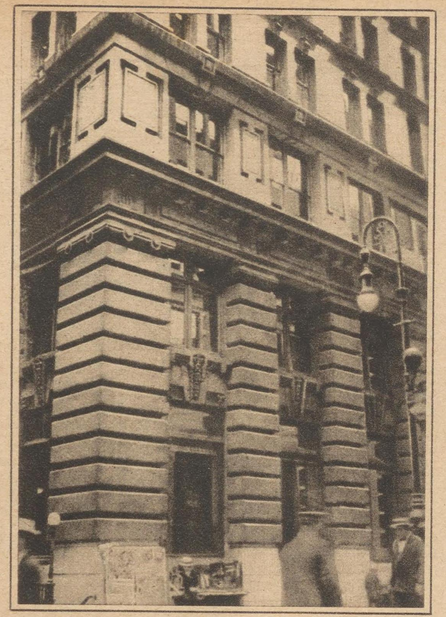
◇——紐育を南へ疾驅する急行地下鐵をウオール街で降り、人波に揉まれつゝ地の底から地上へ這ひ出して蘇生の思ひをすると、目の前にビル箱を縦にしたやうな殺風景な二十二階の建物が突立つてゐる。丁度ウイリアム街とパイン街の角、これが日露戰爭中日本のため一肌脱いで軍資金調達を引受けた有名なクーン・ローブ商會で米國財界ではモルガンと對抗して火花を散らしてゐる猶太系の大貸元である。

◇——日本最初の借金大使高橋是清老とクーン・ローブ商會の先代ジエーコブ・シフとの奇しき因縁、そのシフが軍資金調達の功により勳二等に叙せられ明治三十九年日本に來た時は明治天皇が特にこの金融業者を御宴に御召しになつた。さういふ日本との古い密接な關係は餘りによく知られてゐることだが、殊に外債資出といふもの〻殆と無かつたウオール街に最初の日本外債を紹介したのがクーン・ローブ商會だつたことは特筆に値ひしやう。復興公債にせよ横濱市債にせよクーン・ローブが矢張り關係してゐる。

◇——クーン・ローブが現在まで供給した資本はイヴニング・ポスト紙によると總額百億弗と見積られてゐる。がウオール街を壓してゐたこの老舗の勢力も、生粹ドイツ系であつたため世界大戰を機として聯合國側の金融を引受けたモルガン商會に凌駕されて了つた形だけれど、米國投資市場におけるその地位は矢張り大したもの、一にモルガン、二にクーン・ローブで、この兩大關の取組はいつも見ものだ。こゝの專門は鐵道金融だが、目星しい內外公債、市債、社債には大抵關係してゐる。一九二七年上半期だけでも二億五千萬弗からの新資本を供給した。

◇——この商會はたつた四人の組合組織すなはちモーチマア・シフ、オットカーン フエリックス・ワーバアグ、ゼロム・ハノーアの四人がパートナアである。モーチマア・シフは故コジブエー・シフの後繼者、これを援けるワーバアグはシフの親戚でウイルソン大統領當時、聯邦準備局顧問をつとめたポール・ワーバアグの兄弟またハノーアは組合員として一番新らしい働き盛りである。カーンはクーン・ローブの大黒柱で世に知られた財界の元老、學識經驗に富み一言一句が傾聽されるが、米國ではむしろ音樂家の救世主としてよりよく知られてゐる、猶太人であるせいか非常に音樂好き、メトロポリタン歌劇場の最高顧問兼總取締といつた役をつとめ、この歌劇場の檜舞台に上る音樂家は必ず一度はカーンの前で試驗されるそしてどの位無名の天才がかうしてカーンに見出されて幸運をつかんだかしれない。

◇——寫眞はクーン・ローブ商會



ハノイの見本市

◇――佛領印度支那のハノイでは、一九一八年以來、殆んど毎年の樣に商品見本市を開いて、內外商取引の紹介、內地經濟の開發に勉めてゐるが、その第九回の見本市が、本一九二八年十一月二十五日から約半ヶ月、同地商業會議所の主催で花々しく開會されやうとしてゐる。

◇――前回卽ち第八回の見本市（一九二六年）は入場者數約八萬三千人、その期間中に行はれた商取引の總額二十二萬二千ドル（約百八萬圓）で、わが國からの出品も五千八百ドルあまり（二萬八千圓）の取引高があつたといふ。

◇――尤もこれ等入場者數にせよ、商取引高にせよ、その前回一九二五年の市に比すると大分劣つてゐたさうだ。併し一九二六年度はトンキン地方が大洪水の爲めに荒らされた際旬で、地方土人の懷具合も大分淋しかつた筈だから、同年度の市の成績が上らなかつたのも、無理もない次第といふべく、そこで今年はウンと奮發して前回の不成績を挽回するのだと、彼地では今官民協力、見本市の準備に大童である。

◇――寫眞は第八回ハノイ見本市の宣傳ポスター

映畫王國の宮殿

◇——米國の自動車工業が世界自動車工業の八割、電話業も同じくその六割三分を占めてゐることはよく知れわたつてゐるが、全世界の活動寫眞事業の八割を獨占する米國映畫事業の經濟的重要さに至つてはやゝもすれば看過される嫌ひがないでもない。スッカリ市場を占領されて了つたこのごろになつて如何に各國が騒ぎ出したところで結局後の祭り、地球は既に米國製フイルムでぐる〳〵巻きに巻きしめられてゐる有樣で、なか〳〵この羈絆を脫し得る日は來まい。イギリスは盛んに米畫排斥を策してゐる、濠洲は米畫に重稅を課する、オーストリーあたりでさへ外國映畫、卽ち米畫廿本につき必ず國産映畫一本を上映する事なんていふ法律まで拵へてゐる、ドイツもこの手で米畫驅逐を企てたが偉大なオールマイティ・ダラアの前に手も足も出ず、第一の活動會社ウファが四百萬弗で米國側にいはゞ抵當に取られた形となつてケリ、日本だつて御同樣、我々の小遣錢の幾パーセントが米畫にさらはれてゆく。

◇——活動寫眞を見にゆく米國人延人員は一週間に一億三千萬人（この木戸錢總額一九二五年には七億弗だつた）、活動寫眞は今ではパンや煙草やチューイングガム同樣米國人の必需品で、米國の大産業中これ位急激な大發展をとげたものはない、一九二五年度の輸出米畫三億一千萬尺、投資總額十五億弗、廣告宣傳費六千七百萬弗だつたが、こんな數字はモウ古いので、最近の統計は發表されないが映畫事業投資額はこのごろでは二十五億弗に達するとさへいはれてゐる。何しろ全世界相手だから大製作に金をつぎ込んで思ひ切つたことをやる、一本の映畫製作費だつて大したもの、未だに日本では封切されぬがナヴアロとマツカボイ共演の「ベン・ハー」なんかは製作費四百五十萬ドルといふ大した代物である。

◇——映畫事業の急激な發展ぶりを示すのがニューヨークに新しく出來た二つの活動常設館パラマウントとロキシー、前者は工費八百萬ドル、後者は千萬ドル、何れ劣らぬ莊麗な映畫の殿堂で殊にロキシーは六千二百人を容るゝ世界第一の劇場だ、パラマウント座だつて帝劇を五つ集めた位はあらう、この宮殿のやうな大建築を起して世人を驚かしたパラマウント社長ツーカア君が十五六年前までは名も知られぬ一貧乏移民だつたんだから、米國映畫界のズバ抜けた飛躍ぶりも察しがつく。

◇——寫眞はパラマウント劇場

(45)『ロシヤ電氣共和國』

◇——『社會主義への大道はロシヤの工業化であり、ロシヤの工業化の根底は電化である。ロシヤ農業國がロシヤ電氣共和國になる時、その時こそ眞實の『社會主義國が出來上るんだ』。これがソヴイエト・ロシヤの標語であつて、電化がいかに重要なる緊急問題となつてゐるかゞ察せられやう、何事もまづ、電化、電化である。

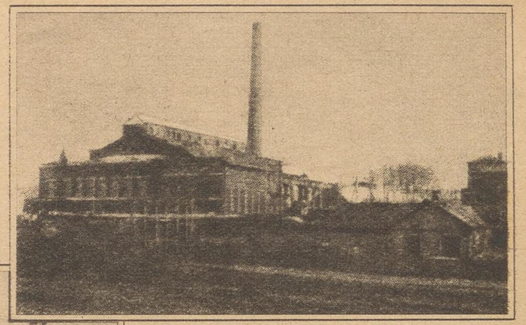
◇——そこで一九二〇年にその道の學者專門家を網羅したロシヤ電化委員會が組織され、工業に遲れた廣大なロシヤ國内に、十年を一期とするいはゆる『電化十年計畫』なるものが作成された。三十ケ所に强力なる發電所（その中の十ケ所は水力）を新設し、十年後には百五十萬キロワットの電力を得やうといふので、苦しい財政をきりつめ、その建設費に十二億ルーブルの巨費を計上したのである。

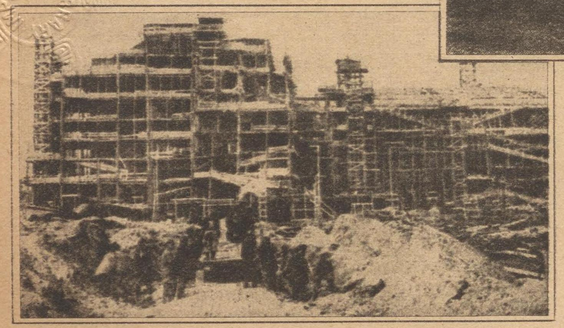
◇——そして各發電所を統一し、電力の中央集中を圖つて、あの廣大なロシヤの隅から隅まで、ラムプだけしか燈火といふものを知らぬ百姓の豚小屋までを電線で完全につなぎ合はさうといふのだ。

◇——一九二〇年度におけるロシヤの發電所は六百ケ所、四十二萬キロに過ぎなかつたが、一九二二年度には一萬キロ、二三年には一萬二千キロ、二四年には一萬六千キロと逐年增加し、二六年には一躍して十四萬六千キロ、二七年には更に二十五萬キロの大增加を示した。

◇——殊にロシヤが自慢してゐるのは、今日問題となつてゐる原動力としての泥炭の使用で、ロシヤの大產業地域たるモスクワ、レーニングラード、ウラル等には無盡藏といつてよいほど泥炭があるので、水力、褐炭のほかにこの泥炭を用ひて効果を擧げてゐる。たゞ南露及コーカサスだけは豐富な石炭、無煙炭、石油を燃料としてゐる。

◇——寫眞はウラル山中のキゼル發電所の一部（上）とシヤトウル發電所の建設中の光景（下）





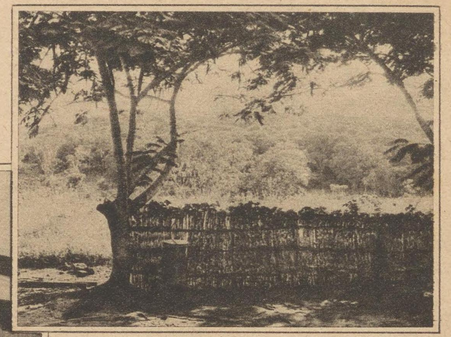
(46)

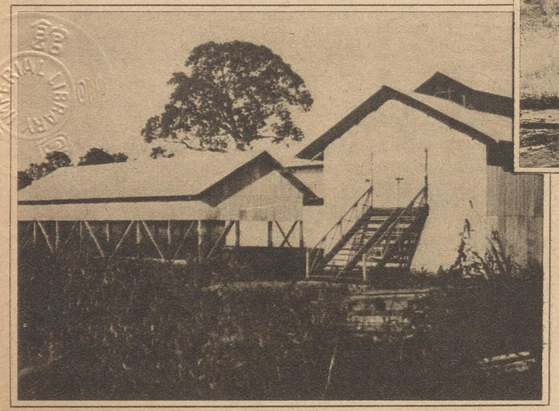
日綿と東アフリカ

◇——歐洲大戰後における英帝國の經濟政策中最も注目すべきもの、一は優良棉花の自給政策である。彼英帝國は右手に劍を棄つると共に左手に鍬を取つて起つた。その廣大なる海外領土にわたつて棉花の試植を行ひ、その結果最理想地として東アフリカのウガンダ、タンガニカ及スーダン三地方が擧げられ、以來銳意眞劍の努力は酬ゐられてウガンダにおいては既に年額二十萬俵の優良棉を產してゐる。タンガニカは少しく遲れて近ごろ漸く棉作經營の緒に就いたところであるが、將來はウガンダ以上に有望視されてゐる

◇——吾國の棉花會社、すなはち日綿、東棉、江商の三社は早く社員をウガンダに派し、同市場においては英國につぐ大手筋としてウガンダ棉の買付に從事してゐたが、殊に日綿ではこれら東アフリカ地方への永久的投資に着目し、一九二六年七月、タンガニカ領のミケシに棉花工場と二千餘英丁のゴム園とを買收し、つゞいて十月、ウガンダ國ブソガ地方の六ヶ所に棉花工場を獲得、心身强健の社員がこれら東アフリカ奥にたむろして全棉產地にわたり土人農家から直接實棉の買付けに活動し、わが海外發展のために氣を吐いてゐる。

◇——寫眞はタンガニカ委任統治地ミケシ地方に於る日本綿花のゴム園（上）と同地方に於る日本綿花の繰綿工場（下）





(47) ベル・システム

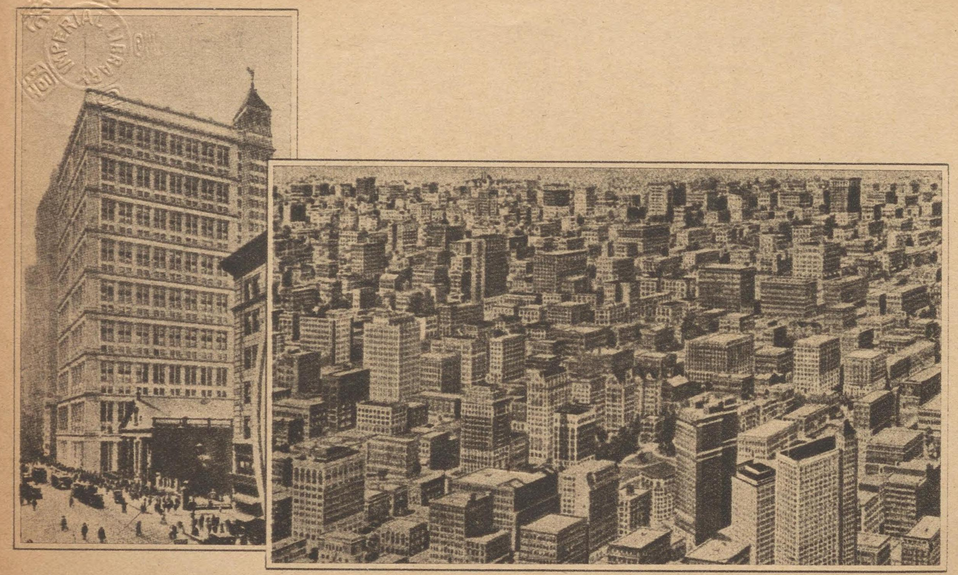
◇――一八七六年三月グラハム・ベルが電話機を發明して、ボストン市エキゼター・プレイスに在つた實驗所で初めての通話に成功するや、地元のボストンにベル電話會社が創立され、ベルが得た二十年間の特許を利用して電線の架設、交換局の建設維持など電話事業を獨占したが、

◇――越えて一八七九年ボストン、紐育間に始めて市外電話の架設を見るに及び、新たにアメリカ電話電信會社が出來て市外電話事業を主宰すると共に、ベル電話會社の市内電話經營に對しても資金の供給、技術的統轄を行ふことゝなり、更にこれ等會社御用の電話機その他電話用品の一手製造を引受けたウエスターン電氣會社を加へて、こゝにいはゆるベル・システムの骨組が出來上つた。

◇――一八九五年ベルの特許期限が切れ、ベル・システムの獨占權も從つて消滅してからは、システム以外の會社（普通インデペンデント派と呼ばれる）が各地に起り、特に自働交換機の採用等ではベルに劣らぬ成績を擧げてゐるものもあるといふが、大體においてなほ對抗的勢力を得るに至らずまだ〳〵米國の電話事業界はベル・システムの獨擅場で、

◇――就中一億四千萬弗の資本を擁するウエスターン電氣會社はホーニー、カーニーの兩大工場、全國三十四の支店における從業員總數四萬五千、一年の資上高二億六千萬ドル（一九二六年度）といふ天晴ベル・システムの花形役者である。

◇――寫眞は紐育のアメリカ電話電信會社本部（左）と、ベル・システムに屬する建物の中その五分の一を撮影し集合したもの（右）



(48)

キユバと砂糖

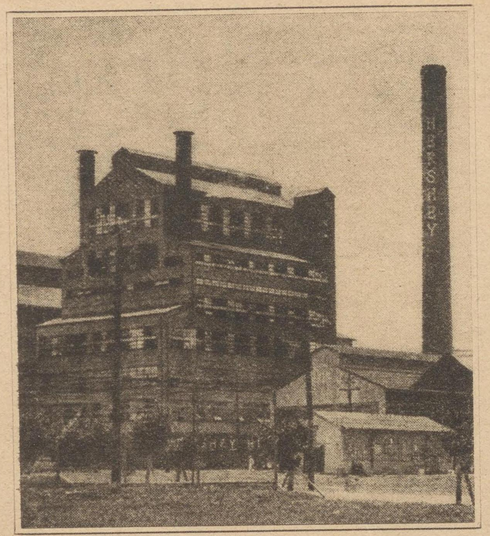
◇——メキシコ灣外の島共和國、面積四萬四千方哩に過ぎぬキユバでも、天與の豐饒に惠まれては措かぬ存在の意義がある。バナマをこの島國キユバの首都と知らぬ人はあつても、煙草ハバナの名は古くから葉卷の王、殆んどその代名詞となつて、芳香紫煙の薫するところ、普く全世界に喧傳されたものだが、

◇——今のキユバは砂糖のキユバである。一九二六—二七年度における甘蔗糖の世界總產額は千六百萬屯、キユバの產糖四百五十萬屯はその四分の一以上に當る。しかもこの四百五十萬屯は、辛くも大統領令で押へつけられた强制的生產制限の結果で、若しも自由な生產が許されるなら五百萬屯はおろか六百萬屯でも出來兼ねまいといふ。

◇——だがさう無暗に作られると堪れないのが供給超過、續いてお定まりの糖價低落に見舞はれると、第一に困るのが砂糖畑の投資家や砂糖工場の資本主で、しかもこれ等資本家の大部分が、今をときめくヤンキー君と來てゐるので始末が悪い。「泣く子と資本家」こそは二十世紀に通ずる好俚言、それやこれやで一九二六年、キユバ產糖の四百五十萬屯制限が大統領マカドの名を以て强制され、內地栽培者の反對に拘らず今年はこれを更に四百萬屯に引下げてしまつた。

◇——顧る一八九八年、漸く專政國西班牙の羈絆を脫した島キユバは、獨立自由三十年にして再び富强國の金權に屈服し去るのではないか、何ぼ砂糖の國チャとてさう甘く見て貰ふまいと、時には咳呵も切る必要があらうと他人ごとながら拳を握るものもある。

◇——寫眞はキユバの精糖工場(右)と甘蔗畑(左)



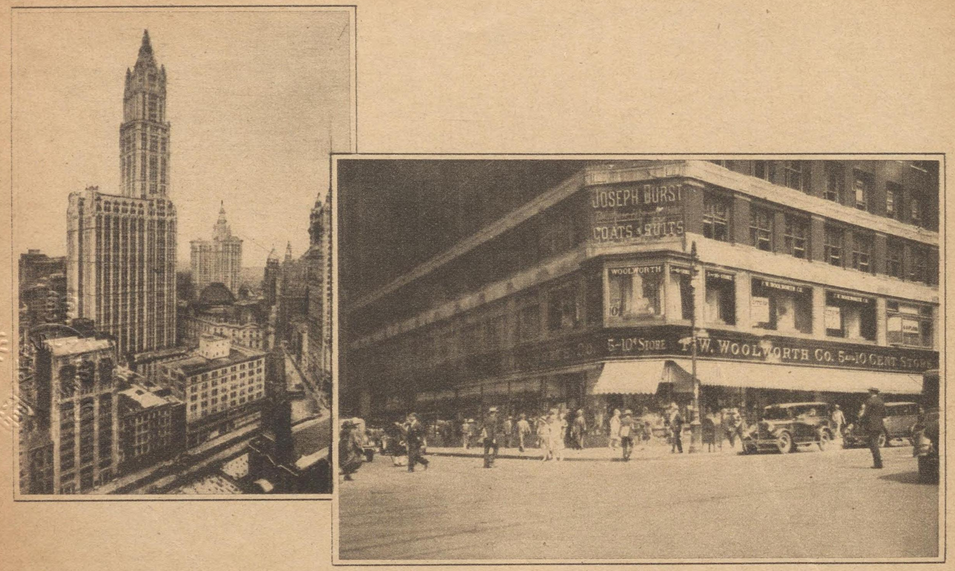
ウールウオース均一店

◇——米國では中產階級の新婚夫婦は連鎖店の親玉ウールウオースかクレンヂ均一店へ出掛けて皿、小鉢、ナイフ、フオークは申すにおよばず五セント、十セント均一の世帶道具を買集める。まさか風呂桶やピアノは十セントでは賣つてゐないが、人間生活に必要な日用品はまづ大抵揃つてゐる。嫁入前の娘ッ子は、ダイヤや眞珠——勿論ニセ物だがホン物に見えない事もない——の腕輪や首飾りをこゝで求め、會社員は靴下からネクタイ、さてはラヂオの樣なものまでここで買込む、どうしてこんなに安いのかと買ひに來る客の方が首を傾ける、大資本を動かし大量の同一商品を直接生產者から買取り、これを全國に鎖のやうに繋つて散在する自分の店で販賣するチエーン・ストーア制度の普及は、どれくらゐ一般人の家計上の負擔を輕くし、彼等の日常生活に貢獻してゐるか判らない。

◇——一九二七年度の全米三十の主要連鎖店賣上總額は十九億弗であつた、その中には仕入原價で賣つた額、原價以下で賣つた額も相當にあるといふので、連鎖店が故意に生產費以下で商品を賣る事はいけないなどと、聯邦通商委員あたりでは問題にしてゐるが、流石に損をする時はしても拔け目なく大儲けもしてゐる。

◇——米國一を誇るウールウオースの一九二七年における賣上高は二億七千二百萬弗、純益は三千萬弗に上らうといふ。米國とカナダに配置した連鎖店が總計千四百八十、英、佛、獨三國へも手を延ばしてゐる、近くはキューバにも店を出した、が零細な五仙、十仙の商品を並べて細かい客を相手にしてゐながらこれだけの商賣をするには、やつぱり米國ほどのところはあるまいと思はれる。

◇——寫眞はウールスウオースビルヂング(左)とその最下部(右)



來朝したラモント氏

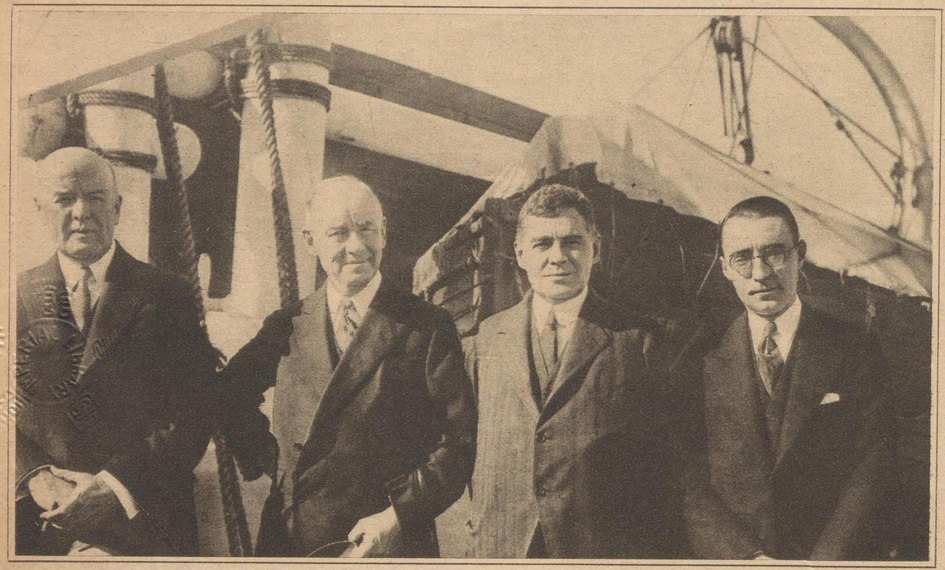
◇——モルガン商會を紹介した序でに(三三頁)、その大番頭ラモント氏のこともつけ加へておいたが金の光か身の徳かこの大人氣者、一九二七年十月半に引かれて善光寺ならぬ秋晴れの日本に押し渡つた。この米國財界の大立物の來朝は時節柄多大の興味を以て迎へられ、渡日の目的について種々の臆測が行はれたが、氏が日本訪問を思ひ立つた動機は牛の袋目の森賢吾氏が前年ラモント氏に會つた時、一度日本の經濟力の實際を見てくれといつたにはじまつたので、森君の意圖は世界の金融王モルガンの大番頭たるラモント氏の鋭い眼で、日本の實力を知つて貰ひそれを世界に吹聽して貰きたいのだといふ。

◇——そこでラモント自身は何らの目的使命もないといつてゐるが、實は日本側から大きな使命を負はせてゐるわけである、けだしラモント氏は世界各國の理財家、海山千年の財界の猛者連を相手に手廣い金融をやつてゐてもかつて敵を作つたことのない圓轉滑脫振り、それにどんな問題が出てもピタともせぬ闊太さとあらゆる事件を片つ端から小氣味よく裁斷する明敏さを有つてゐる、しかも大の日本贔屓で大正十三年の日本外債引受などには親身に骨を折つてくれたものだ。

◇——かくも親日家であり卓越した金融家であるラモント氏に日本の實力を理解して貰ふことはひとり森氏のみの願ひではない、横濱市債を引受けるときなど森氏が着いてから四十八時間できめてしまつたといふ話がある。

◇——そのラモント氏は一八七〇年ニューヨークのクレーブラックに生れ、ハーバート大學を出てから暫くニューヨークトリビユン記者をやり後イヴニングポストの社主として働いてゐたのをモルガンの前大番頭デビソン氏が見出してバンカース、トラストを振り出しにファスト、ナショナルバンクの副社長を經て一九一一年遂にモルガン商會に引入れた、商會内ではデビソン氏が内務大臣ならラモント氏は外務大臣といふ格で世界大戰中聯合國の金融及び物資供給を殆どこの一手に引受けてゐたが、パリ講和會議に際してはデレゲート・メンバーの顧問として又國際經濟界の立役者として盡力大いに努めた、そしてデビソンなき後は殆ど一人でモルガンを背負つてゐる、日本訪問は二度目で先に一九二〇年對支四國借款團會議のとき以來である。

◇——寫眞左より——イーガン氏、ラモント氏、法律顧問スミス氏祕書サンダース氏、一九二七年十月三日橫濱にて寫す



(51) ウデホルム會社

◇——北歐隨一の工業國スエーデン、鐵も出れば石炭も出る、國土の半を覆ふ千古不知斧鉞の森林を背景に、製材、パルプ、製紙などの諸工場が、盡くることなき國富の湧元に、不斷の黒煙を息吐く。

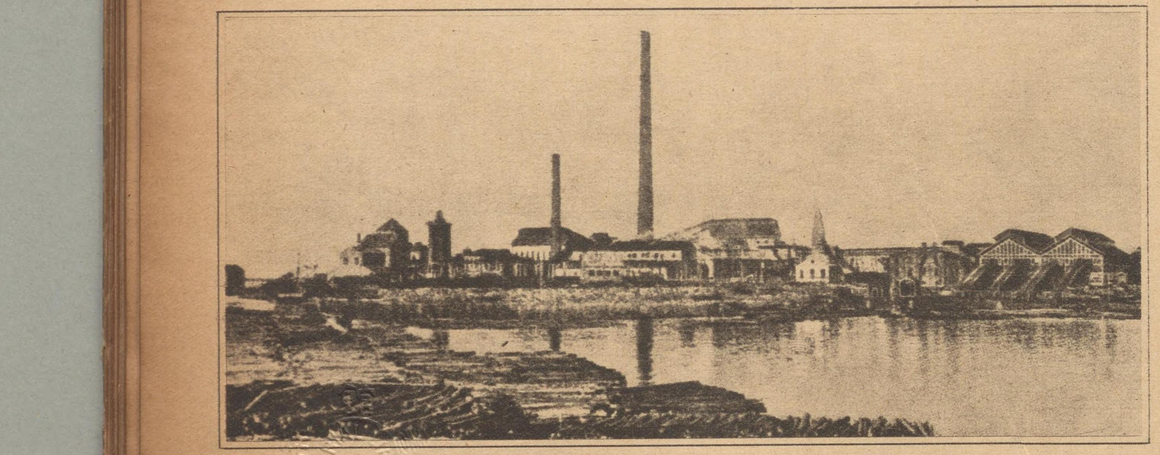
◇——そのスエーデンでウデホルムといへば製鐵、製材、製パルプと主要工業を一手に握つて、二百五十年の歴史と最新の設備を誇る同國一の大會社。

◇——フイリップスタットはスエーデン最古且つ最大の鐵鑛區であるが、早く一六六〇——七〇年といふころに、この地方の採掘權はすでに特許によつて占有し盡され、かつ鐵工所の新設まで禁止せられてゐたので、わがウデホルム鐵工所は一六六八年、フイリップスタットからは原鑛は一切買はない、木炭の給供さへも受けぬといふ條件の下に、この鐵鑛區の二十五哩外に漸く設立のお許が出たものである。

◇——で事業は始めたもの、苦難のウデホルム、石炭無鑛區以外の遠近をあさつて少しづゝの原鑛を求めたり、運送道路や木炭製造のために廣漠の林野を購入したりして、とにかく經營を續けてゐたが、一八五〇年に至つてつき、それからは散らばつた工場を集中する、鐵道を敷く、他の工場を買收するといつた調子で、トン〳〵拍子に膨脹して、

◇——殊に面白いのは昔買つた五十二萬英町にわたる森林が、木材としても勿論だが、製紙や人絹原料の木材パルプとして芽をふき出し、今では製鐵と相並んでウデホルムの主要事業の一つ、またこれだけ廣い土地のことゝて灌もあれば川もある、一九二六年の自家發電量が一億八千萬馬力、そのうち七十二百萬馬力が鎔鐵用、五千四百萬馬力が電動力及び暖房、電熱、二千萬馬力が蒸氣力へ、一千萬馬力が電解用等々々と、ウデホルムの絶對的强味である。

◇——寫眞はシエガールにおける同會社の木工、製材、パルプの工場



(52) ノルウエーの漁業

◇――スエーデンのウデホルム(五一回)を紹介したついで、お隣りのノルウエーまで足をのばすと、こゝ氷河の國、フイヨルドの國、更に我等がノルウエーは世界有數の漁業國で、鰊に鱈に鯖、それから普通ブリスリングと呼ばれる鰊に似た小魚の類、ノルウエーの地位が地位だけに、日本などに較べて魚の種類こそ少いが、

◇――北海およびその北部、ノルウエー海からアイスランドのあたりにかけては無比の好漁場、漁獲物の一部は罐詰になつて、手近な英、佛、獨はいふに及ばず、カナダや米國、エジプト邊から遠く豪洲、南阿まで海越え山越えて貴富とりくの食膳を賑はす。

◇――この漁業從つてまた罐詰工業の中心が北にベルゲン、南にスタヴアンガー、極北の町々に眞白い冬が立ち、やがてクリスマスも過ぎゆくと鰊漁の季節になる、まづ始めが冬鰊、それに續いて春鰊、一九二六年の鰊漁獲高はメて百三十萬ヘクトリツトル、

◇――鱈漁も時季は大體同じころ、冬から春へかけて約八千九百萬尾。それから鯖の六千トン、いはく何、いはく何と述べたてると恨りがないが、とにかくこれらの漁獲物が或は干物となり、燻製となり、鹽物となる、一九二六年における鰊油の輸出だけでも六千屯、更に同年度の魚罐詰の輸出を見れば三萬七千屯、五千一百萬クローンとある、さても盛んなる海の幸。

◇――寫眞は北ノルウエーの漁港(下)と罐詰工場の內部(上)

(53)

大西洋四日航路

◇——「時は金なり」などときいた風なことを誰がいひ出したかは知らないが兎にも角にも事實は正に金や時間が仇の世の中、リンドバーグが三十二時間で大西洋を横斷する時代に、汽船だからとて同じ距離を六日も七日もかゝつてよい理窟はないと、そこは人の鼻を明かすことの好きな米國のこと、

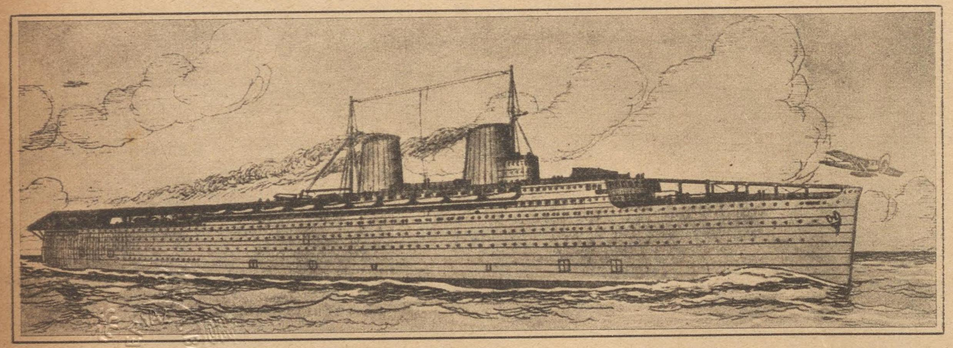
◇——アメリカ・ブラウン・ボヴエリ電氣會社の造船部長ローレンス・ウイルダー君が資本金五千萬弗の船會社を起し、三萬五千屯の客船六艘でもつて大西洋を四日で突つ走らうといふ計畫をたてた。

◇——尤もこの計畫が船舶院に提出されたのが本年（一九二八年）一月のことだからまだ海のものとも山のものとも判らぬ譯だが、とまれこの巨船のプランといふのが、屯數は前にもいつた三萬五千屯、速力三十三節—全速三十五節、輸送能力旅客八百人と貨物千トン、二十四機の飛行機を備へて陸上との連絡に便する、それから多量の郵便物、この建造費一隻につき二千百萬ドル也。

◇——六隻では一億二千六百萬弗、その四分の三の九千四百五十萬弗は政府保證で低利の金が借りたい、船體保險は九百萬弗に限りそれ以上の損害は前記の借金と棒引を願ふ、他船に比し速力も早いし航海度數も多いのだから、郵便補助金を澤山貰ひたい等々々、船舶院に對する發起人の注文は隨分澤山のいゝものだが

◇——一日緩急の際にはこれだけの船が忽ち飛行母艦に早變り、各百の精銳機を搭載して、一路大—洋へと筋道は通つてゐるので、暗澹に便利なパンのし棒、相手は金に苦勞のない米國政府だ、案外容易くオーライと來て、近々中に大西洋が、も一周り狹くなるかも知れない。

◇——寫眞は大西洋四日橫斷船の豫想圖

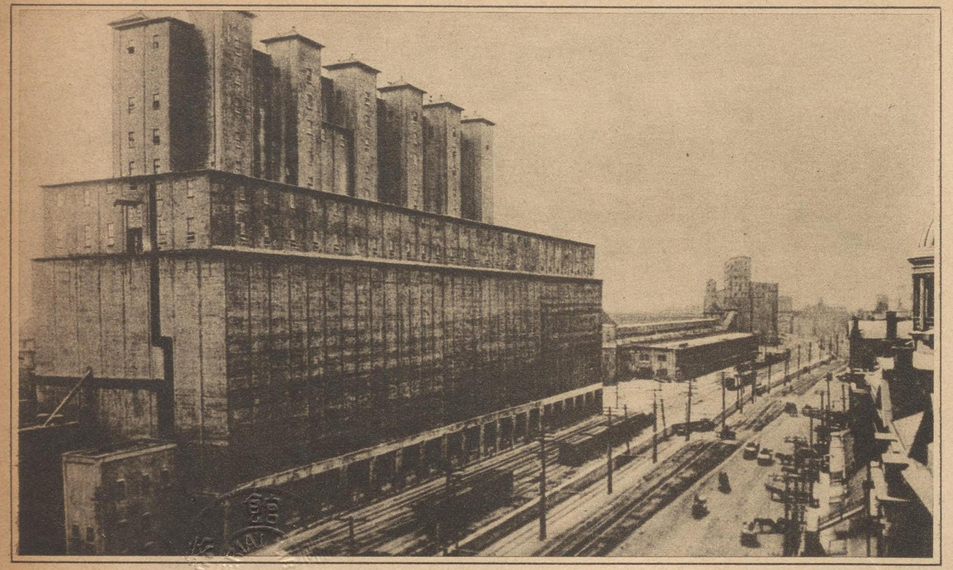


(54)

加奈陀の穀物倉庫

◇——主食物としての小麥はその集散量にせよ、相場の動きにせよ、米なぞゝ違つて全く世界的で且つ大量であるから、これが貯藏の機關もまた從つて一層重要な意義をもつてゐる。小麥の貯藏はすべて「バラ」であつて、歐米の小麥産地又はその集散地には百五十屯乃至九百屯を容るゝ大小倉庫が隨所にあり、農業經濟上十分の機能を發揮してゐる。

◇——寫眞は加奈陀モントリオルの穀物倉庫農地から運びこまれる小麥は、階下の土間よりエレヴエーターの仕掛で最上階に納み上げられ、精淸機によつて塵芥を除去して後、品質別に區別貯藏される。



(55) ハバナの海壁工事

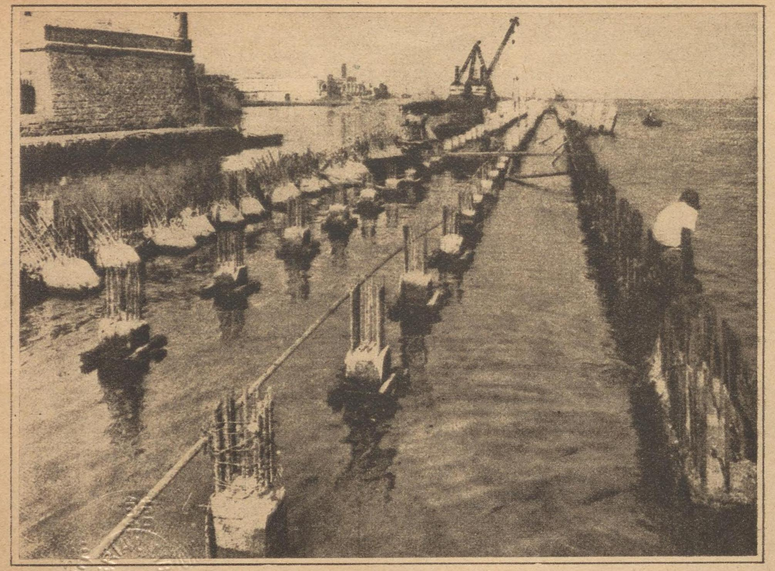
◇　販路の擴張も工程の進歩もこれからだといふ新興工業はいざ知らず、消費の範圍や數量もほゞ一定し、生産上の技術も大凡の限度に達してゐる舊工業にとつて、不斷の伸展力に對する有効なる血路となり得るものは、常時不意の新用途の發見、新利用の驗證である。

◇　海水に對するコンクリートの耐久力、殊に鐵筋の場合における海水の滲透性は、その耐久力に至大の關係あるものとして、熱心に試驗され研究されたものだ。その結果鐵筋がコンクリートの外面から五寸以上内部にある場合には大體海水の滲透を免れ得るといふ事實を明かにしたのである。

◇　そこで海壁又は岸壁の築造にコンクリートを使用することが漸次一般的になつて來た。その實例の二三を擧ぐればオランダのロッテルダム、ベルギーのアントワープ、フランスのマルセーユ等の諸港の、岸壁船渠等は何れも鐵筋コンクリートのブロック又は塊を使用したもので、我國においても神戸横濱港の擴張工事、下關及び長崎港の岸壁工事等も皆この例に屬する。

◇　寫眞は玖馬ハバナ港の海壁工事で、據め製造された鐵筋コンクリートの壁板、中空ブロック、杭等、その材料の總量約三萬立方米といふ大工事である。これだけの既成コンクリート塊を造るとはそれ自身既にかなりの大事業で、第一にセメント、砂、鐵筋その他材料の搬入設備、第二に廣大な製造の場所、それも長さ三十四米もあるコンクリートの一枚壁を造るので、地盤の弱い所では困る、更に出來上つたもの、運搬にも大掛りな道具立てが必要である。

◇　かくて、もしもこの既成コンクリートの使用がもつと一般的になり、その需要が更に繼續的となれば、セメント工業、鐵工業以外に、新たに獨立したこれ等諸工業の合成工業が成立するわけで、こゝに吾々は産業の分化と結合に關する一好例證を發見することゝなるであらう。



(56) フォード自動車

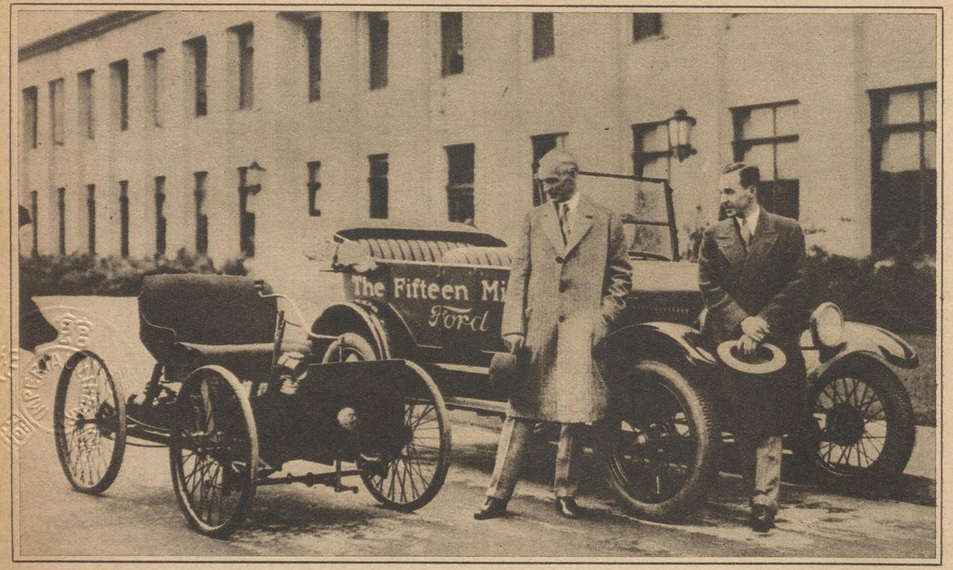
◇——米國における自動車登錄總數は約二千三百十二萬臺(一九二七年調査、內トラック二百八十九萬臺)と一口にいつてしまへば曲もないが、殆んど各戶毎に自動車一臺を具へてゐる割合になると開けば二寸奏ましい氣にもならう。で自動車の最近世界年産額を四百五十萬臺と見て、米國は實にその八十パーセントを占め、昨一九二七年中の製造高は三百五十萬臺に上つてゐるが、それでなは製造能力の六割に過ぎぬといふのだから。唖か呆れざるを得ない。

◇——かくして米國製自動車は、今や全く世界の山河を車輪にかけて橫行してゐる次第だが、就中目覺しいものはいはゆる統安品「フォード」の躍進振りで、洋の東西を問はず、およそ自動車の影を見る所そこに必ず「フォード」があり、自動車といへば先づ「フォード」を思ひ出すほどの勢さ、それにつけて自動車王ヘンリー・フォードの名も普ねく世間に知れわたつてゐる。

◇——勿論、彼のその盛名の後には、過去六十年にわたる不斷の苦心と營々の努力とがひそんでゐるのであるが、とに角フォード自動車一ヶ年の製造高百四十四萬台、賣上額七億五千萬弗(一九二六年度)の仕事には他人事ながら胸がすく。

◇——尤も最近米國のみならず、一般自動車界が安物の「フォード」にあいて、漸次高級車に移る氣運を生じたのは爭はない次第で、殊にはこの機を摑んだ勁敵ゼネラル・モータースの發展振りが、今やその覇を覺す、と見たヘンリ・フォードは、遂にその一貫せる「フォードT型」專問方針の變更を決し、一九二七年五月、斷然その工場作業を中止して高級「新型フォード」の完成に專心したが、爾來新製品の製造を開始した十二月まで、前後六ヶ月間の休業で、フォード會社一九二七年度の成績は四千二百萬弗の損失に終つたとはさすがにフォード、よくもこれだけ思ひ切つたものだ。

◇——寫眞は三十五年前始めて製造した古自動車を眺むるヘンリー・フォードとその息、後方にあるは工場創始以來千五百萬台目といふ綴起の車



(57) アレクサンドリア棉花取引所

◇——ナイルの岸邊に眞白い棉の實がこぼれる、遠く悠々の流れに沿うて興亡五千年の跡を埋め、古代諸王が榮華の夢を飾る。

◇——埃及棉花は品質の點では世界一、カイロを中にしてそれより上流に出來るのがアシュムニー、毛足はやゝ短いがそれでも六十番手の原料棉で、ずつと下流のデルタ地方に産するのは毛足の長いサケラリディス、八十番手以上の最良品である。

◇——かくてこり入れる埃及棉は年額約百萬俵で英國へ四十二萬俵、米國へ十五萬、伊太利へ十四萬、佛蘭西へ十三萬、日本へも四五萬俵こ、殆んどその全部が輸出され盡くす關係上、アレクサンドリアはこの埃及棉の大集散地であり、從つてその棉花取引所は全埃及棉花取引の中樞機關である。

◇——こゝに集る人々は、輸出業者に銀行家、一般棉花商は申すに及ばず、いはゆる投機筋の大物が、毎日午前十時から午後一時まで、一カンター（九九・〇五封度）を標準に、何千タラリー（弗）貢つた買つたと狂奔するその姿を

◇——かつて大金字塔建設の忍苦を映した同じナイルの河みづが映して流れてゐるこいふ。

◇——寫眞はアレクサンドリア棉花取引所

(58) シカゴの屠場

◇——シカゴに有名な屠場がある、シカゴを訪ふて屠場を見ぬものは佛作つて何とやらで、旅行家の名折れとされるほどの名物。酒と女とホールドアップ、暗黒の名に負ふシカゴの街に、屠場の名物とはうつりがいゝなどゝ文句はさて措いて、

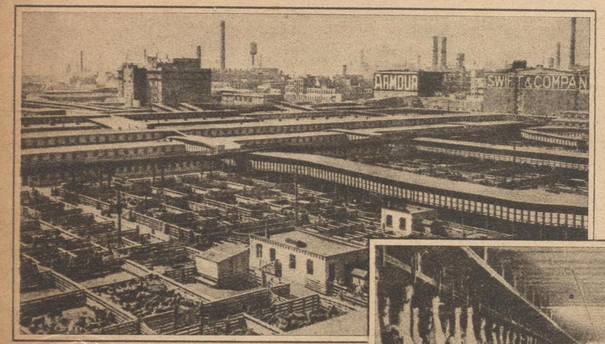
◇——この屠場の規模は、ダダツ廣い家畜置場から、程遠からぬ幾棟かの工場までゞて五百エーカー、まづザット我が二百町歩に、使用人數約五萬、チト古いが一九二五年の記錄によると、その一年間にこの屠場に引張り込まれた牛の數が三百萬頭、豬が八千四萬、豚が八百萬、それから羊が四百萬、一日平均にしてどのくらゐになるか、年々增すとも減りはすまい。

◇——屠場の模樣や肉類處理の工程やらは、どうせ見たまゝ聞いたまゝであらずもがなの贅言と省略するが、とにかくこれらの憐むべき家畜達がトボ〳〵と工場の上階へ登つてゆき、屠殺者の一擊に倒れてから漸次下階へと經巡る間に、

◇——骨は骨、皮は皮、角や爪と分解され、肉のみは更に幾日かを冷藏室に過ごし、さてその上で、生肉のまゝ市中や地方へ送り出すものは、構內へ引き込まれた特別列車へ積み込むし、鑵詰その他へ加工するものはそれぞれの工場で加工する——

◇——その一絲亂れぬ働きは、實に現代大工業組織の粹であり、薄氣味惡き偉觀である。

◇——寫眞はシカゴ屠場の家畜置場（上）と冷藏室、下つてゐるのは皮を剝いだ牛（下）



(59) シンガー・ミシン

◇――一七九〇年、トマス・セントなる人が英國で特許を受けたといふ縫機、一八三〇年佛人チモニエもこの種の機械を發明したといはれ、更にウオルター・ハントも一八三四年ごろニューヨークで作つたことがあるといふ。殊にチモニエなどは、自分達の仕事を奪はれると憤つた仕立職人に襲はれて、折角の機械をたゝき毀されたと氣の毒な記錄をとゞめてゐるのみで、不完全ではあつたが兎に角今日實用されてゐるいはゆる「ミシン」の原型を完成したのは米人エリアス・ホー、一八四六年のことである。

◇――アイザック・シンガーが縫育で裁縫機の製造販賣を始めたのは、この發明後いくばくもない一八五〇年であつたが、その後絶えずこれに改良が加へられ、漸次その重寶さが世に認められるに從つて、先づ衣服裁縫用としてあらゆる家庭を征服し、やがて皮革裁縫その他工業用としてもズン〳〵販路を擴張していつた。

◇――現在のシンガー・スーイング・マシン會社、シンガー一族の個人會社として世界一はまづ狂はぬところ、米、英、獨、加奈陀には數個の工場、世界各地に八千五百の分店と、十五萬人の使用人。それにシンガー・ミシンは決して即賣代理店を設けない、「製品は直接に顧客へ」といふのがこの社のモットーで、「二千六百種のシンガー・ミシンに纏へないものは石と金」なんかんと、へらず口をたゝきながら年に三百萬台の製品を捌いてゐる。

◇――寫眞は紐育ブロードウエイのシンガー・ビルヂングと一八五一年ごろのミシン

(60)

アラスカの金山

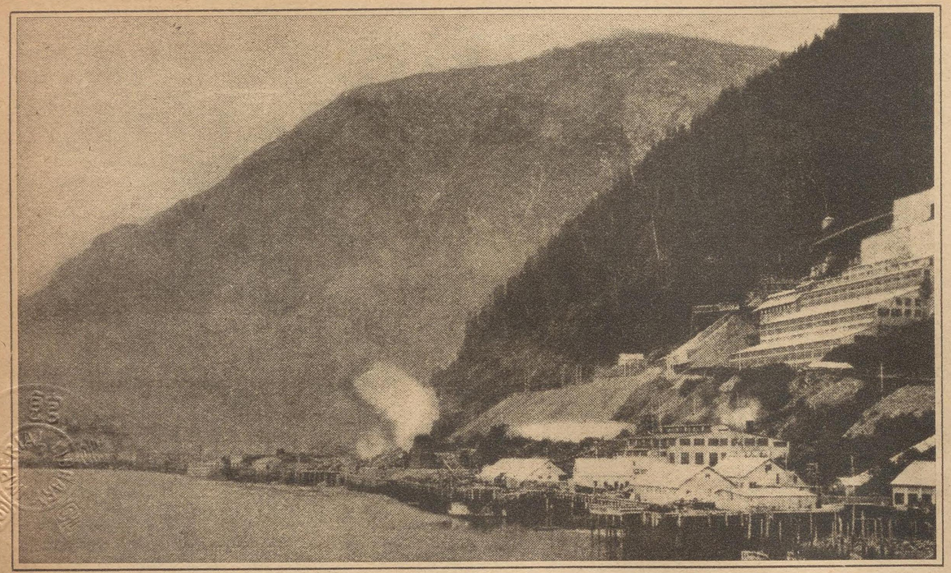
◇——こゝは米大陸の北端、黄金の國アラスカである。一七四一年ロシア政府の命を受けた一デイン人の發見にかゝる。それを一八六七年ロシアから合衆國に賣渡されたのは先刻御承知。身代金は七百二十萬弗であつた。

◇——アラスカに黄金が湧くといふ事實は古くから知られてゐたが、その頃までは金山といつてもトレッドウエル金坑位のもの、一九〇六年に發見されたインノコ金山や、〇二年發見のフエヤーバンクス地方は勿論、一八九六年のクロンダイクを中心とするユーコン盆地一帶、一八九八年のノートン海峽附近等有名な金産地の發見は、殆んどすべて米國領有後のことで、偏にその「濡手粟式」熱心と勞力とによる。

◇——買收費の七百二十萬弗は別として、今日まで米國がアラスカに注ぎ込んだ金は實に大枚二億弗、內約七千萬弗は鐵道建設費であるといふがその結果は、發見後二百年にして住むところの白人僅かに三萬、而も肝腎の米國移民はスカンヂナビヤ方面からの移民數を增さず、金看板の金産額にしてからが、年額約四千萬オンス八百萬弗見當、アラスカのあらゆる物産を合してもアイオア一州の農産物に及ばぬと。

◇——世智辛い當世に、幾ら米國でも二億の大金醉狂には注ぎ込まぬ、いはずと知れた「えび鯛」算用、だがサウは問屋で卸さぬとなると、米國たるもの矯でも一考を要す。時なる哉、本年(一九二八年)二三月の交、カナダのブリテイッシュ・コロンビヤ州議會が、同國政府に對して米國からアラスカを買取れといふ大變な建議を提出したと傳へられたが、何しろ問題が問題だ、さう簡單にはネ。

◇——寫眞はアラスカ最古のトレッドウエル金山



(61) プラーグの見本市

◇——本年（一九二八年）三月ごろ、ライプチヒの國際見本市で日本品の評判がよいといふニュースがはいつて氣をよくしてゐる矢先、今度はお隣りのチエッコ・スロヴアキアの首府プラーグから、同じやうな見本市への出品勸誘狀が來た。

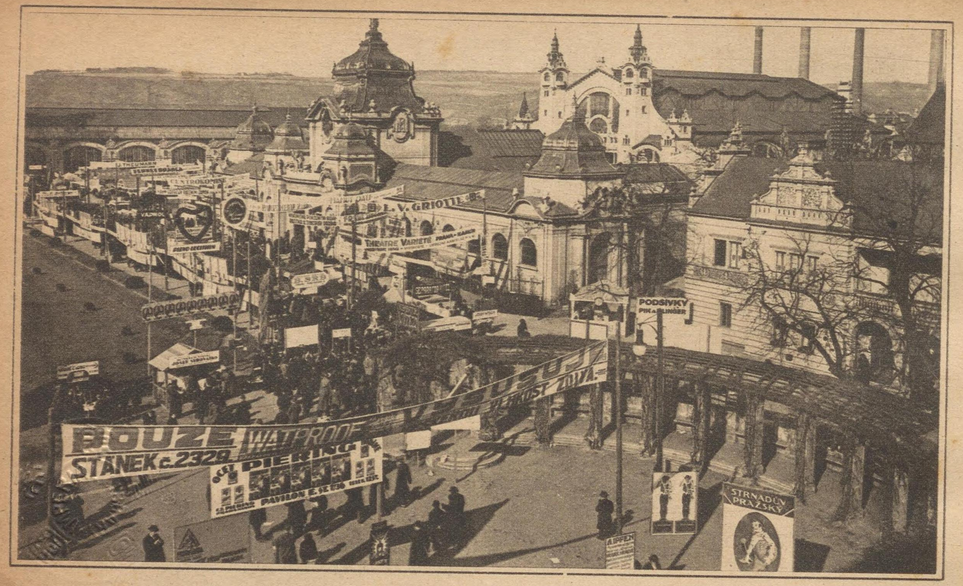
◇——中歐の新興國チエッコ・スロヴアキア——などゝいつても大戰以前の地理を習つた方々には、「フン、あれかゝと首ける人はちよつと少いかも知れぬ、道理やこの國は、歐洲大戰中當時の聯合國が、敵陣擾亂の目的でまき散らした民族自決の好餌を攫んで、それを機會に跳ね上つた發潮の大魚。占むる地域はボヘミア、モラヴイア、南シレジア、スロヴアキアなど、人口千二百餘萬、面積五萬方マイルの共和國である。

◇——產物としてはまづあらゆる種類の鑛物——石炭、鐵、グラフアイト、それに木材、皮革、亞麻等々、貿易總額が三千三百萬クラウン（一九二七年度）で、その內出超が二百萬ばかり。

◇——さてプラーグの見本市だが、春秋二回定期に開かれるもので、昨一九二七年秋の市には、出品人數二千五百人、建築、機械、電機、木工、纖維、小間物、皮革その他ありとある商工品を網羅し、米國などはその一角に堂々の見世を張つて、例の世界一の宣傳に餘念がないといふ。

◇——今秋までにはすばらしく大きな常設陳列場を造るさうだが、萬事宣傳の世の中、我が輸出商なども精々これらの機關を利用して日本商品の眞價を中歐市場に徹底させて貰ひたい。

◇——寫眞はプラーグの見本市



(62) 濠洲聯邦銀行

◇——濠洲の中央銀行コモンウエルス・バンク、諸國の中央銀行が多く株式組織である當世に、これはまた純然たる政府手製の銀行で、一九一一年十二月特別法によつてシドニーに設立され、最初の資本金一百萬ポンド、政府は公債を發行してこれに資いだ。

◇——設立當時の政府の考へでは直ぐにも兌換券を發行させ、政府の機關銀行として國立銀行の實而目を發揮せしめるわけであつたが、百萬ポンドの資本で中央銀行の店は張れぬ、ともすれば市中銀行に押され勝ちと相見えるので、政府もちよいと首をかしげてゐるうちに、

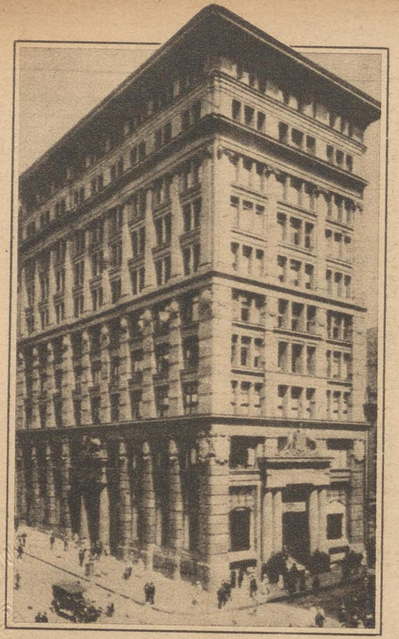
◇——恰も歐洲大戰の勃發に當り、金融組織の變革は好ましくない時勢となつたので、政府はコモンウエルス銀行に讓るべかりし發券權を從前通りその手に保有して自ら戰時金融の衝に當つたが、

◇——戰雲消まつて二年、一九二〇年になると、もう良いころとコモンウエルス銀行條例の改正成り、行内に發券局を設けて政府の發券權を受繼ぎ、こゝにわがコモンウエルス・バンクは漸く名實共に、中央銀行の器量を具へて濠洲銀行界の玉座についた。

◇——さてかうなると問題は資本金、いくら何でも百萬ポンドぢやりくれぬ、そこで一九二四年の議會ではまた條例の再改正、まづ留保利益金の中から四百萬ポンドを崩して之を資金にあて、なほ今後六百萬ポンドの增資公債の發行を認めてくれたが、その後增資もせず、今だに資本金は四百萬ポンド、一九二七年度の利益金は營業部で三十二萬三千ポンド、發券部で五十三萬五千ポンド、利益率は二割以上であるが、さてこの利益金の處分方法如何にと見るに、

◇——營業部利益は行内積立金と國債償却基金へ半額づつ、發券部利益は四分の三が國庫へ、四分の一は銀行の「地方貸出資金」へと、それ〴〵片がついてゆく。

◇——寫眞はコモンウエルス銀行のシドニー本店



(63) イーストマン・コダック

◇——「コダック」といふ言葉は、今日では「手携寫眞機」といふ樣な意味の普通名詞として廣く用ひられてゐるが、元來は一八八八年、イーストマンがその發明にかゝる小形寫眞機につけた商標の名である。

◇——寫眞の種板として現在の乾板が發明されたのは一八七八年で、それ以前の寫眞撮影には色々厄介な道具立が必要で、中々素人の手などには合はなかつたものだ。

◇——そのころ米國ロチエスターに一人の若い銀行員があり、寫眞が好きで、素人相應にその研究にも頭を突込んでゐたが、この新しい乾板に目をつけ一八八一年「イーストマン乾板會社」を設立した。これが今日イーストマンといへば知らぬ人なき寫眞王國の發端である。

◇——しかし乾板が出來てから寫眞術はやゝ簡單にはなつたが、硝子を用ひるので、非常に重いのと壊れ易い缺點があつた。然るに彼イーストマンの願念は寫眞の趣味をもつと一般化し、素人にまでもその技を行わたらせるにあつた。で彼は研究大いにつとめ、先づ種板の硝子に代ふるに紙を用ひてフイルムを造ることを考へ、一八八八年このフイルムを應用していはゆる「コダック」を創製したが、更に翌一八八九年に至り現在の樣なニトロセルローズのフイルムの發明を完成してこゝに寫眞界は全く新しい時代に入り、「鉗一つ押す」ことが殆んど寫眞撮影の全部であるまでに簡易となり輕便となつた。

◇——それかあらぬか、今や寫眞趣味は世界の隅々までも普及し、金はかゝるが上品な趣味深い道樂として猫も杓子も寫眞機のもち方を知らぬものはない、かくしてイーストマンは首尾よくその願望を遂げた譯だが、それと共に彼の事業も著しく發展し、五十年以前小さな店の一室に生れたイーストマン・カンパニーは今や世界各地に幾多の支店販賣店を有し、英國、カナダ、ハンガリー、濠洲等にもそれ〴〵獨立の工場を設くるの盛況にあるが、

◇——中にも誕生地たるニューヨーク州ロチエスターの工場地區はコダック・パークと呼ばれ、總敷地四百エーカー、その從業員七千人に及び、製品はフイルム、寫眞用紙、乾板、寫眞機械、寫眞用藥品等寫眞用具なら何でも御座れ、殊にすさまじいのは、活動寫眞用のフキルムで、年產額十八萬マイル、そのために費す棉花が約五百萬ポンド、感光藥品としての銀の消費は米國造幣局が鑄貨に用ひる量の一割强だといふ。

◇——寫眞はイーストマン・コダック・カンパニー本社(上)とレンズ製造作業(下)

(64) カナダ・サン生命

◇――つい先ごろ（一九二八年三月）墜死した後藤（勇吉）飛行士の保險金問題（保險契約が未完成だつたといふ）で、一切の理窟や法律論を抜きにして、取敢へず弔慰金一萬圓を贈つて大きいところを見せたカナダ・サン生命（サン・ライフ・インシュアランス・カンパニー・オヴ・カナダ）。

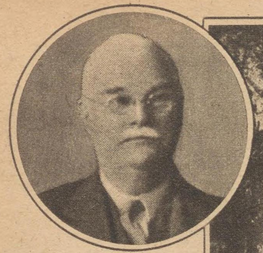
◇――その素性を調べて見ると、一八六五年カナダ議會の協賛を經た特別法によりモントリオルに設立されたもの、發起人は同市の有力實業家連で當初の資本金は百萬弗、後になつて增資はしたが、それでもやつと二百萬弗、ロハで配當を受ける株主數は最小限度に止めておいて、それ以上は相互組織で加入者配當主義により伸びるだけ伸びやうといふ剛巧な寸法、

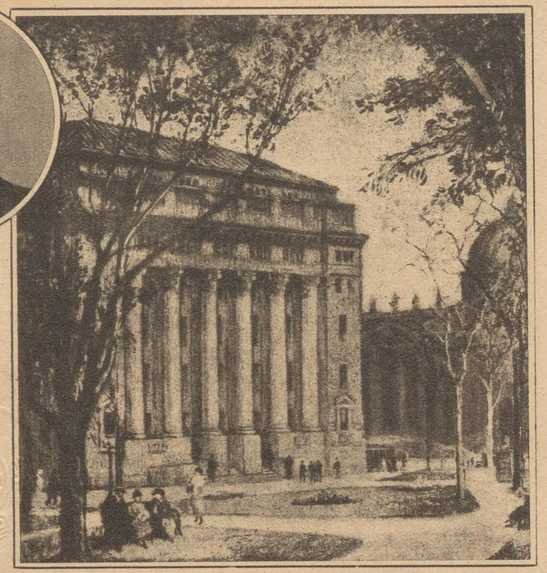
◇――その試みが圖星に當り、日を追ひ年を逐うての發展振り、その營業區域といへば文字通りの全世界で、今や地元のカナダは申すに及ばず、英本國に乘り出しても、これと太刀打の出來る會社はたんとない。

◇――昨一九二七年度の同社記錄によれば、保險契約高實數三億五百七十五萬磅、利益金約八百萬磅で、積立金その他を差引き、三百五十萬磅が加入者配當金として分配され、株主配當はこれが二十分の一に過ぎない。

◇――一八七〇乃至八〇年、頃一ヶ年の契約二百萬磅を超えなかつた時代から契約增加四千七百餘萬磅（昨年度）に及ぶ今日のカナダ・サンへの育ての親といふのが、現社長トーマス・バセット・マコーレーの先代ロバートソン・マコーレーで、英國史を書いて有名なマコーレーの從兄弟だか何だか、とにかく親類になるさうである

◇――寫眞はモントリオルのカナダ・サン生命本社と社長マコーレー氏





日支經濟斷交の産物

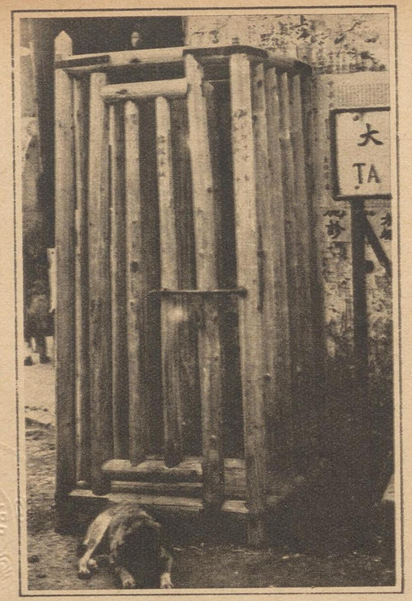
◇——一九二七年六月、わが山東出兵に對する反對運動として起つた上海を中心とする長江一帶の日貨排斥、日支經濟斷交は、從來の例に見ざる周到なる計畫の下に實行されたので、在留邦商等の蹶起運動に拘らず、殆ど五ケ月の長きにわたつて繼續した、尤もこの經濟斷交は南國の經濟的立場からいへば隨分無理があり、現に日本から輸入する石炭、新聞用紙、硝酸、硝石の如きは支那の工業を維持し、戰爭を繼續する上にも缺くべからざる關係にあるので、

◇——これ等の商品に對する日本側の報復については國民軍政府も非常に神經を惱ましてゐた模樣である、實をいへば經濟斷交が支那の經濟的自殺行爲であることぐらゐは支那側自身が十分承知の上のことなのだが、何といつても當時の國民軍にとつて差當り一番必要なものは軍費であつたから、この日支經濟斷交の取締を嚴重にして、その違反者に對する罰金や沒收金の收入を計ふに至つたことも、彼等にとつては懸命な窮餘の一策であつたのだ。

◇——南京政府が、成立以來ありとある種類の不當課稅をそつて誅求止ると ころを知らざりし事實に徵しても、如何にこの新政府が財政的に苦しい立場にあつたかがわかる筈である、殊に上記の罰金、沒收等による金額が五百萬弗に達すれば經濟斷行を打切ると傳へられた如き、ます〳〵日貨排斥と財政難の相剋矛盾から來た窮狀を裏書するものゝやうに思はれる、

◇——しかもこの不合理な經濟斷交がとにも角にもやゝ久しく行はれたゆゑんのものは、要するに艦（違反者を監禁する）の威嚇とピストルの支配とに歸すべきであつて、艦を避けピストルを免れんとするところに、實は豐富な收入の根源に橫はつてゐる譯で、そこがまた政府のつけ目でもあるがいつもダシに使はれる日本の經濟界こそよい面の皮である。

◇——寫眞は商人連を震ひ上らせつゝあるその艦



(66) ユ社の三頭政治

◇――ユー・エス・スチール・コーポレイション（三六回）の紹介中に、重役會長としてのイー・エッチ・ゲイリーの名を擧げておいたが、一九二七年九月、彼ゲイリーの訃報一度傳はるや、この折紙附の奇才を喪ひて、誰か世界的巨大會社統制の最高地位を占めるかは、米國財界はもちろん世界の人々も異常の興味を以て眺めたところである。

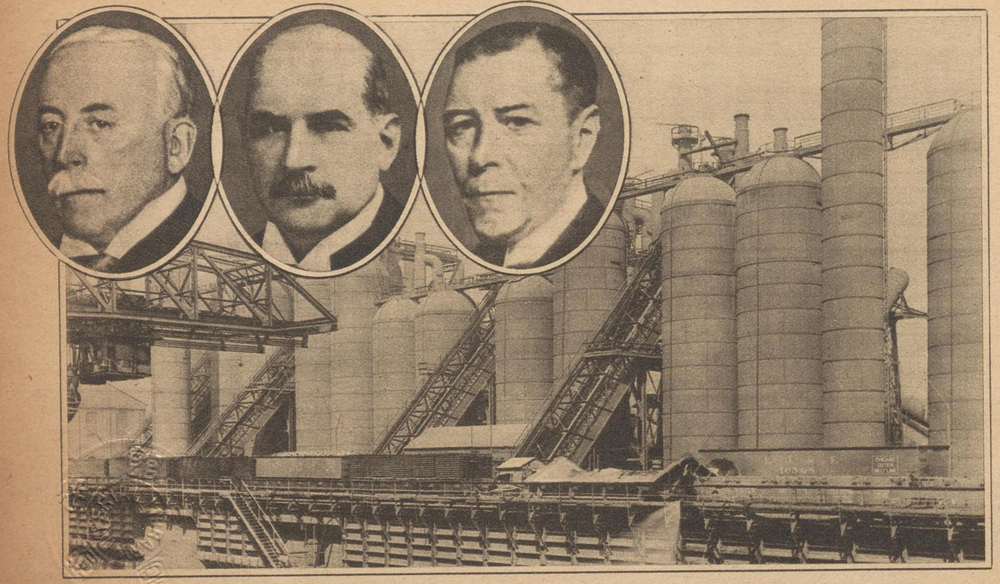
◇――それだけにこの會長後任者の物色は流石多士濟々を誇る米國でも、餘程困難だつたと見え、長らくそのまゝとなつてゐたが、結局ゲイリー程の切れ者は遂に見付からぬか、年改まつた二八年の始め頃漸く以前ゲイリーが一人で引受けてゐた會長の仕事を三分し、これを三人で分擔することになつてケリがついた。しかもこの一人一人がすでに米國實業界における超弩級の連中だから地下のゲイリーも定めし微笑を禁じ得まい。

◇――さてその御歷々の顏觸れは、重役會長として人も知るジエイ・ピー・モルガン、金融委員會長としてエム・シー・テイラー、そして社長はそのまゝジエイ・エイ・ファーレル、但しモルガンは重役會長として名は列ねたが事業の實際に當ることなく、從前通り日蔭役に終始することゝ思はれる。

◇――そも〳〵今日のユー・エス・スチールの如き宏大複雜な事業組織の、しかも實際の仕事を一人で切りまはすことは、既に望む方が無理だといふことは何人も諾するところ、あとに坐つた三人の不名譽などではサラ〳〵ない、殊にこの事業は一九〇一年の創立時代からモルガンのユー・エス・スチールともいふべきもので、それに今更らしく表面に名を出すことは決して彼の本意であるまい、がそこにはまたそれだけの理由もあらう。

◇――何はともあれ、あれほどのユー・エス・スチールも最近下り坂とはいはぬまでも、引合も減少し、利益率も思はしくない季があるとか、一つ三頭政治の御手並を拜見したいものである。

◇――寫眞右よりテイラー、モルガン、ファーレル。



(67) インド帝國銀行

◇——十七世紀の初頭、東印度會社の設立を以て始つた英國の印度經營事業が、二世紀を經た一八三四年、時のベンガル總督ウイリアム・ベンチンク卿の印度總督就任で一段落をつげて以來、更に一世紀、

◇——印度は今でこそ純然たる農業國であり、從つてまた從順なる英帝國の一員に相違ないが、しかもランカシアの好むと好まざるとに拘らず、印度内地の紡績業は年とゝもに隆盛に赴くのが實狀であり、やがて印度とへいども近世經濟の修羅場に踏み入るの止むなしとすれば、今にしてこれを統制し管理すべき整然たる金融組織を作り上げておかねばといふので、昨年の夏、

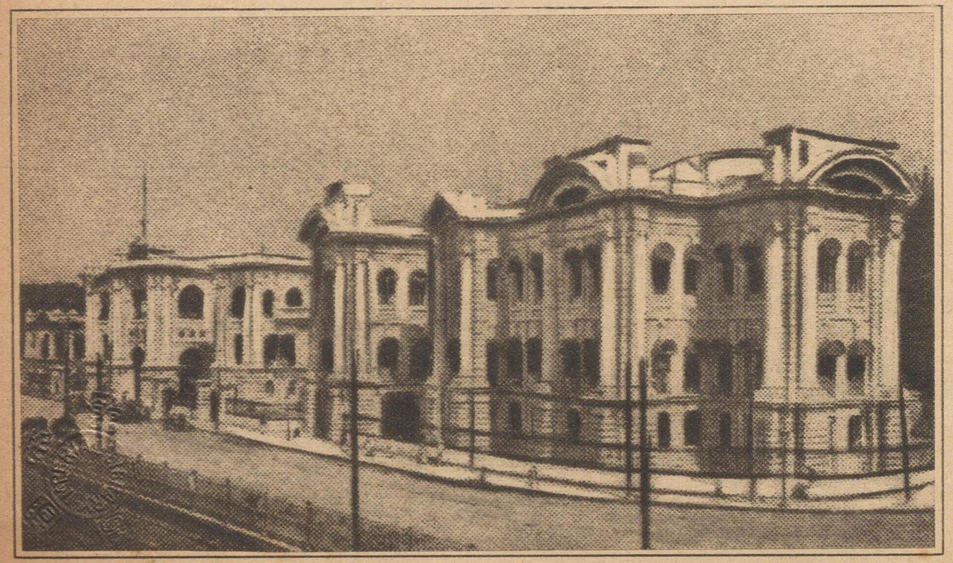
◇——印度政府は從來の機關銀行たる印度帝國銀行（インペリアル・バンク・オヴ・インデイア）とは別に、新たに準備銀行を設立してこれに當らしむべき法律案を、印度議會に提出したが、帝國銀行擁護や、新銀行の組織、主腦者選任の方法その他の難問題でひつかゝり、とう〳〵ものにならなかつた。

◇——印度帝國銀行は一九二〇年ボンベイ、ベンガル、マドラスの各プレジデンシー銀行（州銀行ともいふべきもの）を併せて出來たもので、資本金一億二千二百五十萬ルーピー（半額拂込）、

◇——當時政府との約束といふのが、「銀行の民衆化」の目的で向ふ五年間に百個の支店を增設するといふ頗る振つたものだつたが、一九二六年一月までにその約束も果たし、今では支店數百六十五、發券額こそないが、政府の機關銀行として、また大印度の中央銀行として後指さゝれぬだけの機能を盡してゐる。

◇——尤も計畫されてゐる準備銀行が實現すれば、帝國銀行もやゝ勝手が違つて來るだらうが、その後、倦まざる政府側の努力に拘らず、同法案の通過はまづ覺束ないといふから、當分は帝國銀行萬歳である。

◇——寫眞はカルカッタの印度帝國銀行



(68)

ナイヤガラ發電所

◇——日夜萬丈の水煙にむせびながらエリー湖からオンタリオ湖へ、絶えざる落下を續くる名瀑布ナイヤガラ、みものとしてのナイヤガラは知られ過ぎるほど知られてゐるが、我等のナイヤガラは萬雷の轟きや、沼々たる奔流や、湧き立つ水沫の作り出す美しい虹など、單に「天下の壯觀」として語らるゝナイヤガラではなく、

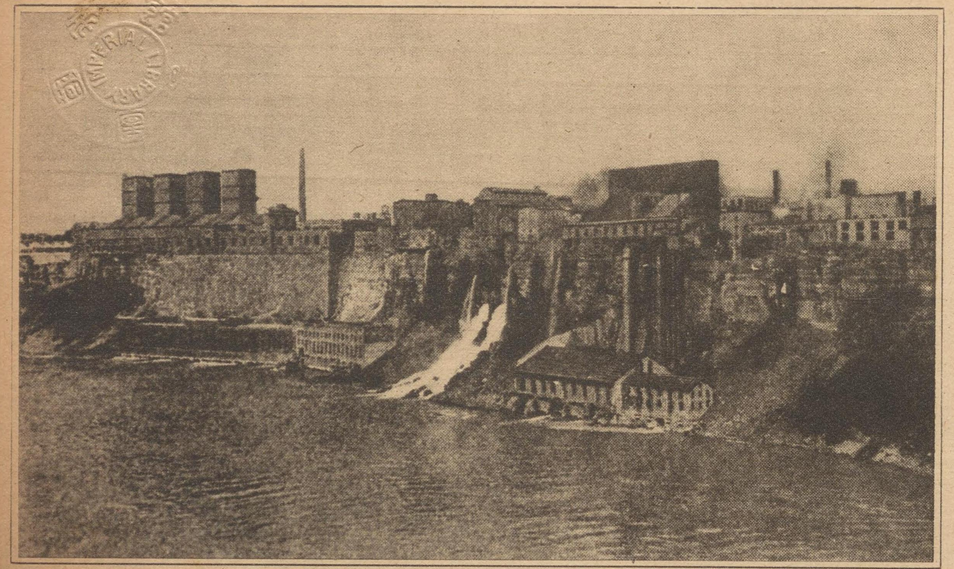
◇——百六十呎の落差と一秒平均二十二萬立方呎の水量とに、五百萬馬力の動力を含むといふ偉大なる力の供給者ナイヤガラである。

◇——この水力は隨分古くから、製材その他の小工業に利用されてゐたと傳はつてゐるが、それが電力となつて現はれたのは一八八一年で、ナイヤガラ瀑布水力會社（ナイヤガラ・フオールス・ハイドローリック・パワー・カンパニー）とかいふのが「水面水路」によつて水流を誘導し、初めて發電したものだといふ。

◇——かうなると米國側からもカナダ側からも、我も我もと發電會社の設立を思ひ立ち、お定りの競願で、赤い目を釣り合つたものであるが、何んぼ世界一の大瀧だとてさう無暗に水を引いてゆかれては折角の美觀が台なしになる、といふので一九〇六年米國ではバートン・アクトなる法律を以て一秒間一萬五千六百立方呎以上の水をナイヤガラから失敬することを罷りならぬと規定した。

◇——これが一九一二年まで續いて來たが、やがて對岸のカナダ側とも相談して、ナイヤガラからとる總水量を一秒五萬六千立方呎に限ることとし以來三萬六千立方呎をカナダへ、殘り二萬立方呎を米國へと仲良く兩方で分けてゐる。

◇——寫眞は今のハイドローリック・パワー會社のナイヤガラ發電所



(69)

資本主義とホテル

◇——一九二七年五月、ジュネーヴで開かれた國際經濟會議は、勞農ロシヤの代表が參加したことだけでも、可成り意議の多いものとされた。首席代表で農業經濟の大家オシンスキー氏は、工業國に對する農業國、大國に對する小國、資本家に對する勞働者の立場から、ルシュール氏の歐洲關稅同盟論に反對し、またジューオー氏の國際經濟事務局案に對しても、第二インターナショナルの手先だとこつぴどくコキ下ろしてゐる。財政通のソコルニコフ氏は『カルテルこそ戰爭の誘因』と楯付き、レブセ氏も『各國はロシアを手本として勞賃を上げろ』と見得を切るなど、

◇——あらゆる機會に、いろ〳〵の問題で茶々を入れたり、會議の大立物を野次つたり、資本主義國代表達のとり濟ましたお上品さとお世辭で沈滯せんとした會議の雰圍氣に時ならぬ波紋を投げた。と思ふ間もなく會議の終るころには今までの强硬な態度をがらりと變へ、アッサリ妥協してニコ〳〵と引上げてしまつた。煙にまかれた世界の人々はロシヤが何の目的でこの會議に參加したのだらうといぶかつた。

◇——或人はやはり赤化宣傳に來たのだといへば、他の人はいや借金の瀨踏みだともいふ。そしてこれを機會に通商提携の色氣を見せに來たと見るのが最も一般に行はれた觀測であつた、當時ロシヤ代表達は記者團の質問に對して答へてゐる。『俺達は資本主義經濟の存在を否定しはしないそれは丁度ジュネーヴのホテルに泊つても勘定だけは異議なく濟ますやうに』。

◇——寫眞はジュネーヴのホテルに到着したロシヤ代表一行、鞄を持つてるのが首席代表のオシンスキー氏。

(70)

ワナメーカー百貨店

◇——一八六一年八月八日、朝六時三十分に、ジョン・ワナメーカーと相棒のナザン・ブラウンがフイラデルフイヤのマクネイル・ビルヂングの一室に、始めて「オーク・ホール」といふ洋服店を開いた、そしてその日の商資を終へた二書年が金函に見出した全收入は二十四弗六十七セントであつたといふ。

◇——このさゝやかな小賣店が、七十年といふさして長からぬ歳月の間に、如何にして米國一の大百貨店、一萬五千人の店員と、一億四千萬ドルの商品と、無數の顧客を有する今日のワナメーカーに成り上つたかは、それぞれ興味を有する人々の自由な探索にまかすとして、

◇——前米國大統領タフトをしていはしむれば「ワナメーカー氏が商店經營の鐵則として創造した▲正札制度▲顧客に對して品質そのまゝの約確な見せ方▲不滿足の品に對する代金返却の方法▲買物品の無料配達及び距離によりては最低の配達賃制度▲費用の節約と能率の增進をはかるための各種商業の集中と共同、すべてこれらの創案と才能とは世界にその比を見ない」さうである。(一九一一年ワナメーカー商店五十年祭での演說)

◇——我々は多分タフトのいふところを信じても大丈夫だらう、そしてまたこの創始者ジョン・ワナメーカーの子として早くから父を助け、父なきあとは、更に各事業に關係して敏腕の名を得たロドマン・ワナメーカーも決して不肖の子でなかつたと考へても間違ひないであらう。このロドマンも一九二八年三月九日六十二歳で死んだ。

◇——寫眞はワナメーカー・ニューヨーク店——兩建築とも

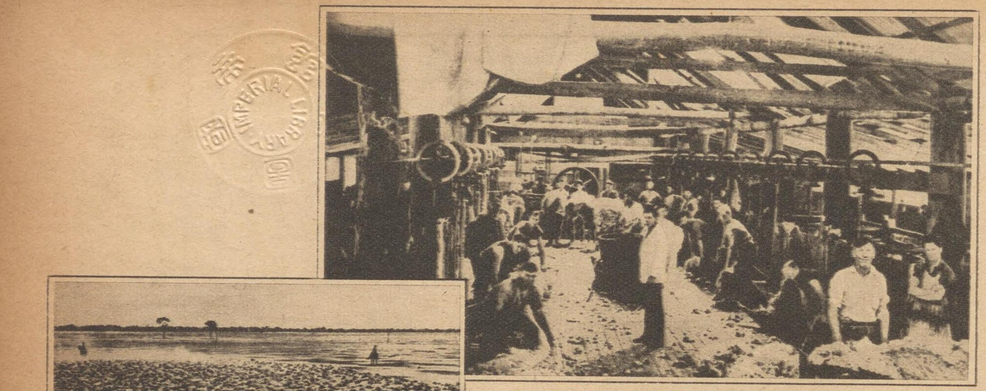
(71) 濠洲と羊毛

◇――大尉のウオーターハウスといふ男が、一七八九年濠洲政府から種羊買入の命を受けて南阿のケイプタウンへ渡つて來た。歷とした軍人の身で羊の買付とは情ないと、先生大分こぼしたさうだが、とに角ゴルドンとかいふ後家さんから買取つた二十九頭のメリノ羊を引率して目出たく濠洲に歸つた。尤も濠洲に入つた最初の羊といふのはこれに先立つ一年の一七八八年に矢張りケイプから來た同地の在來種だといふことだが、少くとも濠洲をして今日世界第一の羊毛國たらしめたものは、この二十餘頭のメリノ羊、殊にマクアーサーなる人の手に渡つた八頭であるといふ。

◇――その後幾多先覺者達の努力によつて、濠洲の地味と氣候が綿羊の飼育に適することが證明せられ、羊種の改良も進めば頭數も殖えた。一七九二年の百五頭から九九年の二千四百餘頭、一八四二年には六百餘萬頭となり、爾來一九〇九年には九千二百萬頭、一九二六年の調査によれば約九千五百萬頭と、元よりその間には幾消長を經驗しながらも絶えざる增殖を續けてゐる。

◇――一九二六年七月から二七年六月に至る最近羊毛年度において濠洲市場で買付けられた羊毛總額は二百四十五萬俵、約七億五千萬封度、この價格貨に五千五百五十萬磅、これだけの羊毛資行のお得意先はどこかと見れば、何といつても先づ親元の英國に指を屈する。お次が佛蘭西、日本、米國、五月蠅い數字は省くとしても、この順序に大體間違ひはなく、これ等輸入國民の身體と、濠洲人のふところとを、共にホツコリ暖めてゐる。

◇――寫眞はニュー・サウス・ウエールスにおける羊毛刈取場(上)と綿羊の群(下)



スエズ運河

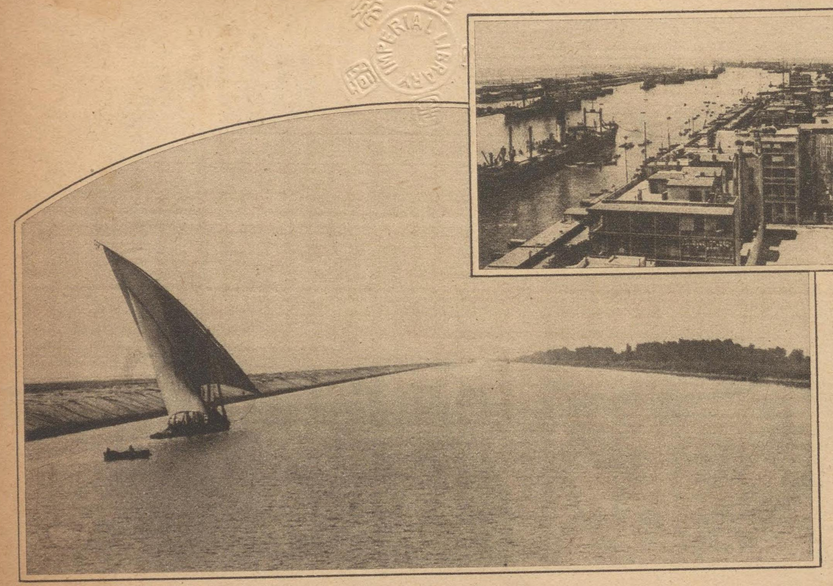
◇――スエズ運河の世界交通經濟上における重要さを今更らしく喋々するほどのもの好きではない。ナポレオン一世が既に一七九八年ごろその開鑿を企てたことや、この計畫も地中海と紅海との水面差が三十フイートもあるといふ測量技師の誤算のため中止されたことや、一八五六年、佛人レセップスの設計が國際委員會に採用され、同年工事に着手してから、一八六九年十一月、運河の完成を見て開通のはこびに至るまで、前後十四ヶ年にわたつて關係者達が經驗した物狂はしいほどの苦勞や、

◇――それからまた地中海岸のポートサイドから紅海岸のスエズまで、四つの湖を連ねた總延長八七哩の間を、現在の如く幅員二二三呎乃至二六二呎、深さ三六呎と、如何なる巨船の通過にも不足しないだけの規模に仕上げた數次の擴張工事のことや、或はこの偉大なる國際的公共事業の主體たるスエズ・キヤナル・カンパニー（スエズ運河會社）の實權が、如何にして英國の手に移つたかといふことなど、スエズ運河の名と共に廣く世間に傳はつてゐる周知の事實についてタド〳〵しい筆を費すこともやめやう、是非お知らせしたい若干の數字記錄を除いては。

◇――運河會社當局の發表によれば昨一九二七年中のスエズ運河通過船舶數は五千五百四十五隻、このトン數合計二千八百九十六萬トンで、過去の最高記錄たる一九二五年の二千六百七十六萬トンを越ゆること二百二十萬トン、この船舶の國籍別は英國船の五七パーセントが第一で、オランダ、ドイツ、フランス、イタリーの順序でこれに次ぐ、しかしてこれだけの船舶によつて輸送された貨物の總量は實に二千九百五十萬トン（乘客數は三十四萬人）で、これまた一九二五年のレコードに比して四百萬トンの增加だといふ。

◇――これ等の數字によつて示される最近における運河利用の漸增傾向は、一方には國際貿易範圍の擴大、その數量增大によるいはゆる「世界經濟」發展の一面を語ると同時に、またスエズ運河自身の價値を瀾が上にも重からしむるものでなければならぬ。

◇――寫眞はスエズ運河とポートサイド港



(73) イル・ド・フランス

◇――イル・ド・フランスは、アーヴル港に根據をおくコンパニー・ゼネラル・トランザトランチック社が大西洋航路に配するため、一九二四年十月から、二七年六月まで約三十一ヶ月を費して建造した世界的最優秀客船である。

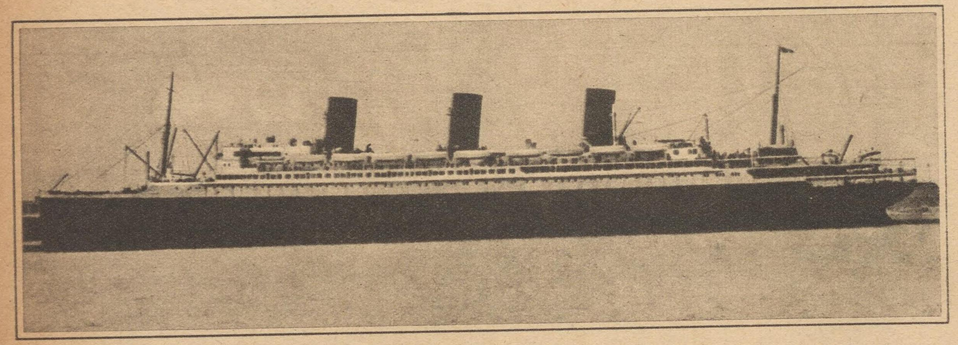
◇――尤も單に屯數からいへば、同船の四萬三千五百屯に對して、五萬九千九百餘屯の『レヴイヤザン』、五萬六千餘屯の『マヂエスチック』、その他『ベレンガリヤ』、『アキタニヤ』など、上には上の巨船があるが、その設備の完全さに至つては『わだつみの末遠くして、行く船の數を知らずといへども、これに過ぐるものなしとかや』

◇――何しろ工藝、美術、この方面には御自慢のフランスが腕によりをかけたゞけあつて、船室の構造、裝飾すべて善つくし美つくして、旅客の贅心を滿足せしむるに間然するところがない。

◇――かくて昨一九二七年六月、イル・ド・フランスがアーヴル、ニューヨーク間に就航するや、北大西洋船客同盟の各社は、同船の優秀設備による旅客吸收力に一大脅威を感じ、遂に各社船を船型、船齢、速力などに應じて一般的に運賃の引下を行ふに至り、おかげで久し振りに『大西洋上運賃競爭の風雲急』を思はせたものである。

◇――しかしコンパニー・ゼネラールではイル・ド・フランスの絶對優越を信じて相手にせず、同盟側も結局は運賃引下の資擔に堪へなかつたので、やがて有耶無耶のうちに歩み寄つて結局元の鞘におさまつたが、さりとは器量よしのイル・ド・フランス孃、トンダ罪作りをしたものだ。

◇――寫眞はイル・ド・フランス



ナシヨナル・シチー銀行

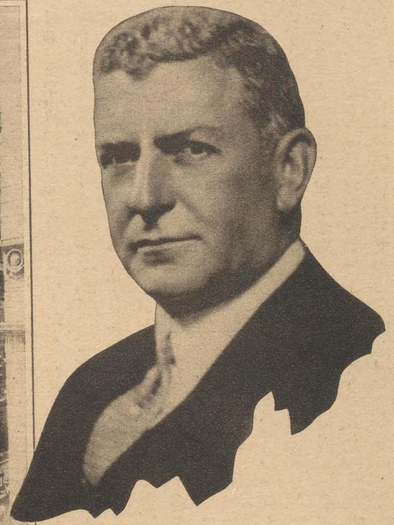
◇——從來世界の三大銀行といへば英國のミツドランド銀行、ロイド銀行、バークレーズ銀行と相場がきまつてゐたが、大戰を境として世界金融の中心がロンドンからニューヨークへと移りつゝある今日、前記の諸銀行が世界最大の地位を米國の銀行へ讓らなければならなくなつたのも蓋し止むを得ぬ勢であらう。

◇——ニューヨークのナシヨナル・シチー銀行は、アメリカが英國の羈絆を脫して自由獨立の宿望を達したその年（一八一二年）に、拂込資本金、タツタ八十萬弗（現在の拂込資本金七千五百萬弗、一九二八年五月には九千萬弗へ增資）を擧して產聲をあげたもので、今では遂に大好きな世界一の稱をかち得た大銀行も、當時は舊オランダ人の農作地にあつて小さな二階を間借し、出納係はこの二階に居住する事を條件として年俸二千五百ドルで我慢させられた。

◇——しかしステイルマン、ヴアンダーリツプ、二代目ステイルマンなど歷代頭取にその人を得て、シチー銀行は漸次順調なる發展を續けて來たが、現在の如き圖拔けた發展をとげたのは現頭取ミツチエル君がこの重職についてからのことだ、ミツチエル君が、繼續驚きから社會への體面上引退した二代目ステイルマンの後を襲ぎ頭取になつた一九二一年には、シチー銀行の預金は五億六千七百萬弗、株の市價は三百ドル、內外支店四十八であつたが、今日では預金はその二倍を超え、（一九二七年十二月末において十二億七千五百萬ドル）株も六百ドル以上を唱へ、支店は實に百以上、しかも世界各地にゆきわたつてゐる。

◇——これだけの變化がタツタ六年間に起つたのだから、シチー銀行の發展振りは、記錄といふものゝあはたゞしく次から次へと破られて行く米國でさへ空前である、そしてミツチエル君はまだ五十前の生氣潑剌たる働き盛りである、以てその非凡の才なることが察しられやう、なほミツチエル君の功績であり、且つシチー銀行をして今日の大をなさしめた一要素は、從來丸持と大會社だけを相手にする殿樣銀行として知られてゐたシチー銀行が、ミツチエル君時代になつて僅か數ドルの預金者に對してすら門戶を開放するまでに民衆的となつて來たことだ、たゞ時々よけいなおヂヨツかいをして國爲替市場に手を出したりするので、さらでだに腰の弱い圓價が益んに上下動を始めて、よく隣邦官民の肝を冷すには閉口する。

◇——寫眞はナシヨナル・シチー銀行とミツチエル氏



(75)

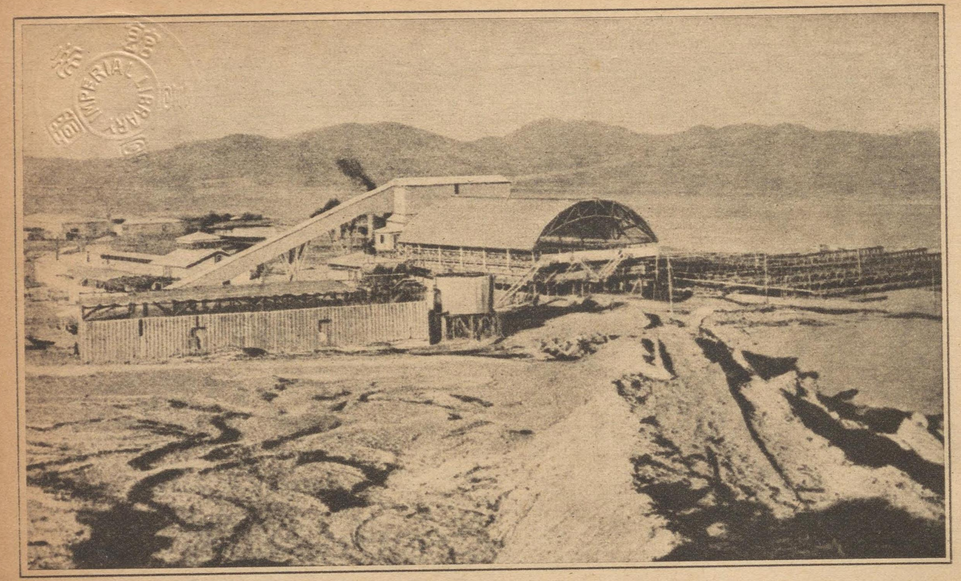
智利と硝石

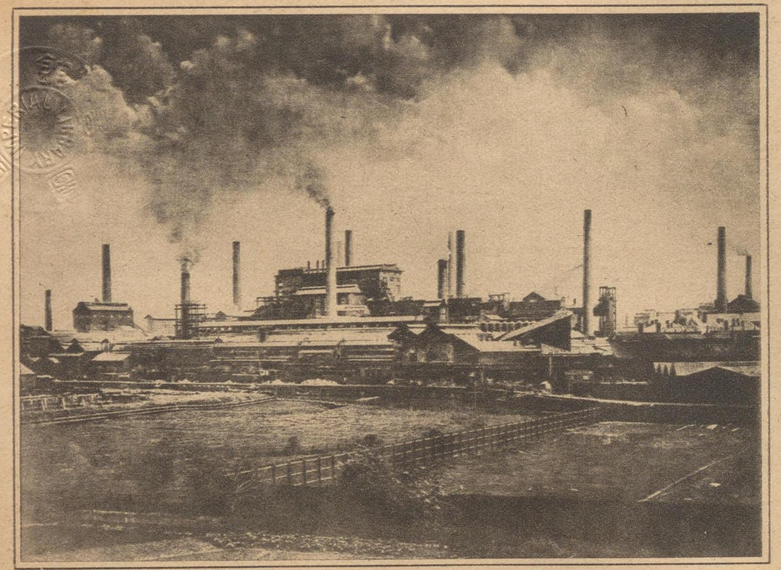
◇――智利硝石の産地は南緯十九度半から二十六度といふ智利でも最北邊、東アンデス山麓より西太平洋岸にわたる山間一帶で、一般に磽确荒蕪、當時物資は勿論飲料水にさへ事缺く僻地にて、硝石の發見される前世紀の末ごろまでは人煙不見の荒野であつたが、今や全世界を通じての硝酸背達供給一手引受所、硝石坑と鐵道と精製工場の勞働者併せて五六萬、彼等をめぐる數十萬の人々、いはゆる「硝石地方」はあらゆる近世的文化施設を備へて遺憾なき工業都市に組立てられた。

◇――だが硝石に養はれるのはこの地方二十幾萬の住人のみではない、年產二百萬屯の智利硝石は、肥料として全世界に配分され、土地を肥し作物を育み、やがては無數の人々を養つてゆく。尤も他面火藥の主要原料である智利硝石は時に幾百萬の貴重な人命を破壞し去つた哀しむべき記錄もないではないが。

◇――智利における發見以來の硝石總生產額累計は、約八千萬屯と計算され世界の硝石消費高を年二百五十萬屯と見込んでも、なほ少くとも今後百年間の供給に耐へるといふ。が併し空中窒素の經濟的工業的採取が漸次具體化しつゝある今日、硝石に對する智利の獨占的地位がさう長く搖がぬとは果して何人か保證し得やう。

◇――寫眞は智利の硝石精製工場





ブラナー・モンド會社

◇——今日のブラナー・モンドは既に完全な獨立會社ではない、一九二七年の英國化學工業界の大合同以來、インペリアル・ケミカル・インダストリーズ（帝國化學工業會社）の一細胞となつてしまつた。が併しブラナー・モンドがこの七千五百萬磅の資本金を擁する新巨大會社の柱石であり、盟主であることは、その社長サー・アルフレッド・モンドが、成立と同時にこの新會社の社長に推された事實が最も雄辯に物語る所であり、從つてブラナー・モンド五十年の歷史は、ブリテイッシュ・ダイスタフ・コーポレイション、ノーベル・インダストリーズ、ユーナイテッド・アルカリ諸會社以下、大小四十會社のそれと相合し、新たにインペリアル・ケミカルの組織要素として、これと共に不斷の發展を續ける譯である。

◇——又例によつて昔話し。一八七二年、當時英國の大化學工業會社ルブランに工場事務長だつたジョーヂ・トムリンソン・ブラナーが、同じく技師長のルードヴイヒ・モンドと組合つて、チエシヤイヤーのウイニングトンへ獨立の曹達工場を起した、チエシヤイヤーの地下三百尺乃至五百尺位に夥しい岩鹽層があつて、これが地下水の浸入を受けて「飽和鹹水」になる、それをポンプで汲み上げれば、原料食鹽が二三シリングで得られるとかで、その上炭田は近し、石灰石も豊富で運輸の便も悪くはない。

◇——この地の利に人の和を併せ得たブラナー・モンドが、一八七五年、曹達灰二千四百屯の初製造から、一九二六年、百二十萬屯の曹達灰及び曹達製品の生產に至る半世紀を通じての經營方針は、徹底的積極策の一語につきる。窒素はじめあらゆる無機化學工業にも手を擴げた、その間內外の市場において幾何の競爭會社をたゝきつぶしたことだらう。或るものは遂に壞滅し去り、或るものは降を軍門に乞ふた。一八九〇年には本家筋のルブランでさへ、ブラナー・モンドの壓迫に堪えかね、反對會社を糾合して、ユーナイテッド・アルカリ會社を設立し、しかもその主力を曹達灰より、硫酸、晒粉等に轉ずるの餘儀なきに至つた樣である。尤も今では當時の吳越相共に、インペリアル・ケミカルのの乎和な一員であるが。

◇——主して硝子原料として本邦曹達灰の消費量は年額約十二三萬屯、進歩するといひながら、今だに國內生產が消費の一割內外に過ぎぬわが工業界のことだから、今後も當分、或はなほ永くブラナー・モンド攻めインペリアル・ケミカルの御尼介になることであらう。

◇——寫眞はインペリアル・ケミカル・インダストリーズ會社（元ブラナー・モンド）のウイニングトン工場

(77)

ソヴイエット農村

◇——今新興ロシアでは今、しきりに「ロシアの工業化」が叫ばれてゐる、いかにドンバスの石炭、バクーの石油、世界の四分の一にわたる大森林を藏してゐやうとも、ロシアの興隆は少なくとも當分は一にかゝつて農村にある。

◇——「ムジーク（百姓）のロシア」といふニツク・ネームがいかに嫌ひでも、一億二千萬デシヤチンの廣大なる耕地面積を有し、その收穫高百五十億五千八百萬ルーブル、内四億一千四百萬ルーブルの農產物輸出國（一九二七年度）たるロシアにとつてはムジーク樣々であらねばならぬ。

◇——穀物を輸出して機械類を仕入れることこそ、ロシアにとつて興隆の最善唯一の道であることは誰しも考へてゐることだが、工業品の製造はロシアではどうも高價につく、それに穀物の價格は戰前の二分の一に下落して、工業品と農作物の價の開きは恰かも鋏の兩刃の如く、所謂鋏型經濟恐慌は依然として續き、今年に入つて農民は穀物の賣惜しみをやり始めて、買付の成績も甚だ上つてゐない。

◇——こゝもするに先走つて「工業化」を夢見る新興ロシアと依然たる百姓ロシア、こゝに矛盾があり、惱みがある。

◇——寫眞は村ソヴイエト（會議）の光景

(78) ゼネラル・モータース

◇——米國自動車の歴史は一八九〇年以來僅か四十年にみたぬが、フオードの「安からう悪からう」政策は一般米國民の所得の增大、流行の月賦販賣法の利用と相まつて、少くとも米國では自動車は既に一部富豪の獨占物ではなくて、完全に民衆のものとなつた。

◇——どこかの樣な貧乏國ではバスの隅つこにちぢこまるか、假令アンゾリ返つても精々國タク級の連中が、日曜には家族同乘の自用車で郊外ドライヴとシヤレこむのが今日の米國である。かくて自動車熱が漸次進行すると「フオード」では駄目だと生意氣をいひ出す。さてこそゼネラル・モータースあたりの高級車に羽が生える結果となる。

◇——ゼネラル・モータースは例のモルガンがデユー・ポンと共同でやつてゐるもので、數個の自動車會社及び附屬品製造會社の一大聯合である。從つてその製品もフオードのフオード型專門と異り、オークランド、カデラック等の高級車から、フオードと似たりよつたりのシボレーに至るまで多樣にあり、近頃は更に自動車以外の製氷裝置や冷藏庫の製造にまで手を延ばしてゐる。

◇——同社一九二六年度の自動車製造高は百二十一萬六千台で、フオードの百四十四萬台に及ばなかつたが、賣上高は後者の七億五千萬ドルに對して十億ドルを唱へ、翌二七年度にはフオードの作業中止（五六回參照）に乘じて約百五十萬台の自動車を市場に送り出した。その結果一九二六年度にあつては一億七千六百萬ドルであつた利益金が、二七年一月より九月に至る九ケ月間で既に一億九千三百萬ドルに達したといふので、これにはさすがの米人も驚いたと見え、ニユーヨーク株式市場におけるゼネラル・モータース株は一度に五ドルもはね上つたと當時の諸新聞は報じてゐた。

◇——寫眞はデトロイトのゼネラル・モータース・ビルデイング

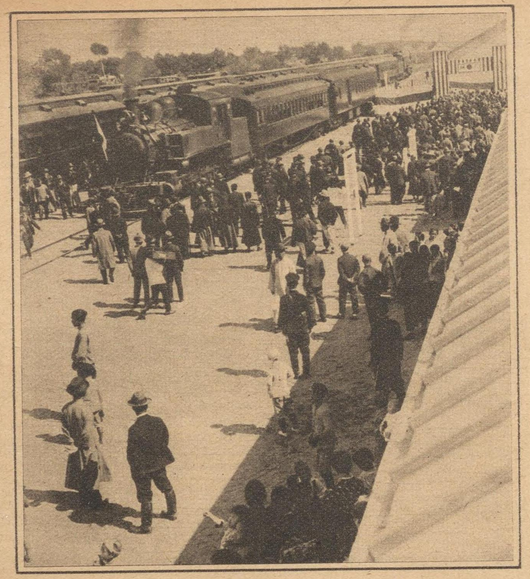
(79) 金福鐵路公司

◇——金福鐵路公司は大正十四年十一月、日支合辨で設立された鐵道會社で、その經營線は滿鐵線金州驛を起點とし、關東州を橫斷して、支那本領と境を接する城子疃驛に至る六十三哩である。滿鐵同樣軌幅四呎八吋の廣軌式で、工費三百七十萬圓を以て大正十五年四月に起工し、昭和二年九月竣工、十月一日より運轉營業を開始したが、同月四日には社長門野重九郎氏來滿の上、州內官民數百名を貔子窩驛に招待して盛大な開通式を擧げた。

◇——尤もまだ創業早々のこゝて貨車や機關車は滿鐵から貸して貰つて一時を凌いでゐる有樣だが、列車は滿鐵線の大連驛より直通、しかも既に一日三往復を運轉してゐる、これで從來馬賊の代名詞みたやうに考へられてゐた貔子窩も、馬賊の代りに鹽や大豆の物產が出廻る樣になるだらうし、州內產業も新鐵道の便で今後大いに發展するこゝ、日支人共にその開通を祝福してゐる。

◇——その上更に東に延びて滿鮮國境の安東に達した曉には安東、大連間は滿鐵線に比して十時間近くも短縮されるので產業交通上の利益はいふまでもないが、現在では夜でないと來ない內地の新聞が朝讀める樣になるこ、殖民地らしい喜びに今からその實現が待ち望まれてゐる。

◇——寫眞は開通式當日の貔子窩驛



ポズナニの歳の市

◇——ペテルスブルグがレーニングラードと變り、クリスチャニアがオスロと呼ばれ、コンスタンチノープルがスタンブルと改まる。歐洲戰前にドイツ領だつた東プロシアの首府ポーゼン市もポーランド領となつて以來ポズナニと改稱された。——そこで大きな歳の市が開かれる。

◇——ロシヤのニジニやドイツのライプチヒや、フランスのリヨンに立つ市場は誰しも知つてゐる古典的なもの。戰爭後にはこれと同じ趣向のものをライン河畔のケルン市がやる。マインの岸のフランクフルト市がやる。東ドイツのケーニヒスベルグ市がやる。オーストリーのウイーン市がやる。チエツコスロヴアキアのプラーグ市がやる(六一頁參照)

◇——これを見てゐた新隣邦のポーランドがドイツ人に衝つく必要上からも默つて見てゐるはずがない。早速ワルシヤワと、それからこのポズナニに競爭的に歳の市を開いたのだ。

◇——が、どうせポーランドの田舍の歳の市だ、そこらの縁日の夜店に毛の生えたぐらゐのもの、など〻思つてゐると見當違ひ、永久的建築の立派な市場館の中に、ぎつちり並べられた紡織品、家具類、建築材料、さては見事な農業機械、モーター、自動車、飛行機等、現代工業の粹を集めた品物のたぐひ數々。

◇——そこらにないともいへない「ポーランドにも自動車が出來るか」など〻尋ねる人は、「日本に電車があるか」と尋ねられて憤慨する資格のない人々で、自動車だつて飛行機だつて、品質の點ではどこにも負けない、その上新興國の意氣が加はつて怜々立派なものが出來る。

◇——尤もこの歳の市なるものは商賣氣半分に宣傳氣半分、少し自分を世間に廣告しやうと思ふ新都會などが、このごろ用ひる流行の方法で、ポズナニの歳の市もこの例にもれず、まへからその用意とあつて市の統計を配る、物産紹介の小册子を送る、色彩の鮮かなビラやポスターを世界各國の大都會へまき散らす、萬里の外にあつてポズナニの歳の市が見られるのも、宣傳の世の中に生れ合せたればこそである。

◇——寫眞はポズナニの歳の市

(81)

サザムプトンの埠頭

◇——ロンドンから船車連絡列車で二時間足らず、マヂエスチックやアキタニアの五萬屯級が横付けになるのがこの埠頭である。いはゞ英國の表玄關、市街地は港からやゝ離れてゐて港の町とも思へぬほど落付きがある、人口八萬。

◇——こゝの船車連絡は旅客の荷物に一切引換券や預り證を出さない。汽車が着いたら、旅客はプラットホームへ夏の蟻道のやうに積下ろされた荷物の中から、勝手に自分のを撰り出して赤帽に渡すのだが、曾て間違の起つたことがないといふ。だがサザムプトンのこの埠頭も早晩不必要になると最近の一英紙がいふ。蓋しアメリカからドシ〳〵大西洋横斷飛行が行はれるやうになるからださうだが、さてさう簡單に行くかな?

◇——寫眞はサザムプトン埠頭

(82) 合衆國分析局

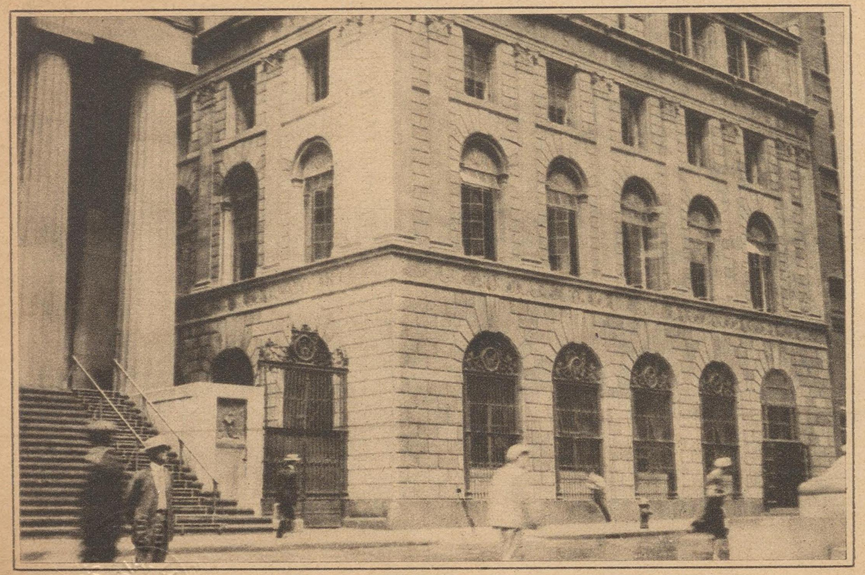
◇——最近の發表（一九二八年三月末現在）によると米國の金保有高は約四十三億ドルで世界總額の半ばを占め、その內約二十億ドルに相當する金は紐育の合衆國分析局に保管されてゐるといふ。

◇——ウオール、ナッサウ兩街の交叉點、元合衆國支金庫であつたドーリック式御影石建築を背負うて、ガウン姿のワシントンが立つてゐるが、この大偉人の銅像を橫目に見てお隣りのウオール街三十番に、終日『弗』の追跡に狂奔する人々を冷然と見送つてゐるがこの『世界の金庫』合衆國分析局である。

◇——その所謂「唸る黃金」の貯藏所は地下約七十尺に及ぶ地下室で、かつこれが上下五階に分れてゐるといふのだから、つまり五層樓のオフイスがそのまゝ地下に埋沒してゐるも同然で一階より三階までは各階一億五千萬弗づゝ、第四、第五兩階は五億弗づゝの金塊收容力があるさうだ、一杯つめても二十億弗にはちと足らぬ樣だが、そこには何かのカラクリもあらう。

◇——その筋のいふ所によると、一フイート四インチ半立方の金塊が百萬弗になるのださうだが、分析局貯藏の金塊は長さ六インチ六分の五、巾三インチ八分の三、厚さ一インチ四分の三の延べ板で一枚八千弗といふことになつてゐて、今は寶石商や貴金屬業者へは金一オンス二十六弗六十七仙の割で月平均四百萬弗づゝこゝから金塊を拂下げてゐる。

◇——寫眞は合衆國分析局



(83) ダーバン・エピソード

◇——一九二八年一月十三日といへばついこの間のこと、東アフリカさつての商港ダーバンの、あまり客種もどうかと思はれる二流カフエーの看下りをブラリとはいつて來た一人の男があつたと思ひたまへ。

◇——カフエーの女將さん、「ヤア入らつしやい」で、よく見るとこれは珍しい東洋日本人、「晝食を食はせろ」とおつしやる。

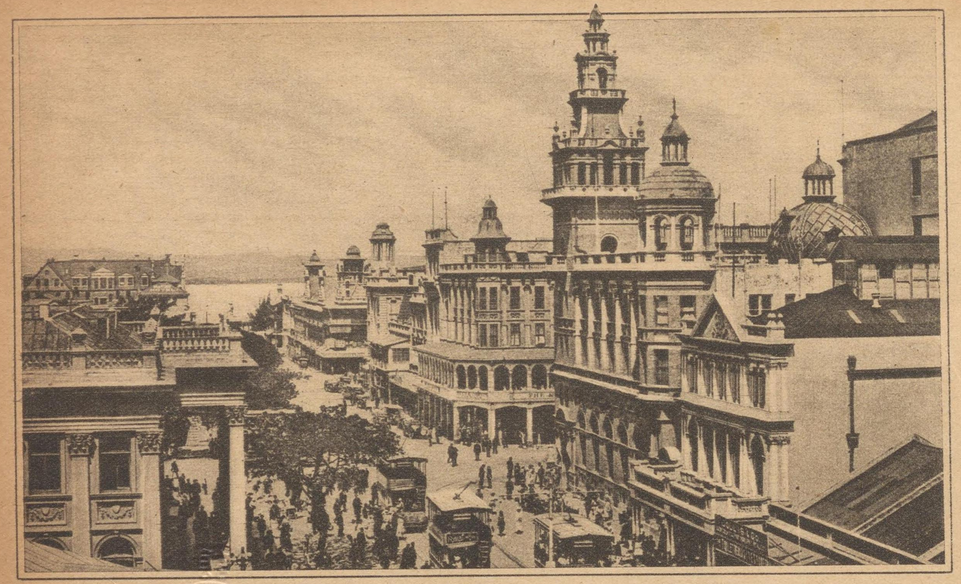
◇——それを見付けた娘のモガがいふことに「お母さん、あれ日本人でせう日本人ならアジア人でせう、アジア人だとしたら……」さうだ、アジア人には一夜の宿、一食の惠みはおろか鼻汁さへウヌカリひつかけられぬが東阿、南阿のしきたりだ、そこで女將さん「料理はもうお仕舞です」と來た。

◇——ムツとした件の日本人、それではお茶とパンを貰ひたいといふ、さすがにパンがないとはいへないので不承無精に出したものゝ、それへ手もつけず前にすえたまゝ小一時間も默つて坐り込まれて見ると、無いといつた料理を他の客に出す譯にもゆかず、困つたのは女將さん、それにこのアジア人の出がけの文句が氣になる、「あれはお前さんの娘かい、以後もつと愼むがよからうぜ、ダーバンではマリンホテルだらうが、ローヤルホテルだらうが、今では決して日本人を差別待遇はしないからね」。

◇——その日の新聞に「日本人船長に對して無禮を働いた小カフエー」といふ記事が出た。日本人がアジア人である以上カフエの扱ひ方は仕方がないとする當然論や、それは怪しからぬといふ憤慨論が相繼いで集つた、やがてその日本人船長の聲明書まで發表される騒になつたが、さてそこで……

◇——あれが日本の大阪商船會社が二年前から開始したアメリカ航路カナダ丸の船長で、東南阿の人種的偏見除去に苦心した森勝衛氏だつたのか、濟まぬことをしたと、かの女將さん、思つたかどうか。

◇——寫眞はダーバンの街



(84) コントアール・デスコント銀行

◇——コントアール・デスコント銀行は佛蘭西有數の預金銀行で、設立されたのは一八四八年、時あたかも第二次革命の直後で、巴里におけるあらゆる金融機關は休息し盡して利用する方法なく、何によつてその財政を支へて行くかは、基礎なき薄弱な革命政府にとつて死活の問題であつた、中央銀行としての佛蘭西銀行はあるにはあるが鼻息が馬鹿に荒く、後年普佛戰爭後成立した新政府の貸上命令に對して、總裁キュウイーが「佛蘭西銀行は政府の奴隷に非ず」と叫んだ意氣と矜持とは當時からもつてゐたと見えて、到底革命政府の手に負えず、結局政府の手で新たに銀行を設立し、之によつて財政上の危機を辛くも脫し得たのがこのコントアール・ナショナル・デスコント・ド・パリである。

◇——最初の資本金は二千萬フランで大部分は政府とパリ市が保證し、一般から募集したのはその三分の一に過ぎなかつたが、一八五四年政府筋との關係を斷つて純然たる株式組織となり、主として當時大流行となつてゐた鐵道事業の金融方面に活動し、一八七三年と一八八二年兩度の恐慌も不思議に無傷で押し通した。

◇——所が內面的にはこの時既にヒビがはいつてゐたのか、一金物會社の蹉跌が動機で、遂にボロを出すに至り、さしづめフランスにおける台灣銀行といふ格で、一億四千萬フランの台灣融資ならぬコントアール融資をフランス銀行始めパリの大銀行に仰いだが、それも瞬く間に取付けられて止むなく店を閉ぢてしまつた、しかし當時のフランス人は、金融恐慌時分の日本人より氣が短かつたと見えて、一週間も經つときれいに整理が出來、改めて資本金四千萬フラン生額拂込の新銀行が同じ名稱で更生した。

◇——それ以來經營宜しきを得て發展頗る順調に、一九一九年には紐育のナショナル・バンク・オヴ・コンマース、ボストンのファースト・ナショナル・バンクと共に佛米銀行を設立し、祖國復興のために寄與する所甚だ多い。一九二六年末における預金額は三十九億五千萬フラン、同年度の純益四千一百萬フラン、配當は一割四分といふ成績である。

◇——寫眞はコントアール・デスコント銀行

(85) マガヂ曹達湖

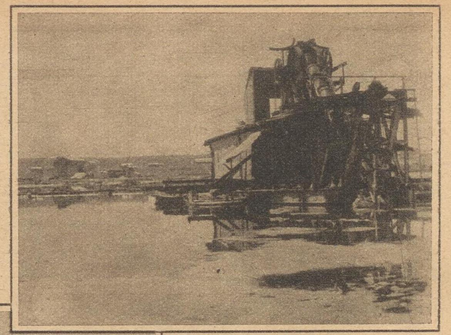
◇——アフリカ大陸の東部、近ごろ日本でも時々口にされるやうになつて來た所謂東阿に、英領ケニヤ植民地がある。このケニヤ植民地の南端、タンガニカ領に近いマガヂと名付くる湖こそは、實に正銘まがひなき、ろづし世の不思議である。

◇——人々は長さ十二哩、幅三哩、面積三十平方哩にわたるこの湖が、ピンク、青及び白に一面着色されてゐるのを見る。湖水全體が天然曹達の結晶に蔽はれてゐるからだ。このマガヂ湖の天然曹達埋藏量は、約二億屯と推算されてゐるが、一度これを採堀すれば、直に水がその空間に流れ込んで、いつの間にか又元通り結晶するといふのだから、これこそ文字通り汲めども盡きぬ曹達の泉なのである。

◇——如何なる作用で湖水が曹達に結晶するかの化學的說明は、こゝでは御免蒙るが、現在この寶庫の鍵が英國のブラナー・モンド(最近大合併の結果イムペリアル・ケミカル・インダストリーズとなる、七六回參照)に握られてゐることは、日本でも曾く知られてゐる。もつとも、表向きには天然曹達マガヂ會社の名において經營されてはゐるが、先年この兩社が世界市場で激しい競爭をやつた後、マガヂ社が破綻に瀕するに至つて、ブラナー・モンド社がこのマガヂ社を買收し、その實權を握つてしまつた。しかし何分にも土地が僻邊にあるので、設備や運輸に制限せられ、只今のところこの寶庫の採掘量は一ヶ月四千屯を限度とするらしい。

◇——それにしても、曹達はあらゆる化學工業に缺くことのできない原料である。各國ともに曹達工業には心を碎いてゐる有樣で、我國でも歐洲大戰中一時日本がつきかけたが、戰後多くの化學工業會社が沒落の悲運に臨み、今では日本曹達工業と旭硝子の二社が、外國品、殊にこのマガヂの天然曹達の競爭に對して孤塁を守つてゐるといふ形である。かくてマガヂ曹達の我國へ輸入される量は可成りの多額に上り、最近においては一年に四萬屯近く、金額にして十六、七萬㍀(百六、七十萬圓)に上り、マガヂ全產額(五萬屯內外)の約八割を占めてゐる。つまり日本はマガヂ曹達の最もよいお得意樣といふわけ。大阪商船會社が東阿定期航路を營んでゐるのも、主としてこのマガヂの曹達とウガンダの棉があるためである。

◇——寫眞はマガヂ湖と湖畔の曹達採掘工場



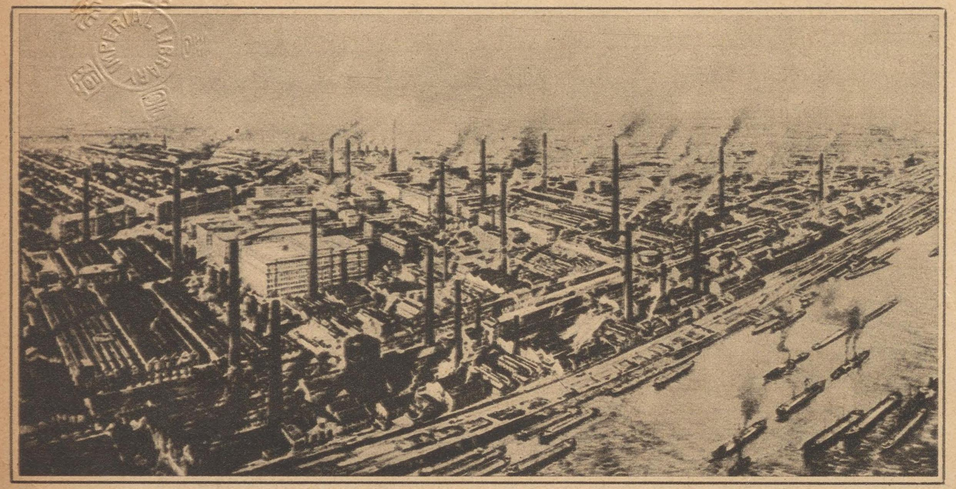
(86)

獨逸の窒素工業

◇——最近肥料年度中（一九二六年七月——二七年六月）、獨乙における窒素肥料の總產額は、含有純窒素分を計算して約五十八萬六千屯で、世界窒素產額の四割三分に當るが、その內四十一萬五千屯、石灰窒素七萬屯、硝酸石灰六萬屯、硝酸曹達硫安が一萬五千屯、その他約二萬屯となつてゐる、硫安の含有窒素は二十パーセントであるから、硫安總量は二百萬屯以上となる譯、この三割近くが海外へ輸出されるが、日本へ來るのは二十萬屯內外である。

◇——これ等窒素肥料の販賣は各窒素會社の組織する窒素シンヂケートの獨占になつてゐて、我が肥料市場などもその氣まぐれな賣値政策には大分弱つてゐる、本邦でも政友會政府は昭和二年四月組閣以來、肥料政策の確立には大分力瘤を入れ、肥料調査會あたりでこうから原案をひねくり廻して、一時は今にも肥料管理を始めさうな鼻息であつたが、その後久しく音沙汰がない、何といつても肥料政策の根本は如何にして我が肥料工業を獨立せしむるかにある、專賣か管理かなどは要するに枝葉の問題だ、幾らふん張つても自給自足が出來ず、獨乙肥料などに牛耳られてゐる現狀では、彼に比して原價の點で競爭が出來やうが出來まいがそんなことは問題にならぬ、現に我國產硫安も獨安につれて百二三十圓を唱へてゐるが原價は話にならぬほど安くなつてゐるといふ、第一ハーバー法の特許を握りながら、自ら製造するでもなく獨乙から輸入して特許料を貪つてゐる樣な不心得者のある我が肥料界である。

◇——寫眞は獨乙最大の窒素工業會社バディッシュ・アニリン・ソーダ會社のルードウイグスハーフエン工場



(87)

シカゴの勸工場

◇――勸工場などいふ言葉はすつかり世間から忘れられてしまつたらしく久しく打絶えて耳にしないが、ひと頃は隨分方々にもて囃されたもので、まづ今日の公設市場から、幾分か所臭味を抜き去つたものと思へば大體間違ひない。

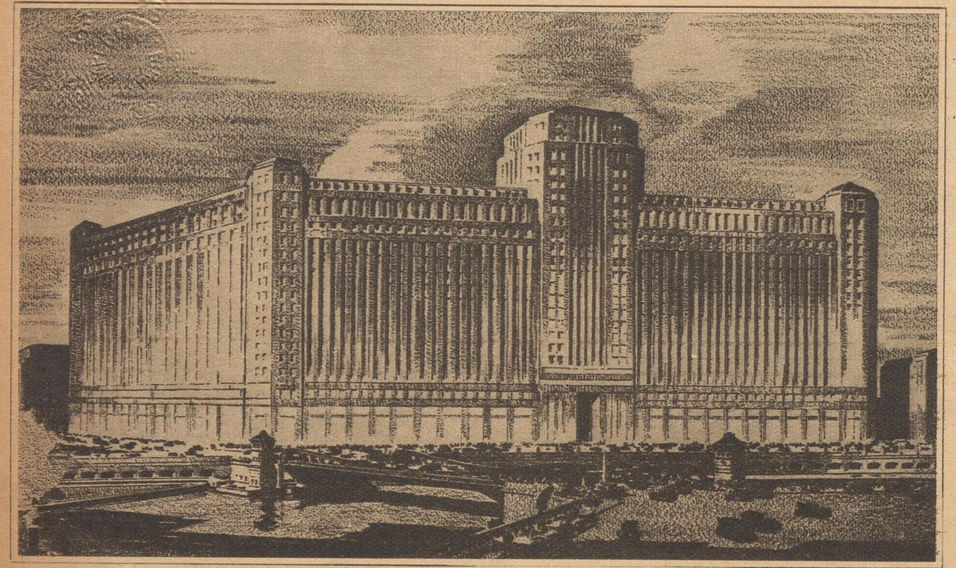
◇――その勸工場がシカゴに出來るといふ、しかも素晴しく大きな規模で。たゞ以前の勸工場にゆづく趣きの變つてゐるのは、出品陳列人は主に製造業者または卸賣業者、輸入商等でお客は小賣商人だといふ點にある、

◇――尤もまだ出來上つた譯ではなく、「やがて工事に着手するはず」といふのだからあまり具體的には說明出來ないが、一應その計畫を紹介すれば、

◇――敷地は元のシカゴ・エンド・ノースウエスターン鐵道の停車場跡で、正面はシカゴ川に面する五七七呎、後はキンジー街に副ふ七二四呎、左側がウエルス街で三二四呎、右側のフランクリン街に面する方は斜になつてゐて、ちよつと計算が面倒だが、とにかくこれだけの敷地の上に十八階乃至二十三階の建築をしやうといふのだから、床面總面積は四百萬平方呎に達する。その工事費は三千萬弗の見積りださうな。

◇――シカゴ・エンド・ノースウエスターン鐵道はこの建物內に停車場を造つて貨物の出入に便するといふし、お客たる小賣商人の利便のためにはあらゆる設備を備へるといふので、マーシャル・フイールド百貨店の卸賣製造部の如きは、既に店借の申込をしたさうだから、落成の曉には世界中の國々から千種萬樣の大小商品がこの大勸工場の各階に充ち滿つるであらうとは、發起人の宣傳そのまゝである。

◇――寫眞はシカゴ勸工場〈マーチヤンダイズ・マート〉の豫想圖



(88)

ドレスデン銀行

◇近江銀行といつても近江になければならぬ譯ではない、現に昭和二年の恐慌前までその本店は大阪は淡路町に、堂々の店舗を張つてゐたものだ、だからドレスデン銀行だつて必ずしもドレスデンにある必要はあるまい。

◇――ドレスデン銀行は一八七二年に産聲を擧げた一所は正にドレスデン市、しかるに一八八一年ベリルンに支店を設けて仕事を始めて見ると、すべて商賣は場所次第、萬事此處の方が好都合、それぢやエ一層のことベルリンを本店にしやうぢやないかといふことになり、移轉の年月は聞きもらしたが、兎に角今ではベルリンが總本店、さてこそドレスデン銀行必ずしもドレスデンに在らざるゆゑんである。

◇――その後確かな證據はないが、業務は駸々乎として發展してゐたに違ひない――といふのは、一九一四年大戰開始以來戰時戰後を通して、ドイツ銀行界には合同や買收が盛んに行はれたが、その氣運に乘じたドレスデン銀行、買收したのがライン・ウエストファリア割引會社、メルキッシエ銀行、デーベルナー銀行、チュイスブルグのヒルガー商店など、それから更にドイツ南米銀行の設立に參じたり、ドイツ東洋銀行に出資したり。

◇――一九二三年末における資本金が當時の金にして九億七千五百萬マルク、素晴らしい巨資だと驚いてゐるうち、翌年になつてドイツ財界一齊に從來の紙幣マルクから新しく出たライヒスマルクに乘替へた結果、この資本金も一割にして七千八百萬マルクとドカ落ちしたが、これは要するに數字の問題、一九二六年九月、一億マルクへの增資を決して、新株を募つて見ると、忽ちにして二割のプレミアムがついたといふから、まだそこらのフラ〳〵銀行とは譯が違ふ。

◇　寫眞はドレスデン銀行本店

(89)

山東苦力の滿洲移住

◇——山東苦力の滿洲移住は年々增加の勢を示しつゝあるが、特に最近においては單なる出稼ぎでなく、永く安住の地を求むべく關を出づるものが多くなつた、而してこれらの移民の激增は將來の南北滿洲に向つて幾多の社會問題經濟問題の謎を投げかけつゝある。絶間なき軍閥の內亂騷ぎ、其當然の結果たる苛斂誅求！、極度に搾取されて住むに所なく食ふに食なき山東直隸の民草が、如何に戰禍に泣き兵火に怯えてゐるかを思へ。

◇——鄉土を追はれて滿洲へ滿洲へと一家を擧げて千里の道を辿るのも（多くは徒步で、或るものは汽船の甲板に臥し、最上のものゝ雖も無蓋列車の乘客に過ぎない）唯生きんがための最後の手段なのだ、何と悲壯な移住ではないか。政府の補助金を戴いて出かけるごこやらのブラジル移住なぞゝは話が違ふ。たゞ問題は百萬からのこれ等の移住民を受け入れた北滿の未開地が將來ごうなるかといふことである。この人口增加のために北滿の原野が漸次開發されて行くことしたら或は喜ぶべき現象かも知れない、だがあの通り政治關係の複雜した滿蒙のことだけに將來種々の社會問題、政治問題を惹起すべき可能性十分で、その前途には幾多の暗影が橫はつてゐることは爭はれぬ事實であらう。

◇——寫眞は乳飮兒や幼兒をつれて移住する山東苦力の家族

(90) 借金て港の裝飾

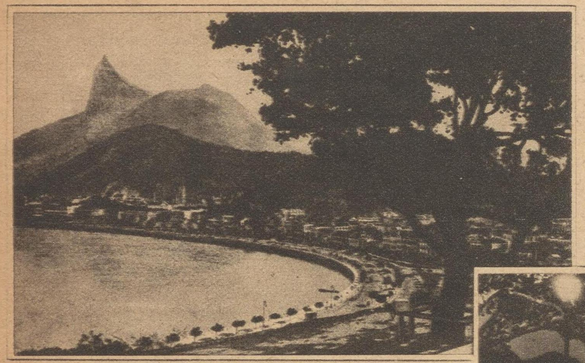
◇——香港、シドニーと並んで世界三大美港と稱せらるゝ南米ブラジルの首都リオ・デ・ジヤネイロ、綠滴たる森と山とを背景に、長汀曲浦を抱き込んで、新文化の粹を集めた街々のたゝずまゐ、海濱に沿ふ坦々の舖道は他所で二ヶ月の自動車タイヤの壽命を二倍足らずに延べるといふ。

◇——南米はダラシのない新家庭である、玄關だけは立派だが裏へまわるとカラ見ばえがしない、ブラジルにしてもリオ・デ・ジヤネイロその他二三都市こそ近代的美觀を誇つてゐるが、足一歩これを出れば、たゞ茫々たる大草原、そのくせにまた無暗に見榮を張りたがる、しかもそれが殆んど例外なしに借金してのいはゞ虛榮だから恐れ入る。

◇——その一例が寫眞に見る樣なリオ・デ・ジヤネイロ港の夜の飾りであるが、この電燈料が一ヶ月邦貨十數萬圓、しかもこれに點燈してゐる電燈會社が英國の資本によつて經營されてゐるのだから、月十數萬圓は結局英國へと大西洋を横ぎる譯、かくしてブラジルは貿易では連年出超の地位にありながら、その國際貨借は借金が殖える一方だ。

◇——だが何といつても南米は未來の國である、珈琲が出來る、肉類が出る、小麥もとれる、棉も有望だ、借金をしても返すめどがある、何を見返りに借金するか分らぬ樣な借金をしてゐる國さへ東の方にはある時勢ではないか。

◇——寫眞はリオ・デ・ジヤネイロ港(上)とその夜景(下)



(91)

カーブ・マーケット

◇——紐育には正式の紐育株式取引所以外にカーブ・マーケットと稱するものがある、これはやはり一種の取引所であるが、取引所といつても數年前まではウオール街と交叉するブロード街の青天井の下に行はれた街頭市場でその取引は朝八時に始まつて夜六時まで、暗くなつて振る手も相手の顏も分らなくなると、フイフス・アヴエニユ・ホテルの麓下に移つた。

◇——この街頭仲買人の一團が一九一一年にカーブ・マーケット協會を組織しウオール街にほど遠からぬトリニテイプレイスに工費三百萬圓の模城を新築し、一九二二年戸外からそこへ引越した、それ以來赤いキヤツプや青い中折を被つた血眼の手合が、雲霞の如く街頭に集まつて三買四賣の手を振る紐育名物の、あの珍しい光景がなくなつた譯である、現在ウオール街に時めく金融業者や仲買の中にも、昔この街頭市場で幸運のクヂを引き當てた連中が多い、二代目モルガンがインターナショナル・マーカンタイル・マリーン株で巨萬の富をせしめたのも此處だ、その他數多く、野心に燃えた人々の夢が一夜にしてこゝ街頭マーケットで實現せられたものである。

◇——取引所で建つ相場の動きを睨けて、場外で單なる空取引を行ふことはどこの國でも御法度で、我國でもその取締には餘分手こずつてゐるが、カーブ・マーケットは正式の取引所でこそなけれ、そんなものとは筋合が違ふ。第一カーブ・マーケットでは紐育株式取引所に上場されてゐる證券は一切取扱はぬ、擧ろこゝでは各種の株式なり債券に、十分の箔がつき、眞打となつて正式取引所の檜舞台に上るまでの前座をつとめさせることにその重要な機能がある、ユー・エス・スチール、ゼネラル・モータース、デイユポン、インターナショナル・マーカンタイル、さてはアナコンダなど、今を時めく一流株も初めはこのカーブ・マーケットで揉みに揉まれた末、紐育株取に拾ひ上げられたものだ。

◇——カーブ・マーケット最近一年の取組株數一億二千五百萬株、債券出來高五億五千萬弗、上場銘柄は一九二七年三月の調べによると工業株七二九鑛業株一四九、石油株一二七、國内債二三九、外債七八で權利株も盛んに取引されるが、取引方法は紐育株式取引所と大同小異である。

◇——寫眞はカーブ・マーケットの建物

IMPERIAL LIBRARY

(92) ダリ・バンク

◇——ダリ・バンクはロシヤ語だが、譯して極東銀行といふ。ロシヤの革命とともに自然消滅に歸した露支合辦の『露支銀行』の再現とも見るべきもので、その主目的も矢張りソヴイエット・ロシヤと支那との經濟的結合の助長にあるが、更らに進んで滿洲と支那各地間の貿易金融にも參與すれば、蒙古と支那及び滿蒙と世界各地、殊に東洋諸國との連絡もとる。

◇——その本店がハルビンに始めて設立されたのは一九二三年七月で、次いで滿洲里、ハイラル、クルガン、上海、天津、北京及びわが神戸などに支店を設け、業務發展のテンポは實に目さましいものがある。

◇——その金融上の活動として一九二四年度から二七年までに日本、中部支那、西歐などに向け一億一千萬圓からの滿蒙產物を輸出したといふし、またハルビン、フーチヤテンの主なる製油會社の七割五分及びその他製粉、製糖會社の大部分がダリ・バンクに資金を仰いでゐる。

◇——貸借對照表を一覽すれば、一九二四年一月一日の資產總計二百五十萬圓が一九二八年一月一日には四千四百三十萬圓となり、營業總額は一九二四年度の四億八千二百四十萬圓から、一九二八年度には二十五億圓にと大發展してゐる。

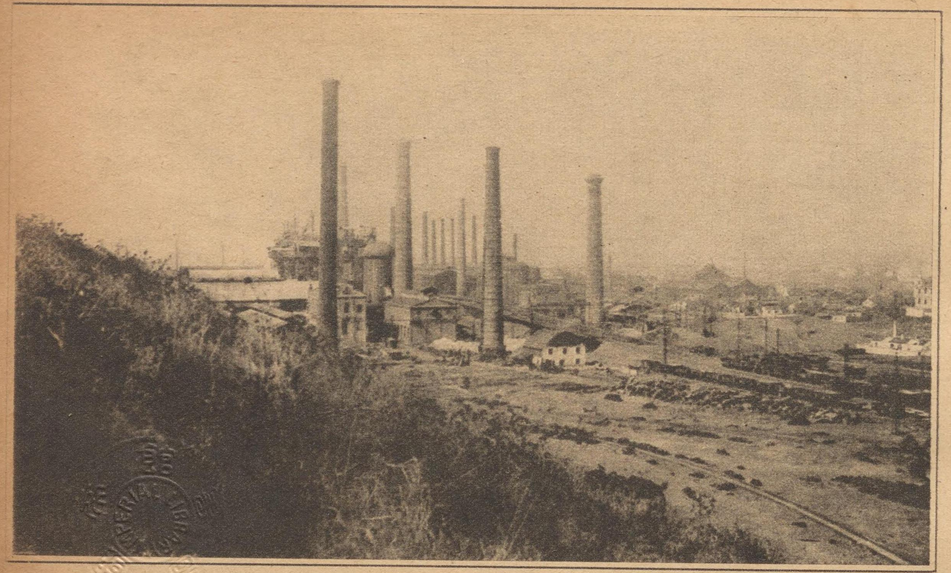
◇——一九二八年一月一日の資本金及び準備金は四百二十九萬圓、同行預金の主要部分を占むるものに東支鐵道の預金があることも記憶しておく必要がある。尤も東支鐵道も近頃は、支那側の壓迫が甚しく、ダリ・バンクもそのトバッチリで、大部迷惑も受けてゐるやうだが、この大きな得意を掴まへてゐることは、何といつても同行最大の强味である。

◇——寫眞はハルビンのダリ・バンク本支と頭取ボリスキン氏

漢陽製鐵廠

◇ 漢陽製鐵廠は大冶鐵山、萍鄉炭坑と共に、漢冶萍公司の三大事業の一で、張之洞の大冶鐵山發見に後るゝこと二年、一八九二年の創設にかゝり一八九四年八月から開業したが、資金缺乏のため張總督はドイツより借款をなし、獨人を聘してその技師とした。張之洞が經營に行詰つてこれを盛宣懷に讓渡したのが一八九六年で爾來今日に及んでゐる。同廠は漢口の對岸漢陽の大別山下にあり、今日では公稱資本三千萬元の株式會社で、熔鑛爐四基、三百屯一基、百五十屯三基を有す。さきの武漢革命に際して兩車の接戰場となつたゝめ一時中止のやむなきに至り、一日修理の上再開したが幾許ならずしてまた〳〵經營上の蹉跌を來し、製造を中止してからもはや一年以上になる。

◇ 一方國民政府は武漢移轉と共に大工業國營の趣旨の下に、逸早く漢冶萍公司に着服し、同公司における官僚の腐敗、途に工人を制御することの不可能を理由とし、一九二七年三月整理委員會を創設して政府の管理を議決し、同公司の全財產を接管、引繼き管理の意することを發表した。しかし以前の取極めにおいて「公司を沒收せず、日本資本家の同意なくして國有とせず」との一項があるので、それが沒收であるや單純なる監督であるやが主要の論點となつたが、

◇ とに角日本としては既に五千萬圓の資本を投下せる同公司が經營難を訴へ、借款に亞ぐに借款を以てする事實に徵し、これをどう解決すべきかは重大なる問題であつて、恐らくは我長江政策のテスト・ケースとして考量されてゐるものと思はれる。その將來果して如何？

◇ 寫眞は漢陽製鐵廠